

令和5年度
障害者芸術文化活動
普及支援事業報告書

障害者芸術文化活動普及支援事業報告書

障害者芸術文化活動
普及支援事業報告書

令和5年度

2024年3月

令和5年度

障害者芸術文化活動
普及支援事業報告書

はじめに

「障害者芸術文化活動普及支援事業」は、2017（平成29）年度からスタートし、今年度で7年目の実施となりました。

今年度、本事業を実施する「障害者芸術文化活動支援センター（以下、支援センター）」は44ヶ所、それら支援センターをブロック単位でサポートする「障害者芸術文化活動広域支援センター（以下、広域センター）」は7ヶ所で展開しました。

長く続いたコロナ禍もようやく落ち着き始め、2023年（令和5年度）は多様な参加方法の一つとしてオンラインを残しつつ、対面を中心としたさまざまな取り組みが実施されました。

本書では、全国の支援センターの今年度のいち押しの取り組みを「pick up」という形で紹介するとともに、広域センターや連携事務局の取り組み等を紹介しています。本書を通じて、本事業を知っていただくきっかけになるとともに、各地での障害のある人の芸術文化活動支援の参考になれば幸いです。

最後になりましたが、本書の発行にご協力をいただいたすべての皆さまへお礼を申し上げます。

障害者芸術文化活動普及支援事業
連携事務局

（特定非営利活動法人アートNPOリンク、株式会社precog）

目次

02	はじめに	
03	目次	
04	障害者芸術文化活動普及支援事業とは	
06	支援センター・広域センター一覧	
09	支援センター・広域センターの取り組み	
10	北海道・北東北ブロック	
12	広域センター アールブリュット推進センター Gently（ジェントリー）	
14	青森県 青森アール・ブリュットサポートセンター（AASC）	
16	岩手県 岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると	
18	南東北・北関東ブロック	
20	広域センター 南東北・北関東ブロック広域センター	
22	宮城県 障害者芸術活動支援センター@宮城（愛称：SOUP）	
24	山形県 やまがたアートサポートセンターら・ら・ら	
26	福島県 はじまりの美術館	
28	茨城県 茨城県福祉部障害福祉課	
30	栃木県 とちぎアートサポートセンター TAM [タム]	
32	群馬県 群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふあん	
34	南関東・甲信ブロック	
36	広域センター 南関東・甲信障害者アートサポートセンター	
38	埼玉県 埼玉県障害者芸術文化活動支援センター アートセンター集（基幹型）	
40	埼玉県 ART (s) さいほく（特色型）	
42	千葉県 千葉アール・ブリュットセンター うみのもり	
44	東京都 東京アートサポートセンター Rights（ライツ）	
46	神奈川県 神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター	
48	山梨県 YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター	
50	長野県 ザワメキサポートセンター （長野県障がい者芸術文化活動支援センター）	
52	東海・北陸ブロック	
54	広域センター 東海・北陸ブロック 障害者芸術文化活動広域支援センター	
56	新潟県 新潟県障害者芸術文化活動支援センター	
58	富山県 富山県障害者芸術活動支援センター ぼーと◎とやま	
60	石川県 文化・芸術活動支援センターかける	
62	福井県 福井県障がい者芸術文化活動支援センター・ふくみなーと	
64	岐阜県 岐阜県障がい者芸術文化支援センター [TASC ぎふ]	
66	静岡県 静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーと	
68	愛知県 愛知県障害者芸術文化活動支援センター	
70	三重県 三重県障がい者芸術文化活動支援センター	
72	近畿ブロック	
74	広域センター 障害とアートの相談室	
76	滋賀県 アール・ブリュットインフォメーション & サポートセンター	
78	京都府 art space co-jin	
80	大阪府 国際障害者交流センター ビッグ・アイ	
82	兵庫県 ひょうご障害者芸術文化活動支援センター	
84	奈良県 奈良県障害者芸術文化活動支援センター	
86	和歌山県 和歌山県福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課	
88	中国・四国ブロック	
90	広域センター 中国・四国 Artbrut Support Center passerelle	
92	鳥取県 あいサポート・アートセンター	
94	島根県 島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ	
96	岡山県 岡山県子ども・福祉部障害福祉課	
98	広島県 広島県アートサポートセンター	
100	徳島県 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター	
102	香川県 香川みんなのアート活動センター KAGAWA MOVES	
104	愛媛県 愛媛県障がい者アートサポートセンター	
106	高知県 薬工ミュージアム 分室	
108	九州ブロック	
110	広域センター 九州障害者アートサポートセンター	
112	福岡県 FACT（福岡県障がい者文化芸術活動支援センター）	
114	佐賀県 佐賀県障がい者芸術文化活動支援センター SANC	
116	長崎県 長崎県障害者芸術文化活動支援センター	
118	熊本県 障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館	
120	大分県 おおいた障がい者芸術文化支援センター	
122	宮崎県 宮崎県障がい者芸術文化支援センター	
124	鹿児島県 鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター （かごしまアールブリュットセンター）	
127	連携事務局の取り組み	
136	数値で見る実績	

障害者芸術文化活動普及支援事業とは

障害のある人が芸術文化を享受し、多様な芸術文化活動を行うことができるように、地域における支援体制を全国に展開し、障害のある人の芸術文化活動の振興を図るとともに、自立と社会参加を促進することをねらいとした中間支援事業です。

2014（平成26）年度から3年間を通じて全国12ヶ所で行った「障害者の芸術活動支援モデル事業」の成果やノウハウを元に、2017（平成29）年度から支援の対象を「絵画や陶芸等の美術分野」に加えて、「演劇や音楽、舞踊などの舞台芸術分野」にも広げ、2020（令和2）年度からは「美術、音楽、演劇、舞踊等の多様な芸術文化活動」を対象として実施しています。

活動地域に応じて、都道府県「障害者芸術文化活動

主な事業支援

障害者芸術文化活動普及支援事業では、支援センターが都道府県の支援拠点として相談支援や人材育成、関係者のネットワークづくり、芸術文化活動に参加する機会の確保、情報収集発信など多様なサポートを展開して

支援センター（支援センター）、ブロック「障害者芸術文化活動広域支援センター（広域センター）」、全国「連携事務局」といった支援拠点を設置しています。

同時に、これらの支援センター、広域センター、連携事務局のネットワークを構築し、県境を越えて広域でも連携しつつ、地域での振興を図りながら全国規模で本事業を推進しています。

また、毎年都道府県が持ち回りで開催する「全国障害者芸術・文化祭」や、同芸術・文化祭と連携する各自治体の「障害者芸術・文化祭のサテライト開催事業」、障害者総合福祉推進事業といった厚生労働省の他事業との連携で、障害のある人の芸術文化活動の振興を相乗的に図っています。

います。さらに障害者芸術文化活動広域支援センター（以下、広域センター）は、全国を7つのブロックに分け、ブロック内の支援センターや支援センターが設置されていない都道府県のサポートを行っています。



「あいちアール・ブリュット障害者アーツ展」さりさりひかひか 東の二人のパフォーマンス風景



「NOMAMA to GAMAMA（のままとがま）～氷見のアール・ブリュット展～」より展示風景

1 都道府県レベルにおける活動支援

「障害者芸術文化活動支援センター（支援センター）」

1. 障害者芸術文化活動支援センターの設置

- ア 都道府県内における相談支援
- イ 芸術文化活動を支援する人材の育成等
- ウ 関係者のネットワークづくり
- エ 芸術文化活動（鑑賞・創造・発表等）に参加する機会の確保
- オ 情報収集・発信
- カ 事業評価及び成果報告のとりまとめ

2. 支援センターの機能強化

障害福祉サービス事業所や文化施設等に出向いて行う相談やアドバイス、福祉施設と文化施設等が連携する取り組みへの支援等

2 ブロックレベルにおける広域支援

「障害者芸術文化活動広域支援センター（広域センター）」

- ア 都道府県の支援センターに対する支援
- イ センター未設置都道府県の事業所等に対する支援
- ウ 芸術文化活動に関するブロック研修の開催
- エ ブロック内の連携の推進
- オ 芸術文化活動（鑑賞・創造・発表等）に参加する機会の確保
- カ 自治体の基本計画策定の推進
- キ 事業評価及び成果報告のとりまとめ

3 全国レベルにおける活動支援

「連携事務局」

- ア 広域センター等に対する支援
- イ 全国連絡会議の実施
- ウ 全国の情報収集・発信
- エ 全国のネットワーク体制の構築、成果のとりまとめ、公表等
- オ 障害者団体、芸術団体等との連携

支援センター・広域センター一覧

支援センター 44ヶ所には数字、広域センター 7ヶ所にはアルファベットを振った。

北海道・北東北ブロック

A 北海道 アールブリュット推進センター Gently (ジェントリー)

01 青森県 青森アール・ブリュットサポートセンター(AASC)

02 岩手県 岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると

南東北・北関東ブロック

B 宮城県 南東北・北関東ブロック広域センター

03 宮城県 障害者芸術活動支援センター@宮城 (愛称: SOUP)

04 山形県 やまがたアートサポートセンターら・ら・ら

05 福島県 はじまりの美術館

06 茨城県 茨城県福祉部障害福祉課

07 栃木県 とちぎアートサポートセンター TAM [タム]

08 群馬県 群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふぁん

南関東・甲信ブロック

C 埼玉県 南関東・甲信障害者アートサポートセンター

09 埼玉県 埼玉県障害者芸術文化活動支援センター
アートセンター集(基幹型)

10 埼玉県 ART (S) さいほく(特色型)

11 千葉県 千葉アール・ブリュットセンター うみのもり

12 東京都 東京アートサポートセンター Rights (ライツ)

13 神奈川県 神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター

14 山梨県 YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター

15 長野県 ザワメキサポートセンター
(長野県障がい者芸術文化活動支援センター)

東海・北陸ブロック

D 新潟県 東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター

16 新潟県 新潟県障害者芸術文化活動支援センター

17 富山県 富山県障害者芸術活動支援センター ばーと◎とやま

18 石川県 文化・芸術活動支援センターかける

19 福井県 福井県障がい者芸術文化活動支援センター・ふくみなーと

20 岐阜県 岐阜県障がい者芸術文化支援センター[TASCぎふ]

21 静岡県 静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーと

22 愛知県 愛知県障害者芸術文化活動支援センター

23 三重県 三重県障がい者芸術文化活動支援センター

中国・四国ブロック

F 高知県 中国・四国 Artbrut Support Center passerelle

30 鳥取県 あいサポート・アートセンター

31 島根県 島根県障がい者文化芸術活動支援センター
アートベースしまねいろ

32 岡山県 岡山県子ども・福祉部障害福祉課

33 広島県 広島県アートサポートセンター

34 徳島県 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

35 香川県 香川みんなのアート活動センター KAGAWA MOVES

36 愛媛県 愛媛県障がい者アートサポートセンター

37 高知県 薬工ミュージアム 分室

九州ブロック

G 福岡県 九州障害者アートサポートセンター

38 福岡県 FACT (福岡県障がい者文化芸術活動支援センター)

39 佐賀県 佐賀県障がい者芸術文化活動支援センター SANC

40 長崎県 長崎県障害者芸術文化活動支援センター

41 熊本県 障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館

42 大分県 おおいた障がい者芸術文化支援センター

43 宮崎県 宮崎県障がい者芸術文化支援センター

44 鹿児島県 鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター
(かごしまアールブリュットセンター)

近畿ブロック

E 奈良県 障害とアートの相談室

24 滋賀県 アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター

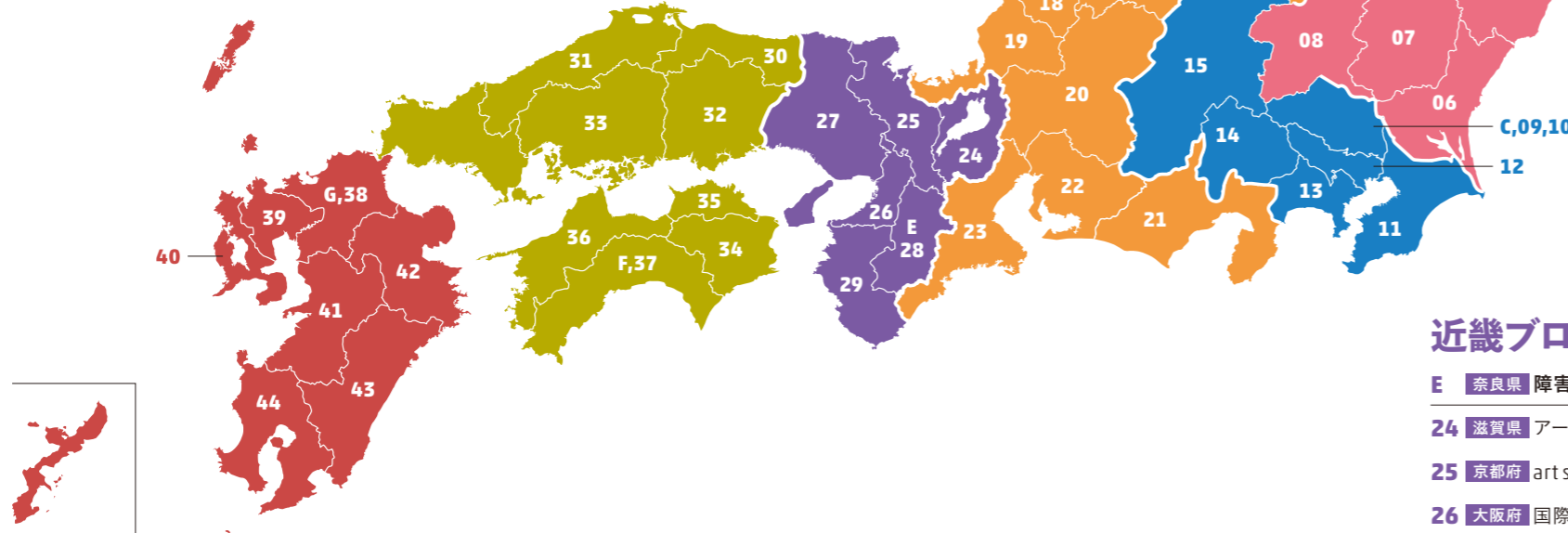
25 京都府 art space co-jin

26 大阪府 国際障害者交流センター ビッグ・アイ

27 兵庫県 ひょうご障害者芸術文化活動支援センター

28 奈良県 奈良県障害者芸術文化活動支援センター

29 和歌山県 和歌山県福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課



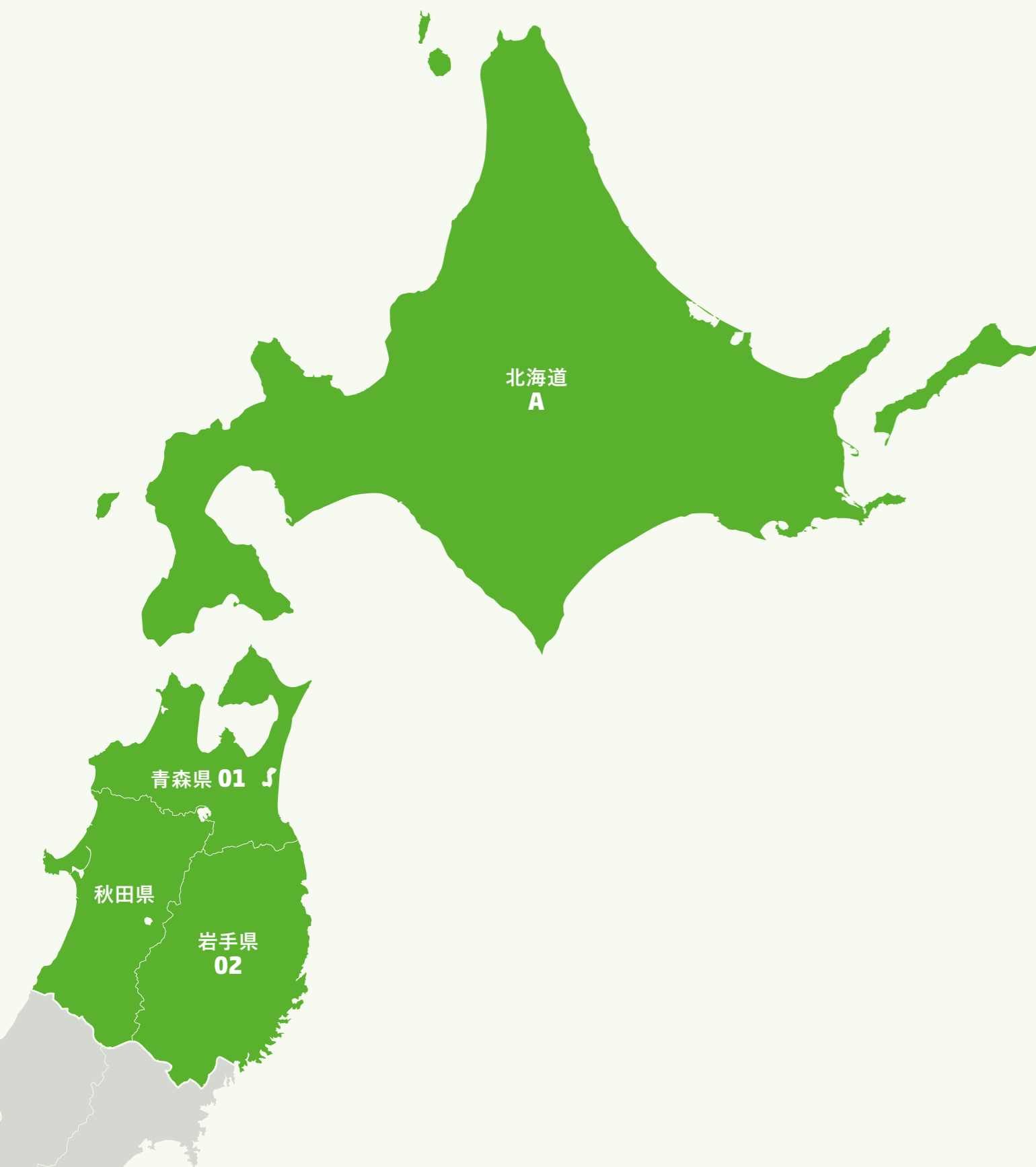


支援センター・広域センターの
取り組み

北海道・北東北ブロック

A アールブリュット推進センター Gently (ジェントリー)

広域センター運営団体：社会福祉法人ゆうゆう



北海道

担当課：保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課

青森県

担当課：健康福祉部障害福祉課

01 青森アール・ブリュットサポートセンター(AASC)

支援センター運営団体：社会福祉法人あーとど

岩手県

担当課：文化スポーツ部文化振興課

02 岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると

支援センター運営団体：社会福祉法人岩手県社会福祉事業団

秋田県

担当課：健康福祉部障害福祉課調整・障害福祉班

ブロック内の状況

北海道・北東北ブロック広域センター：アールブリュット推進センター Gently (ジェントリー)

広域センターと青森県は2017(平成29)年度より、岩手県は2018(平成30)年度より同じ団体が継続的に実施しており、安定した連携関係の下、各センターの悩みや弱点、要望等を把握し、単年度事業ながらそれぞれの課題を踏まえたきめ細かい事業展開を行ってきた。2023(令和5)年度は事業の「持続」をテーマに、各センターの置かれた状況と成果を振り返るような企画をフォーラムや合

同展のかたちで実施した。各センターがこの6、7年間で試行錯誤してつくり上げてきた事業となり、一定の成果を出していることを確認することができた。現在、北海道と秋田県の支援センターが未実施だが、各担当者と連携し、センター設置に向けた課題点の絞り込みと解消に向けた伴走を継続している。

アールブリュット推進センター Gently (ジェントリー)

〒061-0231 北海道石狩郡当別町六軒町70-18 社会福祉法人ゆうゆう内

TEL: 0133-22-2896 FAX: 0133-23-0811

E-mail: gently@yu-yu.or.jp URL: http://gently-artbrut.com/



Pick Up! 視察研修



かたるべの森美術館（北海道当麻町）視察時の様子

ねらい 北海道は芸術文化活動に取り組む先進的な施設や法人、自治体があり、またモデル事業時代に整備された人材育成やネットワークの基盤がある。この視察では施設を訪問し、直接現場を見ながら担当者らの話を聞くことで、支援センターや道県の担当者の見識を広げるとともに、各自のセンターを振り返って成果を認識し、自信

内容 北海道にて、支援センターおよび道県担当者を対象とする2日間の視察研修を実施。事業所等の視察を織り交ぜながら、集中的に事例を学ぶ機会を設けた。1日目は、かたるべの森美術館（当麻町）を訪問し、企画展やアトリエ、作品保管庫、その他施設を視察。芸術文化に取り組む法人の考えや創作する当事者にふれた。2日目は、岩見沢市を訪問し、市営ギャラリーと市内事業

やモチベーションを引き出すことをねらいとした。また、日頃、対面での交流が難しい距離にある当ブロックにおいて、メンバーが一堂に介し自由に意見交換のできる場を持つことで、同じ事業に取り組む者同士の悩みや疑問について気軽に話し合う機会を提供する。

所の視察、自治体と大学、福祉事業所等の連携に注目した講義を経て札幌市へ移動し、企業の取り組み事例を2ヶ所視察した。参加者は視察先で活動するさまざまな人にふれ、それぞれに学びを得た。また、厚生労働省に同行いただいたことで、未設置県の担当者に対して細かな助言をすることができた。

今年度の課題と目標

各センターとも設置から6、7年が経ち、これまでの取り組みがかたちになり一定の成果を出していることから、それぞれが次の目標やビジョンを見だし、担当者がそこに向かって積極的に取り組んでいけるようエンパワメ

ントを推進する。未設置県については、北海道、秋田県とも2024（令和6）年度の設置をめざし、引き続き各担当者と連携してセンター設置の課題解消に向けて動いていく。

今年度の成果と展望

ブロック内のエンパワメントをめざし、2日間の視察研修を北海道で実施した。参加者たちは先進的な事例にふれることで、自身の取り組みに自信を持ち、それぞれに学びを得られたと考える。未設置県のうち北海道はいよいよ2024（令和6）年度に支援センターの設置が決まった。秋田県は検討委員会を設置し、2025（令和7）年度の設置をめざす。新たな試みとして、これまで別々に開催して

いた合同展や舞台発表会、ワークショップを開催地である岩見沢市の協力の下、「北海道・北東北アート&ステージ」として総合的に開催した。当事者の表現活動の多様性について発信を高めることができたが、今後、他の地域への展開の可能性や有用性については引き続き検討していきたい。



左/北海道・北東北アート&ステージ「アール・ブリュットショウケース2023」舞台風景
右/北海道の福祉とアートVol.16 湯加那子展「さらめき」



実施一覧

●各支援センターに対する支援 [4/1～3/31] ●センター未設置都道府県の事業所等への支援 [道内作家を紹介する定期的な展覧会「北海道の福祉とアート」5/23～3/8(合計6回)] [北海道による商業施設での作品展示「ほっかいどうナイスハートバザール in アリオ札幌特別展示」10/3～10/5] [北海道で障害区別を問わず参加できる公募展「北海道障がい者のアート展」3/7～3/10] ●芸術文化活動に関するブロック研修 [視察研修、8/1・2] [ブロック研修(オンライン)3/26] ●参加する機会の確保 [展覧会「あなたの推しを教えてください」9/15～18] [アール・

ブリュットショウケース2023 招待部門「舞台上がれ！」9/17 公募部門(オンライン)10/20～] [ワークショップ「ダンボールでまちづくり」9/18]

広域センター運営団体 社会福祉法人ゆうゆう

「ひとりの想いを文化にする」をビジョンに「福祉を福祉で完結しない」「ないものはつくる」という想いに立ち、地域のあらゆる人たちの暮らしを創造していくことをめざした福祉実践を展開している。

青森アール・ブリュットサポートセンター(AASC)

〒037-0017 青森県五所川原市漆川字鍋懸 147-2

TEL: 0173-26-1021 FAX: 0173-26-1021

E-mail: aasc@aorld.com URL: https://aorld.or.jp/aasc



Pick Up! ありのままの表現展2023



「ありのままの表現展2023」展示風景

ねらい 青森県在住の障害のある方の創造性あふれる作品を発信する場と、広く県民が鑑賞する機会を設け、その芸術性や創造性に対する認識を高め、文化芸術活動の振興・推進を図る。2017(平成29)年度から企画展を開催し、2020(令和2)年度は「青森アール・ブリュット公募展」から「ありのままの表現展」へとタイトルが定着し、県内にて作品を公募するかたちになった。年々、応募者

内容 約1ヶ月の公募期間中に青森県内の養護学校、福祉事業所、個人作家等から283点の応募があり、過去最多を上回る応募作品数となった。これまで養護学校の作品が多かったが、福祉事業所や個人作家による応募も着実に増えつつある。11月18日～25日までの展

も来場者も増え、メディアにも取り上げられるなど障害のある方の芸術活動に対する県民の認識が高まりつつある。本展の特徴は、応募作品を選別せずに全て出展する点と、全作品に賞と主催者コメントを付け、全作者に賞状を授与する点である。確実に出展できる機会を提供することによって、創作者のモチベーションを維持することにもつなげる。

示期間中に来場者数は931名で過去最多となり、回収できたアンケートによると93%が展示内容について満足したとの回答を得られた。今年度は特に初応募の方が多く見られ、例年の開催により公募展の認知度が上がっていることを実感できた。

| 今年度の課題と目標

今年度は、作品発表の機会となる公募展「ありのままの表現展2023」と、福祉現場における人材育成となる「支援者養成巡回プログラム」の2本柱で事業を進めた。また、近年は養護学校や福祉施設から「利用者さんの作品を保管する場所が確保できない」「生徒が卒業する度

に作品を破棄せざるをえない」等の声もあり、その声に対応すべく、作品保管サービスの提供およびその作品を地域へ発信する機会として、センター内での展示を計画している。

| 今年度の成果と展望

公募展「ありのままの表現展2023」の応募作品数と来場者数は過去最多を上回っており、数年間における展覧会の開催によって当センターの青森県内での認知度が着実に上がっている。また、例年取り組んでいる「支援者養成巡回プログラム」は、板垣崇志氏(しゃかいのくすり研究所代表)をコンサルタントとして招聘し、県内3ヶ所の福祉事業所にて研修会を開催した。創作活動の支援方

法に関する要望に対応し、作品の発信方法や画材の選定、利用者の年齢や特性に応じた創作支援のアプローチ等に焦点を当て、コンサルティングと研修を行った。作品保管サービスと専用展示場での展示を開始したところだが、専用展示場を広く公開するための従事者のほか、より多くの作品を発掘するための専任の従事者が必要であり、今後の課題である。



左/展覧会と並行開催したトークセッション「己の異彩を育む」会場の様子

右/展覧会と並行開催したワークショップ「画材に触れてみよう!」会場の様子

.....
実施一覧

●相談支援 [青森アール・ブリュットサポートセンター、4/1～3/31(合計54回)] ●人材育成 [支援者養成プログラム、9/27～12/6(合計6回)] [画材の選び方や使い方に関する研修会「画材に触れてみよう!」11/18] ●関係者のネットワークづくり [協力委員会(オンライン)5/29、2/21] ●参加する機会の確保 [ことばと絵りかえしのアート、7/15～9/24] [あなたの“推し”を教えてください、9/15～18] [アール・ブリュットショウケース2023「舞台上がれ!」9/17] [ありのままの表現展2023、11/18～11/25] [美術館堆肥化宣言、2/10～6/23] ●情報収集・発信 [HP等での情報発信、4/1～3/31(合計11回)] ●その他 [トークセッション「己の異彩を育む」11/18]

支援センター運営団体
社会福祉法人あーど

2017(平成29)年度より障害者芸術文化活動普及支援事業を受託し、青森県五所川原市に設置された青森アール・ブリュットサポートセンターを拠点に、県内の障害者による創作活動の支援を行っている。主な事業内容として、相談支援、県内の作品を集めた展覧会の開催、創作や権利保護等に関するセミナーの開催等を行いながら、県内の芸術文化活動の活性化をめざした事業を実施している。

岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると

〒020-0114 岩手県盛岡市高松3-7-33

TEL: 019-656-7081 FAX: 019-681-2514

E-mail: kadarto@iwate-fukushi.or.jp URL: http://www.iwate-fukushi.or.jp/cgi-bin/art_list.cgi



Pick Up! 第31回岩手県障がい者文化芸術祭



第31回岩手県障がい者文化芸術祭での応募作品展、展示風景(上)、舞台風景(下)

ねらい 作品および発表希望者・団体全ての方々の発表の場をつくることをねらいとした。応募・参加者の活動意欲を今後もつないでいくことができるよう応募作品全

てを展示すること、音楽祭への参加希望のあった全ての個人・団体の発表の場を設ける。

内容 ①「応募作品展」：県内の障害のある人の、日頃の文化芸術活動の成果を発表する機会として、障害のある個人・団体等を対象に実施した公募展である。絵画、書道、写真、工芸、文芸の5部門で開催し、応募総数は362点(絵画155、書道26、写真16、工芸145、文芸20)となった。②「記念式典(応募作品展表彰式)」：応募作品展入賞者

(最優秀賞、優秀賞、特別賞、佳作、努力賞)へ賞状を授与した。③「ふれあい音楽祭2023」：障害の有無にかかわらず、県内で舞台芸術に関する活動を行っている個人または団体による歌、楽器演奏、ダンス等を発表していただいた。応募団体は16団体、観覧者数は84名となった。

今年度の課題と目標

近年、岩手県では、障害者の芸術作品の商品化や作品の二次利用、展覧会への出品をめざす事業所等が増加傾向にあるため、作家や作品の尊厳を守るための権利保護の理解を深める研修会を引き続き開催する必要がある。

ある。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、未だに事業所間の交流機会が少ないため、参加者同士で情報共有できる時間を設定する。

今年度の成果と展望

相談支援について当事者やご家族、支援者、イベント主催者など、幅広い方々からの相談が寄せられた。相談件数は昨年度を上回る件数となり、障害者の創作・表現活動への関心や当センターの認知度が少しずつ高くなっ

ているものと捉えている。著作権や権利保護等に関する相談も多いため、外部アドバイザーと連携しながら対応していく。



左/「障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会」での展示ワークの様子
右/「創作活動に関する権利保護研修会」でカードゲーム「知財でポン!」の体験会



実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会～しる・つながる・ひろげる～、9/11] [創作活動に関する権利保護研修会、9/28] [障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会～福祉的支援からアート支援へ～、10/25] [障がいのある人の創作活動支援ワークショップアドバイス(オンライン)11/2～3/21(合計4回)] [障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会～施設・事業所等管理者編～、3/1] ●関係者のネットワークづくり [協力委員会、7/20] ●参加する機会の確保 [第31回岩手県障がい者文化芸術祭 応募作品展、11/23～12/18 記念式典(応募作品展表彰式)12/10] [第31回岩手県障がい者文化芸術祭ふ

れあい音楽祭2023、12/17] ●情報収集・発信 [作家及び作品や取組事例の調査、2/28・3/8]

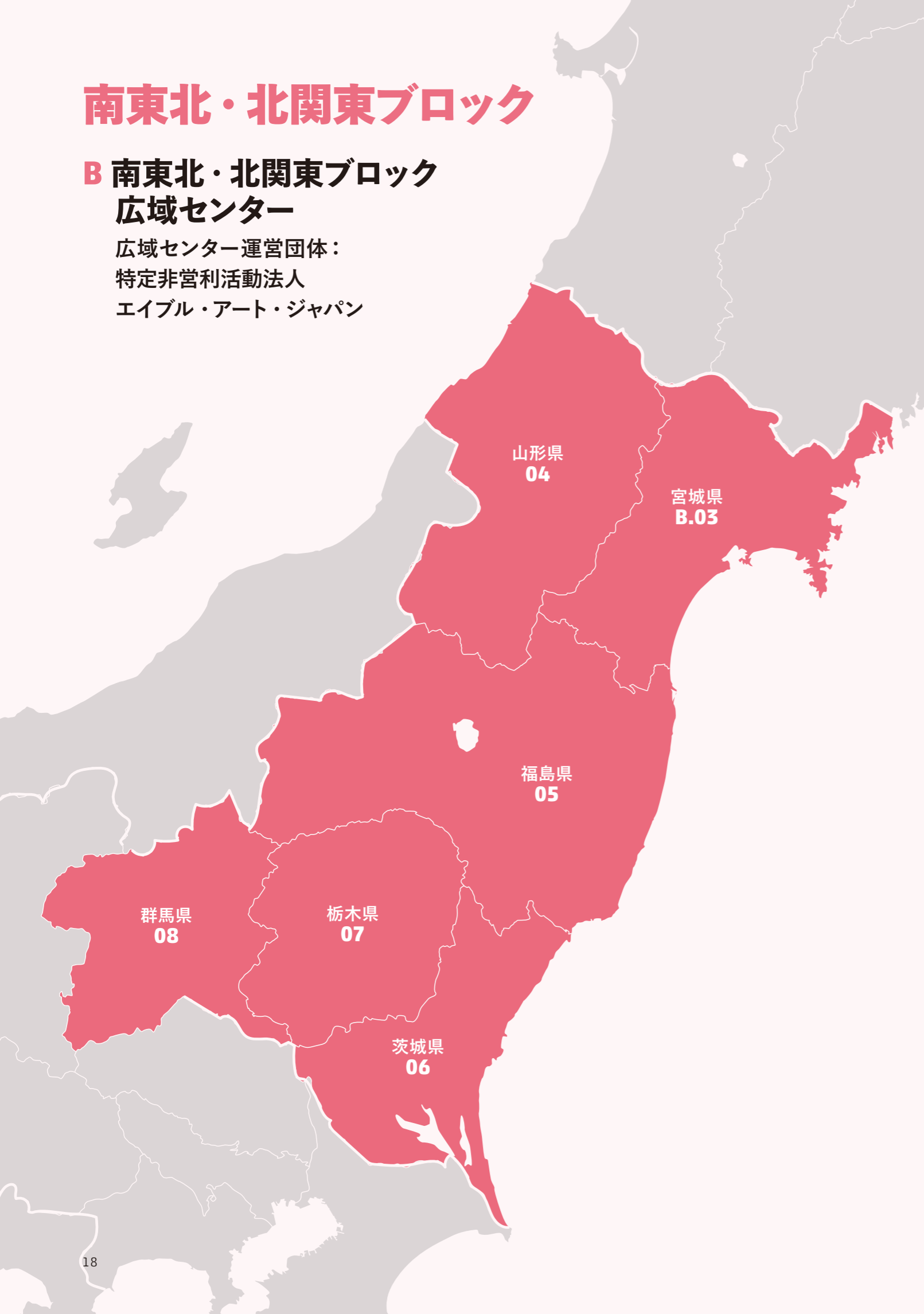
支援センター運営団体 社会福祉法人岩手県社会福祉事業団

多様な福祉サービスが、その利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、またはその有する能力に応じ自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的に設立された。2018(平成30)年に「岩手県障がい者芸術活動支援センターかだあると」を開設した。

南東北・北関東ブロック

B 南東北・北関東ブロック 広域センター

広域センター運営団体：
特定非営利活動法人
エイブル・アート・ジャパン



宮城県

担当課：保健福祉部障害福祉課地域生活支援班

03 障害者芸術活動支援センター@宮城 (愛称：SOUP)

支援センター運営団体：特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン 東北事務局

山形県

担当課：健康福祉部障がい福祉課

04 やまがたアートサポートセンターら・ら・ら

支援センター運営団体：社会福祉法人愛泉会 ぎやらりーら・ら・ら

福島県

担当課：保健福祉部障がい福祉課

05 はじまりの美術館

支援センター運営団体：社会福祉法人安積愛育園

茨城県

担当課：福祉部障害福祉課

06 茨城県福祉部障害福祉課

支援センター運営団体：茨城県福祉部障害福祉課

栃木県

担当課：保健福祉部障害福祉課

07 とちぎアートサポートセンター TAM [タム]

支援センター運営団体：認定特定非営利活動法人もうひとつの美術館

群馬県

担当課：健康福祉部障害政策課社会参加推進係、地域創生部文化振興課文化企画係

08 群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふ・あん

支援センター運営団体：特定非営利活動法人工房あかね

ブロック内の状況

南東北・北関東ブロック広域センター：特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン

南東北・北関東ブロックは、6県全てに支援センターが設置されている。宮城県(2014[平成26]年～)・栃木県(2017[平成29]年～)・福島県(2019[平成31]年～)・山形県(2020[令和2]年～)・群馬県(2023[令和5]年～)・茨城県(2023[令和5]年～)が活動した。広域センターは、2021

(令和3)年度より当法人が運営している。今年度は、支援センター発足の初年度である群馬県と茨城県の個別の支援、広域にわたるブロック内の支援センター間の情報交流や対面での学びの機会の創出を行った。

南東北・北関東ブロック広域センター

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉4-1-50 1階
 (特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン東北事務局内)
 TEL: 070-5328-4208 FAX: 022-774-1576
 E-mail: soup@ableart.org URL: https://soup.ableart.org/



Pick Up! ブロック内の支援センターを訪問し、見聞を通してノウハウを学ぶ実践研究「出稽古」



山形県が福島県を訪問した出稽古における研修会の様子(郡山市立美術館)

ねらい 南東北・北関東ブロックは、地域の広域性から主にオンラインでの会議や研修を通じて情報交流を行ってきた。今年度は、新規事業として実践研究「出稽古」をスタート。ブロック内の各県の支援センターで不足している施策について、実際の見聞を通してノウハウを学ぶことを目的とし、先進的に実践しているブロック内の支

援センターを訪問した。また出稽古に出向いた担当者も、自身の地域で実践してきた取り組みとその意義を、受け入れ地である支援センターや自治体担当者、関係者向けに発表した。これにより、支援センター職員および事業の質的向上をめざした。

内容 山形県支援センターの出稽古では、福島県を訪問し「博物館・美術館におけるアクセシビリティ向上にむけての研修会～誰もが訪れやすいミュージアムの仕組みづくり～」に参加した。研修会を主催する福島県博物館連絡協議会と支援センターとの連携の仕組みについて学

び、今後、山形県内のミュージアムとともにアクセシビリティの向上を図る施策に取り組もうとしている。また、受け入れ先の福島県に対しては、山形県における支援センター担当課以外の行政との協働事例について情報共有を行った。

今年度の課題と目標

①支援センター職員が社会情勢の変化に対応できるようになる：「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画(第2期)」における論点や計画の改正・制定を意識して活動する。②支援センター職員と自治体担当者の連携を促進する：「支援センター活動のコツ(効果的援助要素)チェックリスト」の評点と協働型評価を通じて、

地域に不足している視点・資源を認識し、その不足を補うための情報交流や学びの機会を創出する。③支援センター間のコミュニケーションを円滑にする：互いの知恵や課題をわかちあう機会をつくる。これにより、支援センターとして必要な技術を蓄え、障害のある人たちが芸術文化活動に参加することができる環境をつくる。

今年度の成果と展望

①ブロック会議・研修(5回)、事業評価(研修のうち2回)、なんでも相談会(3回)を実施し、テーマによって各県の自治体担当者や関係者が参加した。②発足初年度である支援センターに対する支援として、群馬県の支援センター職員と自治体担当者からの個別相談対応、茨城県内の障害のある人の芸術文化活動の推進に向けたワークショップの公募企画を支援した。③実践研究「出稽古」により、ブロック内の支援センターを訪問し、事業の見聞を通してそれぞれの課題や実践知を共有し合った。またブロック研修の中でその成果を発表した。支援センター職員からは「リアルな学びにつながった」「自身の事業を見直すきっかけにもなった」といった感想があり、2024(令和6)年度も継続する予定。

古」により、ブロック内の支援センターを訪問し、事業の見聞を通してそれぞれの課題や実践知を共有し合った。またブロック研修の中でその成果を発表した。支援センター職員からは「リアルな学びにつながった」「自身の事業を見直すきっかけにもなった」といった感想があり、2024(令和6)年度も継続する予定。



ブロック会議・研修第5回「協働で評価目標をつくろう」(オンライン)



障害のある人とつくるパフォーミングアーツ研究会の様子(せんだいメディアテーク)

実施一覧

●各支援センターに対する支援 [なんでも相談会① 9/11] [なんでも相談会② 10/24] [なんでも相談会③ 11/21] ※すべてオンライン ●芸術文化活動に関するブロック研修 [ブロック会議・研修第1回「年間計画の共有」 5/9 第2回「自治体と支援センターと協働で評価目標をつくろう」 7/26 第3回「注目!自治体のDX化『作家・作品のデータベース化、情報発信、プロモーション(販売・ライセンス)』を学ぼう」 10/24 第4回「実践研究『出稽古』の成果を共有しよう」 2/14 第5回「『自治体と支援センターと協働で評価目標をつくろう』振り返り」 3/14] ※すべてオンライン [実践研究「出稽古」 9/21～3/15] ●参加する機会の確保 【【栃木県】ワークショップ「もうひとつのくらぶ」 4/16～11/5(合計7回)】 【【茨城県】福祉とアートワークショップ、12/18～3/9(合計7団体) オンライン報告会、3/9] [障害のある人とつくるパフォーミングアーツ研究会、1/28]

広域センター運営団体

特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン
 アートを通じてすべての人が幸せに生きることのできる社会の実現をめざして、1994(平成6)年に誕生した。Empowerment可能性を広げる、Createつくりだす、Networkつなぐ、つながる、Access参加する、Advocacy支援する、これら5つの活動の視点を軸に、主な活動として、障害のある人の芸術文化活動にかかわる相談支援、人材育成・啓発事業、エイブルアート・カンパニー(著作権マネジメント事業)、創作活動の機会の提供(アトリエ・スタジオ事業)、作家の発掘や作品の発表機会の創出、鑑賞支援事業(美術と手話プロジェクト/ミュージアム・アクセス・センターモデル普及事業)などがある。

障害者芸術活動支援センター@宮城 (愛称: SOUP)

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉4-1-50 1階

TEL: 070-5328-4208 FAX: 022-774-1576

E-mail: soup@ableart.org URL: https://soup.ableart.org/



Pick Up! つくる・歌う・つながる～人材育成とネットワークづくりの連携



「芸術銀河2023出前講座」みんなの音楽祭 in 松岩公民館

ねらい 宮城県内には、障害のある人が文化芸術に親しめる機会が少ない・文化芸術を支える人材が少ない・ネットワークが形成されていない空白地域が幾つかあり、課題である。この課題に向けて、地域にある福祉法人や社会教育施設、また県の生涯学習課やみやぎ県民文

内容 北部では、地域の公民館や福祉法人、コーディネーターと連携して音楽イベントを開催し、障害のある人が音楽に親しむ機会をつくった。東部では、松島自然の家主催の企画内で知的障害・自閉症児向けのクラフト活動の支援を行い、この手法を自然の家と大学生ボランティアに共有した。北西部では、地域の障害者福祉施設と連携して、宮城県美術館の主催する「出張創作室」を

化創造の祭典実行委員会と連携・協力しながら、文化芸術に親しめるワークショップやイベントの開催に至った。気軽に参加しやすい内容で企画し、活動が一過性で終わらずに継続できるように意識して、連携・協力団体間で手法や情報を共有した。

活用して障害のある人が造形活動に親しむ機会をつくり、ここで生まれた創作活動のコンセプトやアイデアを形にして、この手法を施設に共有した。全体を通じて、県の生涯学習課やみやぎ県民文化創造の祭典実行委員会と連携して実施し、生涯学習という視点からも障害のある人の文化芸術活動を広める活動に取り組んだ。

| 今年度の課題と目標

①相談支援：多様な相談内容に応じられるよう、日頃から情報収集を行う。②人材育成：座学と体験をあわせた研修や現場体験プログラムの提供等で実践につなげやすい意識や相談しやすい環境づくりも行う。③関係者のネットワークづくり：ネットワークの空白地域を意識して広報を行い、「障害のある人と芸術文化活動に関する

| 今年度の成果と展望

①相談支援：のべ177個人、団体から177件（前年度比126%）。特に文化施設から連携を求める声が増え、合理的配慮にかかわる研修につながった。②人材育成：研修は計3回でのべ50名が参加。これまで取り上げなかったテーマ「デジタルアート」や、すそ野拡大をめざして空白地域で開催。③関係者のネットワークづくり：協力委員会を開催し、宮城県と仙台市における官民の福祉・



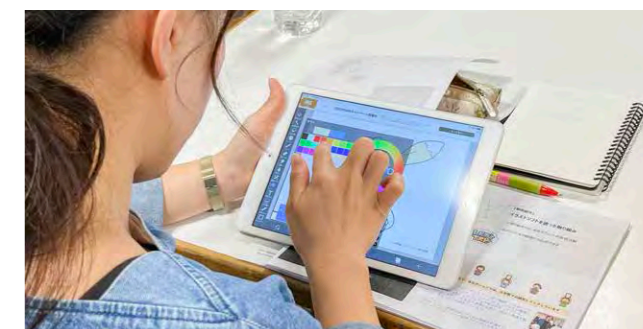
SOUPの研修2023「宮城県美術館の「出張創作室」に行ってみよう」（伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター）

実施一覧

●相談支援 [相談支援業務、4/1～3/31(合計558回)] ●人材育成 [知的財産権に関する研修会、9/12] [SOUPの研修2023第1回「障害のある人とデジタルアート」10/19 第2回出張創作室「オープンアトリエ」10/28 第3回「障害のある人とつくるパフォーミングアーツ研究会」1/28] [ハートフルデイキャンプ、11/4] [ひが栗のまんがをかいてみよう!講座、11/11] [みんなの音楽祭 in 松岩公民館、11/19] [「まごっこみる!?ニューカマーとコラージュ」1/28] ●関係者のネットワークづくり [宮城県教育委員会「学びを通じたみやぎの共生社会推進事業」連携コンソーシアム、7/10～2/14(合計4回)] [仙台市市民文化事業団「せんくら・リラックス・コンサート2023」8/27] [宮城県障害者芸術文化活動支援業務協力委員会、9/26] [みやぎ県民文化創造の祭典実行委員会「芸術銀河2023」11/4～1/28(合計3回)] [合理的配慮に関する調査と研修、11/15(全2回)] [仙台市博物館「ユニバーサルデザイン事業」12/22] ●参加する機会の確保 [福祉と表現と仕事 ART EXHIBITION、12/1～12/19] [福祉と表現と仕事

大見本市」など展覧会の場を活用し、情報交換を行う。④発表の機会の確保：さまざまな地域で障害者の活躍の場を拡げ、多様な人々との交流が促進されるよう、専門家等と連携して発表の機会を確保する。⑤情報収集・発信：主催事業だけでなく他団体の関連事業についてもウェブサイトおよびSNSで発信を行う。

文化・教育分野が参加。「見本市」の内容と広報活動が充実した。④発表の機会の確保：「見本市」で創造活動の発表や文化芸術・生涯学習に関わる活動事例を紹介した。⑤情報収集・発信：ウェブサイトへの投稿数は78件、閲覧数が前年度比103%増、SNSへの投稿数は302件、閲覧数が前年度比277%増、と充実した。



SOUPの研修2023「障害のある人とデジタルアート」（SOUPフリースペース）

SHOP/WORKSHOP、12/8～12/10] [第6回障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市「きいて、みて、して、見本市。」1/27～1/31] [2次利用のサポート業務、4/1～3/31(合計9回)] [展覧会への出展のサポート業務、4/1～3/31(合計6回)]

支援センター運営団体

特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン 東北事務局

アートを通じてすべての人が幸せに生きることのできる社会の実現をめざして、1994(平成6年)に誕生した。Empowerment可能性を広げる、Createつくりだす、Networkつなぐ、つながる、Access参加する、Advocacy支援する、これら5つの活動の視点を軸に、主な活動として、障害のある人の芸術文化活動にかかわる相談支援、人材育成・啓発事業、エイブルアート・カンパニー(著作権マネジメント事業)、創作活動の機会の創出(アトリエ・スタジオ事業)、作家の発掘や作品の発表機会の創出、鑑賞支援事業(美術と手話プロジェクト/ミュージアム・アクセス・センターモデル普及事業)などがある。

やまがたアートサポートセンターら・ら・ら

〒990-0033 山形県山形市諏訪町一丁目2番7号

TEL: 023-674-8628 FAX: 023-664-2118

E-mail: g.lalala@y-aisenkai.or.jp URL: https://www.y-aisenkai.com/info/lalala/



Pick Up! アーティスト派遣事業「まなび舎ら・ら・ら —アート×福祉が出合う場づくり—」



アーティスト派遣事業の創作活動を支援する様子

ねらい 福祉事業所で表現活動を始め、活動の充実を図るには、福祉専門の職員だけでは専門性や日々の活動時間に限界がある中で、県内には障害者アートに関心がある芸術関係者がいるにもかかわらず、両者が出会う機会が少ない。そこで、アーティストやデザイナー等の外部の

内容 芸術活動を実践したい福祉事業所や学校等の募集とヒアリング、活動計画策定とアーティストとのマッチングを行い、身体表現活動3件、美術創作活動3件の計6件の取り組みが生まれた。アーティストが各団体に訪問して職員研修1回、活動支援3～5回を実施。各団体

今年度の課題と目標

課題としては、県内3地域と連携した展覧会が5～6回目を迎える一方で、連携が少ない地域での活動が進んでいない。また、2023（令和5）年度福島県における研修において、鑑賞支援について学び、障害のある方それぞれの利用しやすさを考える取り組みの必要性を再認識した。2024（令和6）年4月から合理的配慮が義務化され

人材と協働を深めるために、福祉と芸術文化の分野が互いのことを知ったり学んだりする機会をつくり、県内各地で実践する人を増やすことを目的とした人材育成事業を実施する。2023（令和4）年度から3年間継続して取り組み、県内各地で人材が育ち活動が生まれることをめざす。

で取り組みが自立的に継続できるようアーティストと各団体との打ち合せや振り返り、訪問先団体の職員研修に力を入れ、アーティストと事業所や障害のある方との関係性を構築することに注力した。

ることもあり、文化施設に対して福祉側が情報提供を行い、共に学ぶ機会をつくる必要がある。目標としては、2022（令和4）年度に引き続き人材育成に力を入れ、表現活動に寄り添う人材を育てる。また、鑑賞支援について学ぶ機会をつくり、さまざまな障害のある方の利用しやすさを考える。

今年度の成果と展望

県公募展と県内3地域の展覧会を5、6年継続し、共通テーマ「表現のきざしとそれに寄りそうまなざし」に沿った表現と支援の関係性についての学びを通して、各地域で表現活動に寄り添う人材育成が広がっている。さらに2023（令和5）年度はアーティストや行政機関、文化施設等と連携して、実践を交えながらそのプロセスを人材育成とする機会をつくることに力を入れた。アーティスト派遣事業では、今後、自立的に継続できる取り組みとなることをめざし、アーティストとともに職員研修や芸術活



工業、福祉、デザインが連携したワークショップ風景

実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31] [おめでとう&相談day、11/4～11/15(合計5回)] ●人材育成 [県内3地域での展覧会のための作品相談会(酒田市、鶴岡市、米沢市) 5/12～11/20(合計4回)] [アトリエら・ら・ら、6/1～3/31(合計5回)] [白鳥建二さんとアートを見に行くワークショップ、7/7] [きざしをみつけるまなざし(オンライン) 7/12] [美術大学生の社会教育における実践実習、8/16～11/1(合計7回)] [まなび舎ら・ら・ら×こうふくでミーティングvol.5 コラボ企画「知財について学び合う勉強会」 9/12] [アーティスト派遣事業「まなび舎ら・ら・ら—アート×福祉が出合う場づくり—、1/9～3/22(合計22回)] ●関係者のネットワークづくり [アドバイザー会議、7/27・3/29] [やまがたアートサポートネットワーク会議、3/20] [やまがたダンスネットワーク会議、3/23] ●参加する機会の確保 [つるおかひょうげんの花(県公募展入賞作品巡回) 9/16～9/25] [いろいろな展、9/22～9/28] [やまがたのきざしとまなざし2023 企画展～表現に寄りそう空間～、9/30

動支援を実施を行った。その結果、福祉事業所とアーティストの関係性が構築され、次年度以降、福祉事業所独自の事業に発展していく予定で、今後も新規募集により自立した実践の場を増やしていく。取り組みから、各地域のエンパワーメント力が向上し、実践事例が各地域で増えていき、山形県全体での芸術活動の促進と普及をめざす。その活動を通して地域社会での多様性における理解を深め、新たな価値づくりを支援し、互いを尊重し合える地域の包容力を高めるべく取り組む。



全盲の美術鑑賞者で写真家の白鳥建二氏とアートを見に行くワークショップ風景

～12/3 やまがた障がい者芸術作品公募展、11/2～11/15] [米沢わたしとあなたの表現展(県公募展入賞作品巡回、企画展巡回) 1/8～1/15] [宮城山形交流事業 フレッシュ!!!! やまがたのくだもの/つながる・ひろがる展、3/1～3/31] ●情報収集・発信 [やまがたのきざしとまなざし2023 取材調査、6/1～8/30] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [アドバイザー会議、7/21・3/29] [きざしとまなざしの活動報告書作成、12/1～3/31]

支援センター運営団体

社会福祉法人愛泉会 ぎやらりーら・ら・ら

障がいのある方が地域で共に生きる社会の実現に向けて事業を展開。2011（平成23）年に障がいのある方の作品を発信する場「ぎやらりーら・ら・ら」開設、2016（平成28）年から「やまがた障がい者芸術活動推進センター」、2020（令和2）年から「やまがたアートサポートセンターら・ら・ら」設置。新たな価値創造の発信を続け互いを尊重し理解し合える包容力のある地域社会創造をめざす。

はじまりの美術館

〒969-3122 福島県耶麻郡猪苗代町新町4873

TEL: 0242-62-3454 FAX: 0242-23-8185

E-mail: otoiawase@hajimari-ac.com URL: https://hajimari-ac.com/consultation/



Pick Up! きになる→そのさき展



「きになる→そのさき展」の出展作家・zuoruren氏の展示風景 撮影：白土亮次

ねらい はじまりの美術館では、これまで7年にわたり「福島県障がい者芸術作品展」を実施してきた。しかし、公募展という事業では、約250組の応募者がいるものの、作品のごく一部しか紹介できないことから、一人ずつの作品をより多く紹介できるよう人数を絞った展覧会を実施した。その中で、参加作家の作品や制作過程等を改

内容 企画展を実施し、会期中に1,046名の来場があった。参加作家の作品展示を始め、美術館へ来館可能な出展作家にはギャラリートークにも参加いただいた。そのほか、初日には出展作家である原学志氏と出展作品のような「格言」を一緒に書くワークショップや、同じ

めて調査すること、会期中に参加作家と来場者が交流すること、そして参加作家同士のネットワークが生まれること等をねらいとした。また、タイトルの通り、この企画展から参加作家の活動がさらに広がっていくこともねらいとした。

く出展作家の大内聖惺氏の公開制作、zooruren氏によるワークショップ「手作りストラップをつくろう」を開催した。また、会期中いつでも参加できる常設ワークショップ「あなたの格言を書こう!」では、280枚の格言が集まった。

今年度の課題と目標

本年度は、2022(令和4)年度の評価チェックリストを見直すことからスタートした。当センターの強みと弱みを把握し、その中から力を入れたほうがよい部分を意識して事業を進める方針を固め、作家調査や事業所訪問、そして創作のための環境整備に力を入れようと事業を計画し

今年度の成果と展望

企画展に参加した5名の方は自宅などで制作している方が多く、結果的に事業所調査にはつながらなかったが、それぞれの幅広い表現を紹介できただけでなく、会期中に来場者と出展作家の交流や、出展作家同士のつながりをつくる場にもなった。また展覧会を通して、他の展覧会出展や企画参加等につながった作家の方もいた。

た。創作のための環境整備としては、アトリエ事業を試験的に実施することを目標とした。また、作家調査や事業所訪問としては「福島県障がい者芸術作品展」に応募いただいている中から作家を選定し、その作家と所属する事業所を訪問調査することを目標とした。

今回は、福島県から委託を受けて実施している福島県障がい者芸術作品展事業で県内から多くの作品を公募し、そこから支援センター事業として数名の方を深く掘り下げて紹介するという試みだった。この事業は発表の機会にとどまらない、さまざまな波及効果が成果として見えたため、今後も実施していきたい。



左/はじまりアトリエ、参加者の制作の様子

右/博物館・美術館におけるアクセシビリティ向上にむけての研修会



実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31] ●人材育成 [『エチュード』上映会&車座トーク、6/3] [砂連尾 理ワークショップ「さわる／ふれるをかんじる」6/4] [『目の見えない白鳥さん、アートを見にいく』上映会、8/19] [「道草」上映会、9/16(合計2回)] [博物館・美術館におけるアクセシビリティ向上にむけての研修会、2/1] [シエント情報交換会2024、3/26] ●関係者のネットワークづくり [ネットワークを広げる、7/13・10/16] [『目の見えない白鳥さん、アートを見にいく』ロケ地さんぽツアー、8/20] [支援センター所属ブロックでのレクチャー(オンライン)2/22] ●参加する機会の確保 [はじまりアトリエ、9/9・10/7] [きになる→そのさき展、2/10～4/7] [南相馬市で きになる→まちなか美術館、2/17～3/17] ●情報収集・発信 [ホームページ、SNSなどでの情

報発信、4/1～3/31] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [報告書の作成、3/1～3/31] [第三者との共同評価、3/31] ●その他 [白鳥建二さんと鑑賞しよう、6/19～6/21(合計3回)]

支援センター運営団体 社会福祉法人 安積愛育園

各ライフステージに応じた「一人ひとりが望む生活と自己実現に向けた支援」を基本理念とし、また、社会的役割に「安心して暮らせる街づくり」を掲げる。各事業所・各職域が連携を図り、利用される皆さま一人ひとりを中心としたサービスを提供し、この機能が地域の中で関係機関等と有機的なネットワークを構築していくことで皆さまの自己実現につなげていくものとする。

茨城県 福祉部 障害福祉課

〒310-8555 茨城県水戸市笠原町978番6 TEL: 029-301-3357 FAX: 029-301-3378

E-mail: shofuku-kikaku@pref.ibaraki.lg.jp

URL: https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/shofuku/kikaku/shofuku/8.html



Pick Up! ナイスハートふれあいフェスティバル2023

ナイスハートふれあいフェスティバル2023
12月7日(木)～12月11日(月)

会場 ザ・ヒロサワシティ会館 入場無料

やさしいっばい!
えがおいっばい!
ナイスハート

ナイスハート美術展
一般の部 12月7日(木)～12月11日(月) 9:30～16:30 (最終日は12:00まで)
学校教育の部 12月8日(金)～12月11日(月) 9:30～16:30 (最終日は12:00まで)

作品販売 12月9日(土) 9:00～15:00 大ホールロビー及び中庭
障害者施設等で作成した作品等の販売を行います。
ピン・クッキー・工芸作品等の販売販売。

舞台発表 12月9日(土) 10:45～12:05 ザ・ヒロサワシティ会館 大ホール
音楽・ダンス・演劇等の発表や配役、施設内の活動動画等の配信を行います。

動画配信 12月7日(木)～11月11日(月) 1ヶ月配信
詳細が決定次第、連携福祉課ホームページ及びFacebookにてお知らせいたします。

12月3日～9日は「障害者週間」です。

ナイスハートふれあいフェスティバル2023のチラシ
障害者の方々による音楽・ダンスの発表や制作した作品などの展示・販売を行った

ねらい 障害者週間の主旨に合わせ、障害者が自身の文化活動について発表できる場を提供し、障害者が行う芸術文化活動について県民の理解と認識を深め、障害者の社会参加の促進を図る。

内容 障害者が自身の文化活動について発表できる場を提供し、障害者が行う芸術文化活動に対する理解と認識を深め、障害者の社会参加の促進に努めた。障害者による音楽・ダンス・演劇等の発表や配信、活動動画等の配信、障害者の作成した作品等の展示「ナイスハート美術展(絵画、写真、書道、陶芸・工芸の4部門)」、障害者福祉施設等で作成した作品の販売を行った。

今年度の課題と目標

障害の有無にかかわらず全ての人が相互に人格と個性を尊重し合える共生社会の実現が求められる一方で、障害のある人に対する理解や配慮が十分ではなく、結果として障害のある人の自立と社会参加が難しい現状がある。

障害者自身の生活の質を高め、潤いのある生活の実現のため、障害者の文化芸術活動への参加を支援するとともに、既存の枠にとらわれない自由で豊かな表現の下つくり出された作品の展示を通じて、障害者に対する理解促進を図る。

今年度の成果と展望

障害者の文化芸術活動への参加を支援するとともに、既存の枠にとらわれない自由で豊かな表現の下つくり出された作品の展示を通じて、障害者に対する理解促進につながった。今後、障害者芸術文化活動を支援していくにあたって、地域における障害者の芸術文化活動の状況についての把握が必要であることから、引き続き情報収集に努めていくとともに、作品展の開催などを通じて障害者芸術文化活動についてさらなる理解促進を図っていく必要がある。また、地域において芸術文化活動を支える人材が連携・協力し合えるよう、関係者のネットワークづくりに取り組む必要がある。

実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31] ●人材育成 [障害者の文化・芸術活動に係る支援者研修会、10/12] ●参加する機会の確保 [ナイスハートふれあいフェスティバル2023、12/7～12/11] [障害のある人が創った作品展、12/19～1/28(合計3回)] ●情報収集・発信 [県内の障害者芸術文化活動の取組について県のホームページにおいて情報発信、4/1～3/31(合計8回)]

障害のある人が創った作品展
ナイスハート美術展 2023 (一般の部)
各賞受賞作品を展示!
絵画、書道、写真、陶芸・工芸の4部門構成

県北会場 東海原子力館別館 (那珂郡東海村松北2-7-43)
令和5年12月19日(火)～24日(日)
9:00～16:00 ※最終日は午後3時まで

県央会場 茨城県庁2階県政広報コーナー2 (水戸市笠原町978番6)
令和6年1月6日(土)～18日(木)
8:30～17:00 ※最終日は午前10時まで

鹿行会場 鹿嶋勤労文化会館Sギャラリー (鹿嶋市宮中325-1)
令和6年1月23日(火)～28日(日)
9:00～21:00

入場無料

〒310-8555 水戸市笠原町978番6 TEL 029-301-3375
茨城県障害者スポーツ・文化協会 FAX 029-301-3378

障害のある人が創った作品展のチラシ
「ナイスハートふれあいフェスティバル2023」の各賞受賞者作品を展示した

支援センター運営団体
茨城県 福祉部 障害福祉課

本県では、障害者が文化芸術活動、スポーツまたはレクリエーションを行うことは、障害者の生活の質を高めるとともに、自立や社会参加を促進する上で大きな意義があると考えている。障害者の文化活動を発表する場や芸術文化活動を鑑賞する機会の提供に努めるなど、障害者の芸術文化活動を支援している。

とちぎアートサポートセンター TAM [タム]

〒324-0618 栃木県那須郡那珂川町小口1181-2
 TEL: 080-3001-8088 FAX: 0287-92-8088
 E-mail: tam@nactv.ne.jp URL: https://tam-mob.org/



Pick Up! TAM デジタルアーカイブ



TAM デジタルアーカイブ

ねらい 誰でも閲覧可能であるWEB上で、いつでもどこからでも気軽に障害のある人の作品・表現を知る機会を創出し、発信していく取り組みである。障害のある人の発表の場を増やすとともに、展覧会等の機会以外でもさまざまな人に多種多様な作品・表現を鑑賞してもらい、創作の様子やそれに関わる思いを知ってもらうことで、

内容 「福祉事業所」と「作家」を紹介する計6本の動画を制作し、YouTubeで公開した。「福祉事業所」の動画では、創作活動を行っているアトリエの様子を、支援者へのインタビューを通して紹介した。どのようなことを考え、何を大切にしているのかを聞き、創作活動に関わる人の参考となるよう制作した。「作家」の動画では、「Viewing展2024」において選考

受け手（鑑賞者）の中にある作品・表現に対しての見る目を変えて、身の回りの表現に目を向けるきっかけにつながっていくことを期待している。また、既に創作活動をしている施設や作家の事例を通し、知識やノウハウを把握し、共有していくことで、創作活動に関わる支援者たちの一助になればと考える。

委員賞を受賞した5人を紹介した。年齢も性別も創作スタイルもさまざまな作家たちが創作をする姿や作品、本人または支援する方のインタビューを通し、作家や作品を深く知り理解を深められるような内容をめざしている。また、第9回栃木県障害者芸術展「Viewing展2024」に入選した作品をWEBサイト上で閲覧できるようにしている。

今年度の課題と目標

毎年の研修会や参加型展覧会を通して、支援者の技術や意欲の向上がみられ、支援者同士のつながりができ、新たな作家や多くの作品に出会うことができた。しかし、創作活動を行う場所や知ってもらう機会はまだまだ少ないという状況にある。少しずつでも活動を継続し、広げていけるように、集まった支援者や関係者たちが技術や作品・表現に対する意識、考え方を共有しながら、お互い

に向上できるような関係性をつくっていくことを大切に活動した。また、本年度より知ってもらう機会を拡充するための新たな取り組みを開始した。障害のある人たちの表現や創作活動支援への取り組みを知り、親しみ、情報の共有を図るための環境を整備することを目標に活動した。

今年度の成果と展望

参加者同士がさまざまな工夫やアイデアを出し合いつくり上げた参加型展覧会「Viewing展2024」には10日間で620名の来場があり、「楽しかった」「また見たい」等、好評の声を多くいただいた。展示の仕方に対しても「あらためて展示方法の大切さを考えさせられた」との感想があった。また、障害のある人たちの作品や活動のデータのアーカイブ運用が始まった。施設や作家を紹介する動画を公開することで広く知り、活用してもらうためにはどうしたらよいか、さらに検討していく必要がある。障害のある人の表現を知る入口となり、作家・作品・活動を人や社会等とつなぐ役割を担っていけるよう、継続的にさまざまな表現を蓄積していきたい。

また、本年度より知ってもらう機会を拡充するための新たな取り組みを開始した。障害のある人たちの表現や創作活動支援への取り組みを知り、親しみ、情報の共有を図るための環境を整備することを目標に活動した。



左/「Viewing展2024」設営風景
 右/「Viewing展2024」展示風景



実施一覧

●相談支援 [相談支援の窓口設置、4/1～3/31] ●人材育成 [人材育成研修会、10/11、12/8] ●関係者のネットワークづくり [TAM会議、6/21～3/21(合計5回)] ●参加する機会の確保 [参加型展覧会「Viewing展2024」1/27～2/4] ●情報収集・発信 [TAM デジタルアーカイブ、11/20～3/31] [情報収集・発信、4/1～3/31(合計5回)] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [実施事業報告、3/21～3/26]

支援センター運営団体

認定特定非営利活動法人もうひとつの美術館
 障がいの有無や年齢、性別、国籍、専門家であるなしにかかわらず、既成の枠にとらわれない自由な発想から生み出された作品を展示紹介する「もうひとつの美術館」を運営している。木造の旧校舎を再活用し、年に2、3回の展覧会を開催している。また、併設のミュージアムショップでは全国の福祉事業所でつくられるグッズも紹介、販売している。

群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふあん

〒370-0813 群馬県高崎市本町10-1イチカワビル4階

TEL: 027-387-0533 FAX: 027-387-0533

E-mail: info@gunma-artsupport.com URL: https://gunma-artsupport.com/



Pick Up! 研修会・ワークショップ

アートなまなざしで本人の想いをくみ取る〈想像と創造するチカラを磨こう〉



ワークショップ「書道じゃない!墨あそび」で手を縛って書いたり、足で筆を使ったりする様子 (WS講師: 佐々木良太氏 [ながのアートミーティング])

ねらい 表現活動が障害者にもたらしものを一緒にアート体験しながら体感する。福祉現場で支援に困難を感じている支援者がアート表現を通じてスキルアップし、当

事者の生活環境が向上することをめざす。学んだことを福祉現場に持ち帰り、実践しながら研修を進める。

内容 関孝之氏 (NPO法人ながのアートミーティング代表)をメイン講師に招き、3回連続講座を行う。毎回アプローチの異なるワークショップをセミナーと組み合わせた。1回目の「書道じゃない!墨あそび」ワークショップでは、参加者全員が足を使ったり、腕や身体にガムテープを巻き付けたりして動きを制限した上で一字を綴る体験をしながら、コミュニケーションの取り方やサポートの実際を学ぶ。第2部の講演では、施設内であるさまざまな行動についてふれ「不安な思いや表に出せない内面を何かで

表現している。生い立ちや家族との関係性など、本人の背景にある『物語』や、行動に凝縮されている切実な思いをくみ取る想像力、気持ちに寄り添う心が支援する側に求められる。行動の根本にあるものを想像し支援する側の『課題』と捉えて」と呼びかける。第3部では、本人の本当の気持ちを汲み取ってよりよい支援につなげていけるよう、一人ひとりの「想像」を寄せ集めて書き出し、チームとして課題を共有するグループワークを行う。

今年度の課題と目標

課題として、以下2点が挙げられる。①運営団体に連携不足が生じたため、運営会議の機会を定期的・継続的に設け、リモート会議も活用し、連携強化を図る。②予算の執行管理や事務処理面等に人員を割かれたことで、本事業の実施に支障が生じたケースがあったため、センタースタッフの人材を増員するなどして、相談・調査・情報発信等の事業運営体制を強化したい。

目標としては、各地域に根差す活動支援のために、引き続き福祉関係団体とのネットワークづくりを進める。さらに芸術文化関係の個人・団体ともコミュニケーションを図る。また、相談内容によりアートの専門家等につなげる支援をしたい。そのために幅広い人材のアウトソーシングが必要である。相談の目的に特化した期間や場を設け、支援の幅を広げていきたい。

今年度の成果と展望

初年度としては、研修やワークショップに一定数参加していただき、障害福祉の現場に声が届いたと考えられる。引き続き、直接当事者に届くワークショップの開催をめざす。地域特性を生かした小規模ワークショップを5地域ごとに開催していきたい。また、来年度は民間企業等との連携により、県内エリア別での作品を発表する機会

等の創出を図る。

加えて音楽や舞踊等、多岐に渡るアート活動に参加・鑑賞の機会を提供する。障害者芸術文化に関するさまざまな取り組みを行っている他団体ならびに行政担当部署等へ働きかけて、事業の幅広い展開を心がけたい。



左 / JR桐生駅構内でのペイントワークショップ

右 / JR桐生駅構内での音楽ワークショップ



実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31] ●人材育成 [第1回人材育成事業「表現を「守って広げる」ために知的財産権について学ぶ」6/20～1/1 第2回人材育成事業 連続3回講座「アートなまなざしで本人の想いをくみ取る〈想像と創造するチカラを磨こう〉」7/25～1/2 第3回人材育成事業 連続3回講座 ワークショップ「『ぐりぐりぬりぬり』なんて気持ちいいんだ!、9/27～1/3 第4回人材育成事業 連続3回講座 アートワークショップ「音あそびと身体表現」11/21～1/4 第5回人材育成事業「GOOD JOBのつくり方」1/23～1/5] ●参加する機会の確保 [県庁32階絵画5作品を展示、6/19～4/30] [県立小児医療センター内展示、6/30～4/30] [Arts & Café YAMATOYA COFFEE32、8/26～

9/10] [駅でペイントワークショップ、8/26～8/27] [ルオムの森のペイントワークショップ、10/21～10/22] [東毛地区ノンアート展ドラムサークルで遊ぼう、12/1～12/10]

支援センター運営団体

特定非営利活動法人工房あかね

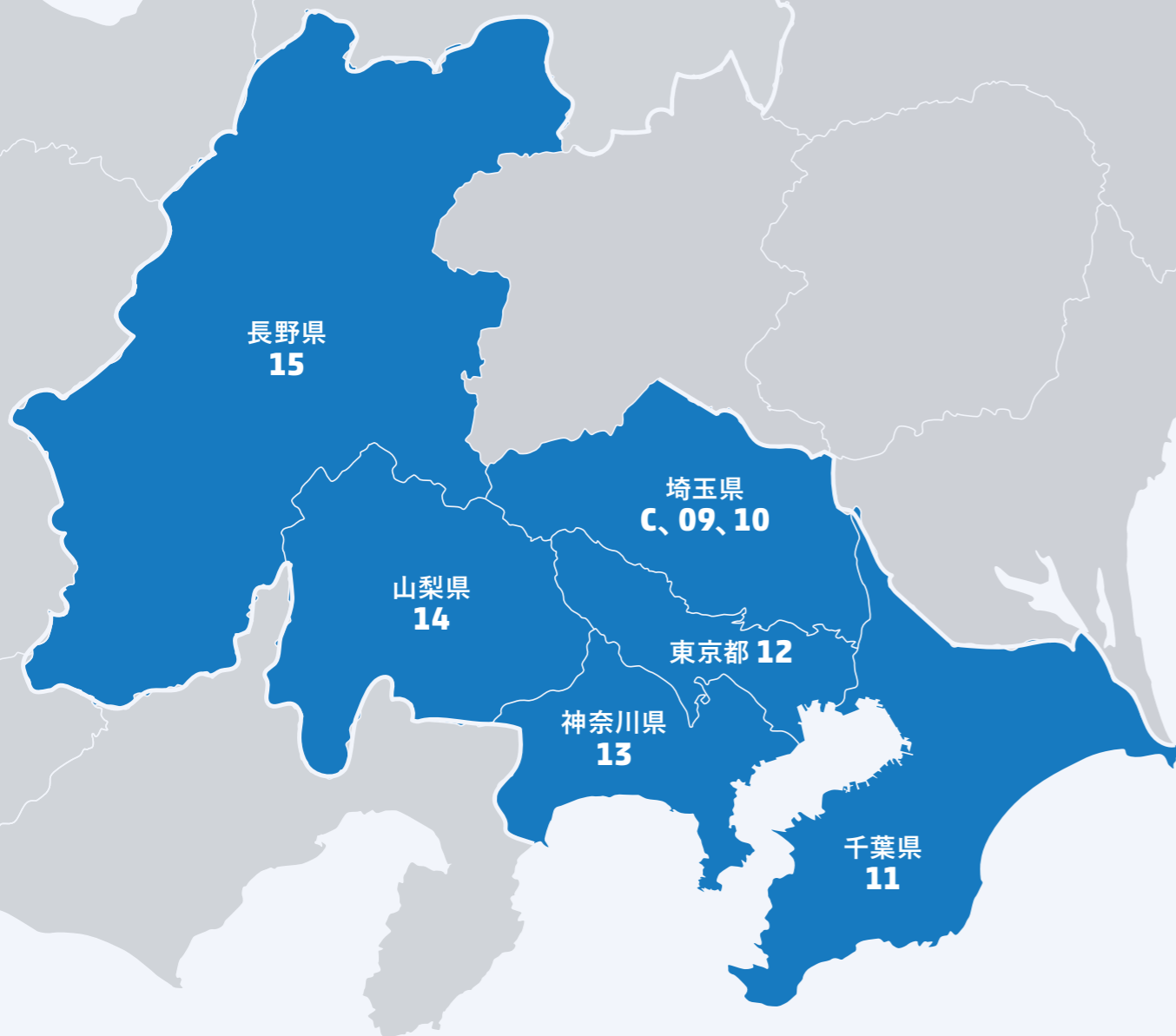
2000(平成12)年に設立。県内を中心に作家と作品の発掘を行い定期的な展示会を催す。県内の施設へ出向きアート支援を行ってきた。2013(平成25)年に福祉事業所アトリエART・ONを設立。障害のある人たちの表現活動のサポートを行っている。つくる環境を整えることを主体に活動している。

南関東・甲信ブロック

C 南関東・甲信

障害者アートサポートセンター

広域センター運営団体：社会福祉法人みぬま福祉会



埼玉県

担当課：福祉部障害者福祉推進課社会参加推進・芸術文化担当

09 埼玉県障害者芸術文化活動支援センター アートセンター集 (基幹型)

支援センター運営団体：社会福祉法人みぬま福祉会

10 ART (S) さいほく (特色型)

支援センター運営団体：社会福祉法人 昴

千葉県

担当課：環境生活部スポーツ・文化局文化振興課

11 千葉アール・ブリュットセンターうみのもり

支援センター運営団体：株式会社いろだま

東京都

担当課：福祉局障害者施策推進部企画課社会参加推進担当

12 東京アートサポートセンター Rights (ライツ)

支援センター運営団体：社会福祉法人 愛成会

神奈川県

担当課：福祉子どもみらい局福祉部障害福祉課社会参加推進グループ

13 神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：認定NPO法人STスポット横浜

山梨県

担当課：福祉保健部障害福祉課

14 YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター

支援センター運営団体：社会福祉法人八ヶ岳名水会

長野県

担当課：健康福祉部障がい者支援課

15 ザワメキサポートセンター (長野県障がい者芸術文化活動支援センター)

支援センター運営団体：社会福祉法人長野県社会福祉事業団

ブロック内の状況

南関東・甲信ブロック広域センター：南関東・甲信障害者アートサポートセンター

当ブロックには1都5県に7つの支援センターが設置されている。広域センターは2021 (令和3)年度から同じ法人が担う。埼玉県では、基幹型と特色型の2つの支援センターがあり、連携しながら県域に支援を広げている。新たな取り組みとして東京都では、当事者同士の交流の場を創出し、千葉県では、既存の展示会を組み込むこと

で事業規模を拡大した。山梨県では、障害の有無にかかわらず楽しむことができるバリアフリー映画上映会を開催。また昨年度に続き、神奈川県で、福祉施設にアーティストを派遣するワークショップ、長野県は教育機関との連携プログラムなどを通じて県域全体への普及をめざした。

南関東・甲信障害者アートサポートセンター

〒333-0831 埼玉県川口市木曾呂1445 社会福祉法人みぬま福祉会 工房集内
 TEL: 048-290-7355 FAX: 048-290-7356
 E-mail: artcenter@kobo-syu.com URL: https://skk-support.com/



Pick Up! 支援センターや自治体職員の学び合い

各種イベントにおける障害者アートの展示『VIVA LA ROCK 2023』

- 毎年度GWに行われるロックフェス「VIVA LA ROCK」において、障害のある方の絵画作品のレプリカを屋外ブースに展示。
- 埼玉県とVIVA LA ROCKによるコラボ企画で、障害者アートの魅力発信により、心のバリアフリー達成につなげることが狙い。
- “You'll Never Live Alone”(誰もが一人ではない)プロジェクトと題し、障害者アートの普及啓発、自殺防止活動、里親制度といった生きるための活動・取組とメッセージを広めている。
- 屋外展示における作品への影響を考慮し、アートセンター集からアドバイスをいただきながら、高解像度のレプリカを作成した。

令和5年度開催概要

- ・開催日 令和5年5月3日(水)~5月7日(日)
- ・会場 さいたまスーパーアリーナけやき広場
- ・展示作品 出品者14名、14作品
- ・来場者数: 3,386人
- ・展示作品は主催者の鹿野淳氏が選定し、すべての作品に同氏からのメッセージが添えられた。
- ・ブースにはシールアートのコーナーも設置

自治体担当者による事例報告会の様子

ねらい 当センターは、開設当初からブロック内の支援センターや自治体がそれぞれの活動を理解し、今後の活動に向けて一緒に考える場として、研修や事例報告会を実施している。今年度は、毎年開催している各都県の自治体担当者による事例報告会に加えて、①当法人の福

内容 ①福祉施設のアトリエ見学ツアーでは、一人ひとりの作品や制作に対する想い、支援の延長にある活動の実践や環境づくり等を紹介した。②研修では「教育分野との連携」をテーマに、2つの支援センターから運営母体の活動に加えて講師の経歴、活動に対する想いや連携のしくみについて伺った。

自治体による事例報告会は、全自治体の出席が叶った。今回は「支援センターとの連携」を中心に各都県の担当

社施設のアトリエ見学ツアー ②支援センター職員が講師を務める研修を実施。会議内での意見交換も充実することで、支援センターと自治体担当者の連携や交流を深める。また、新任の担当者も含めてこの事業の理解を深め、活動に対する意義を高める。

者から活動事例を紹介。どの自治体も広報連携に取り組み、地域によっては定例会の開催やプロジェクトの協働等も見受けられた。会議後も個別に連絡を取り合いながら連携している支援センター、事業について相談し合う自治体もある。事業評価アンケートでは、このような他都県の活動を知る機会や横のつながりを継続してほしいという声があった。

今年度の課題と目標

今年度も「支援センターの支援力の向上」「ブロック内連携と相互フォロー体制の強化」「鑑賞、発表機会の拡充」「支援センター認知度の向上」に向けて取り組んだ。特に今年度は新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、これまで以上に支援センターや自治体の交流を促

進し、連携を深めることを目標にした。また、支援センターが設置されている地域特性、専門性、センター運営の考え方、人員体制が異なり、それぞれの課題がある。個別のニーズや課題にも対応できるよう、当センターの活動の幅を広げた。

今年度の成果と展望

合同企画展や見学ツアー・交流企画のほかオンラインだけでなく対面での会議や研修に取り組み、会議内での意見交換も充実することで、支援センターと自治体担当者の連携や交流を深めることができた。また、それぞれの支援センターの課題や悩み事を会議の議題に設定し、個別にも対応するなどニーズに応じて事業を進めるための基盤ができた。年度後半に支援センターや自治体に

向けて行っている事業評価アンケートからは概ね高い評価を得た。アンケート結果から、支援センターの認知度に対して、支援センターと自治体で認識の差があるなどの課題を把握できた。引き続きこれまで築いた関係性や活動を生かしながら、支援センターのサポートに向けて注力したい。



左/支援センターの職員が講師を務めるブロック研修の様子
 右/合同企画展でのパフォーマンス実演 撮影:鈴木広一郎



実施一覧

●各支援センターに対する支援 [ウェブサイト・SNSでの情報収集、発信、4/1~3/31] [事業内容のヒアリング(オンライン)4/27~6/1(合計6回)] [第1回ブロック会議、6/6] [支援センターからの相談対応(オンライン)8/7] [第3回ブロック会議(オンライン)10/4] [第4回ブロック会議(オンライン)2/9] [研修への登壇(オンライン)3/12] ●芸術文化活動に関するブロック研修 [アートを仕事にする福祉現場のアトリエ見学ツアー、6/6] [運営サポートブックを活用した研修と意見交換(オンライン)7/5] [支援センターと多分野の連携を学ぶ研修と意見交換(オンライン)8/9] ●ブロック内の連携の推進 [見学・交流企画、7/17~12/9(合計5回)] ●参加する機会の確保 [南関東・甲信ブロック合同企画展2023「カウンターポイント-それぞれの寄り添うかたち-」11/29~12/3] [展覧会 会場動画(動画配信)3/27] [パフォーマンス実演 イベント、12/3]

●自治体における基本計画策定の推進 [第2回ブロック会議(オンライン)9/8] ●その他 [第三者による対話型評価、6/19~2/6(合計3回)] [事業評価ヒアリング(オンライン)1/10~1/17(合計6回)]

広域センター運営団体 社会福祉法人みぬま福祉会

1984(昭和59)年、重い障害を理由に卒業後の進路がない人たちのために「どんな障害がある人でも受け入れる」を理念に発足。「困難や例外的な状況にある人を切り捨てない」ことを大切に、さまざまな困難を抱えた人を受け入れている。現在は通所・入所・相談支援事業等22の事業を展開し、利用者は300名を超えている。

埼玉県障害者芸術文化活動支援センター アートセンター集 (基幹型)

〒333-0831 埼玉県川口市木曾呂1445 社会福祉法人みぬま福祉会 工房集内
TEL: 048-290-7355 FAX: 048-290-7356
E-mail: artcenter@kobo-syu.com URL: https://artcenter-syu.com/



Pick Up! 埼玉県障害者アートネットワーク TAMAP ±〇 (タマップ・プラマイゼロ)



ネットワークの支部ごとに分かれて、持ち寄った作品の魅力や表現活動での悩み等を共有

ねらい 「埼玉県障害者アートネットワーク TAMAP ±〇」の活動を広げるために、新たな分野とのつながりを構築する。参加する施設は新任者も多くなったため、あらためてタマップの活動の歩みや本事業の意義について認識を深める。特にコロナ禍はオンライン中心の活動だったため、対面で想いを語り合える場を設ける。また、新

内容 ネットワークの研修では、障害のある人の表現について話し合った。各施設の担当者や自治体職員による座談会やグループディスカッションも実施し、福祉とアートの関わりについて語り合った。加えて、今年度は教育分野や視覚障害者の支援団体と新たに繋がることができた。また、県内の中学校と協働で鑑賞体験企画を実施。2校の美術部の学生が参加し、事前に鑑賞した

たに教育機関と連携して、障害のある作家の作品の鑑賞機会を創出することで、一人ひとりの豊かな表現を伝える。そして参加した生徒たちの感性を育み、障害に対する理解を深める。鑑賞支援プロジェクトを通して、教育機関などとつながりを深めることでネットワークの拡充もめざしている。

埼玉県障害者アート企画展の作品の感想文を展覧会の会場で紹介した。それぞれの視点や作品の魅力が瑞々しい言葉で綴られ、その豊かな感性に感動し涙する作家の姿もあった。さらに、視覚障害者の支援団体から鑑賞の希望があり、当センターのスタッフと視覚障害のある方が対話をしながら展覧会を巡る鑑賞会が実現し、当事者の目線でどのような支援が必要かを学ぶ機会となった。

今年度の課題と目標

新型コロナウイルス感染症の5類移行により、今年度は対面でのネットワーク会議、研修や展覧会でのイベントの再開等、コロナ禍で控えていた事業の再開により、ネットワーク内の交流を促進する。また、本事業のさらなる普及に向けて新たな分野とのつながりを構築する。

今年度の成果と展望

展覧会でのアーティストトークや有観客でのトークイベント、対面でのネットワーク会議等、コロナ禍で控えていた事業の再開が叶った。新たな試みである鑑賞支援企画では、主催の展覧会で教育機関とのプロジェクトを実施した。また、ダンスワークショップに参加した視覚障

さらに、発表の機会では教育分野との試みとして鑑賞支援企画に取り組む。また、ワークショップなどの参加機会については、表現活動のジャンルを広げることで障害のある人の表現の可能性を探る。

害者の支援団体とのつながりから、展覧会の鑑賞支援の機会を得ることができた。今後も人材育成を軸に取り組んでいる「埼玉県障害者アートネットワーク TAMAP ±〇」の拡充により本事業の普及に努めたい。



左/県内の中学校との協働による鑑賞体験プロジェクト
右/作家が自作について語るアーティストトーク (埼玉県障害者アート企画展)の様子。コロナ禍を経て4年ぶりに実施された。



実施一覧

- 相談支援 [相談窓口、4/1～3/31]
- 人材育成 [商品化に関する研修 (オンライン) 講師: con*tio、5/18～12/21 (合計5回)] [事例発表会 アトリエ見学 (オンライン) 8/24] [権利保護に関する研修 (オンライン) 講師: 弁護士・岩本憲武、10/11・2/15] [表現活動について話し合う研修会 (講演) 講師: 宮本恵美、6/15] [表現活動について話し合う研修会 (座談会) 登壇者: 石平裕一、豊田亜紀、赤羽幸治、小澤圭佑、6/15] [表現活動について話し合う研修会 (グループディスカッション) 6/15] [作品選考会、7/14～9/5] [ギャラリートーク「表現の種をまくさいたまから新潟へ」2/2 動画公開、1/19]
- 関係者のネットワークづくり [定例会 (オンライン)、4/20～3/21 (合計12回)]
- 参加する機会の確保 [演劇ワークショップ、7/14～1/12 (合計5回)] [ダンスワークショップ、8/23～1/25 (合計3回)] [第14回埼玉県障害者アート企画展「Coming Art2023」11/29～12/3] [オープニングセレモニー、11/29] [ワークショップ「障害のある作家によるライブパフォーマンス」12/17「障害のある

作家による人形づくり」12/17] [織り&グッズ展 ツグズムズ16、12/17～12/23] [ワークショップ「障害のある作家によるステンドグラスのオーナメントづくり」12/18] [障害のある作家による革小物づくり」12/18] [展覧会会場動画、3/27]

- 情報収集・発信 [障害のある方向けの表現活動状況調査、6/14～12月末] [HP、SNS、YouTube等を使用した情報発信、4/1～3/31]
- 事業評価及び成果報告のとりまとめ [第13回埼玉県障害者アート企画展作品集の作成・配布、11/29～] [事業報告書、3/27～]

支援センター運営団体 社会福祉法人みぬま福祉会

1984 (昭和59)年、重い障害を理由に卒業後の進路がない人たちのために「どんな障害がある人でも受け入れる」を理念に発足。「困難や例外的な状況にある人を切り捨てない」ことを大切に、さまざまな困難を抱えた人を受け入れている。現在は通所・入所・相談支援事業等22の事業を展開し、利用者は300名を超えている。

北海道・北東北
南東北・北関東
南関東・甲信
東海・北陸
近畿
中国・四国
九州

ART (s) さいほく(特色型)

〒355-0077 埼玉県東松山市上唐子1532-5 まちこうば GROOVIN' 内
 TEL: 0493-81-4597 FAX: 0493-81-4597
 E-mail: arts_saihoku@subaru-swc.com URL: https://www.subaru-swc.com/~groovin/



Pick Up! 地域との協働による障害のある人たちのアート活動支援



みんなで楽しむ作品展 アートセッションズ in さいほく 2023

ねらい ART (s)さいほくでは、障害のある人たちがアートを通じて地域の中で活躍できるよう地域の人たちとの協働に力を入れている。今年度も市町村等からの作品展実施の相談を受けた。行政や相談支援等、作家本人、福祉事業所、私たち支援センターも含め関わる人たちが

内容 「日高市障がい者創作活動合同企画展」「第3回障がい者アート展 in おごせ」「☆アート展らんざん☆2023」の3作品展の実施に主催団体から相談を受け、主に展示方法の提案・什器の貸し出し、アドバイス等で協力をを行った。ミーティングや展示作業など、行政職員、

一緒に考え、つくり上げる作品展になるようミーティングや展示作業等と一緒に進む機会を持ち、その過程も大切に進めていくことを共有する。それにより作品の魅力・背景を知り、障害のある人たちのアート活動への理解、関心がより深まることをねらいとする。

作家本人、家族、事業所職員、支援センターも参加し協力し合いながら行った。作品展を実施するまでの連携・協働を通じお互いの理解・交流が深まった。センター主催の企画として公募作品展「アートセッションズ in さいほく 2023」を実施し、102名が出展した。

今年度の課題と目標

ART (s)さいほくの活動エリアで作品発表を希望する声は多い。発表の機会の確保を通じて、作品制作や事業所のアート活動等の活性化にもつながっている。今年度も作者や周囲の人(家族、支援者、友人等)、来場者が「共に楽しめる」作品展づくりを目標に取り組んだ。そのため

今年度の成果と展望

センター主催の公募展「アートセッションズ in さいほく」への応募が昨年よりも30名近く増えた。中でも児童の応募も増えはじめ、幅広い世代による作品展となった。また昨年に続き、相談支援事業所、相談支援事業所・町主催の作品展にも協力をを行った。それぞれの作品展で作者を始め、関わる人たちが一緒に楽しんでいる様子が



左/地域との協働第3回障がい者アート展 in おごせ
 右/新田新汰さん個展
 「僕の現在地」個人の作品発表の場づくり

実施一覧

●相談支援 [障害のある人達のアート活動等の相談支援等、4/1～3/31(合計64回)] ●人材育成 [アートセッションズ in さいほく 2023内ギャラリートーク、11/10] ●関係者のネットワークづくり [日高市障がい者創作活動合同作品展2023実施への連携・協働、11/24] [☆アート展嵐山☆2023実施への連携・協働、12/5] ●参加する機会の確保 [アートセッションズ in さいほく 2023、11/9～11/12] [新田新汰さん個展【ぼくの現在地】7/22～8/4] [日高市障がい者創作活動合同作品展2023、12/8～12/10] [第3回障がい者アート展 in おごせ、12/8～12/12] [☆アート展嵐山☆2023、12/15～12/18] [第14回埼玉県障害者アート企画展カミングアート2023、11/29～12/3] [南関東・甲信ブロック合同企画展2023、11/29～12/3] ●情報収集・

の課題として展覧会づくりの過程も大切に、作家本人、事業所、行政等地域のさまざまな人たちと連携・協働し取り組んだ。障害のある人たちがアートを通じて活躍できる地域づくりを地域の人たちと一緒にできるよう、身近で活用される支援センターをめざす。

うかがえた。作品展も作家本人を始め、町行政や支援事業所が皆で協力し合いながらつくり上げることができた。年々、その町ならではの特色のある作品展になっていると感じる。今後も地域での取り組みには積極的に協力し地域の活性につなげたい。また、協働事例を他市町村にも紹介し支援センターの活用にもつなげたい。



発信 [作品展や研修会等、取り組み等の情報発信(オンライン)4/1～3/31(合計128回)] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [冊子報告書の作成、4/1～3/31]

支援センター運営団体 社会福祉法人 昂

1990(平成2)年4月に「人も街ももっとやさしくするために暮らしを分け合うやさしい街づくり」をスローガンに設立した。障害のある方、そうでない方、すべての人たちにやさしい「まちづくり」をめざし、地域の皆さまと一緒に歩んでいる。法人や事業所を越えた連携や地域の資源、関係機関との協働をさらに進め、まち全体で「一つの福祉サービス事業所」となるよう力を合わせていくことをめざしている。

千葉アール・ブリュットセンター うみのもり

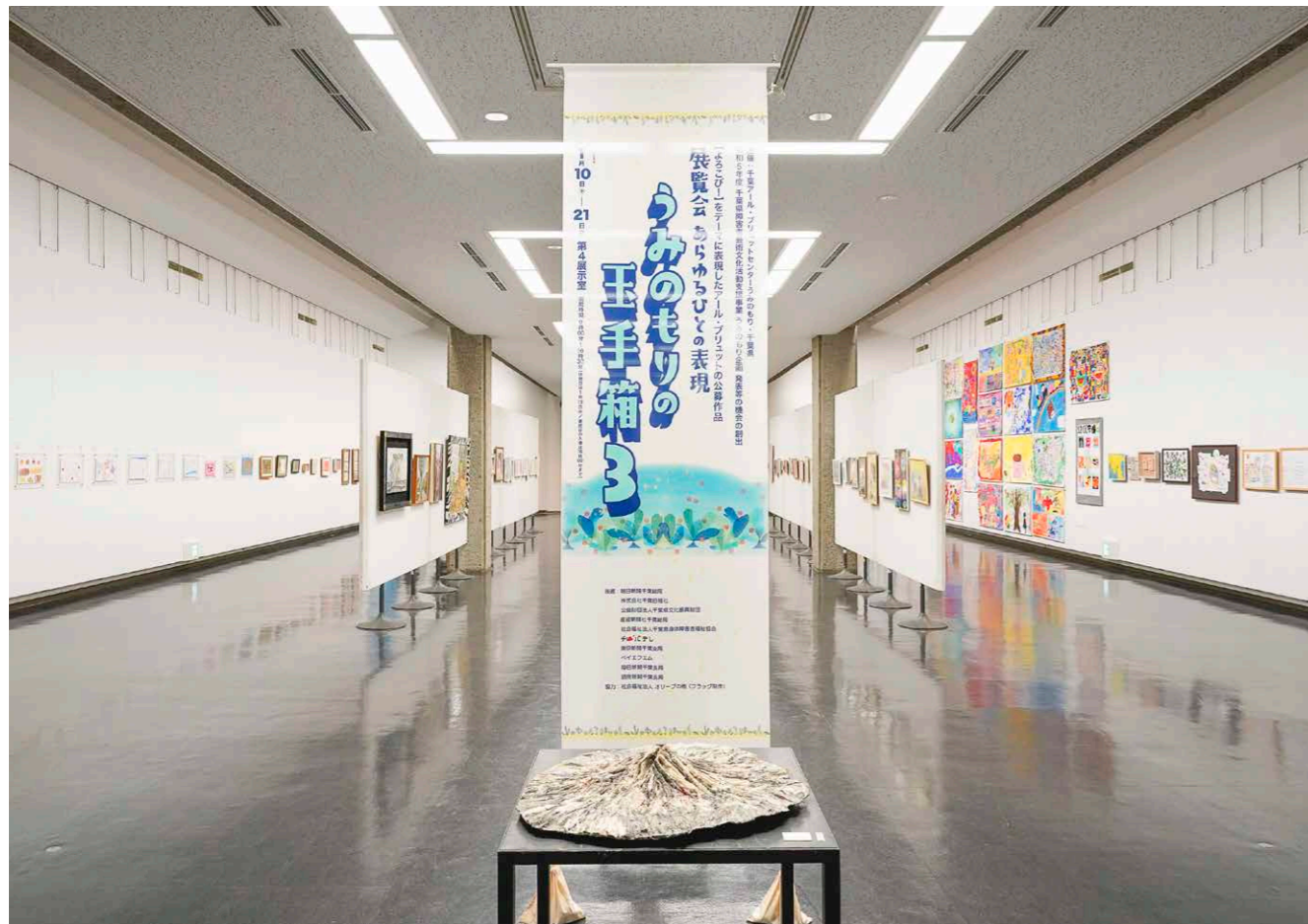
〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮2553-8

TEL: 0475-36-7411 FAX: 0475-36-7411

E-mail: info@uminomori.net URL: https://uminomori.net



Pick Up! 公募展「あらゆるひとの表現 うみのもりの玉手箱3」



公募展「うみのもりの玉手箱3」会場風景 撮影：竹村浩揮

ねらい 当センターが主催する公募展「うみのもりの玉手箱3」は、今年度で3年目を迎える。これまで県内の比較的小さなギャラリー数ヶ所で行ってきたが、「うみのもりの玉手箱3」ではアフターコロナの状況を見据え、規模を拡大するかたちでの展覧会の開催となった。千葉県立美術館に舞台を移すことで千葉県での障害者の発

内容 障害のある人の日々の豊かな余暇活動、表現を通じての社会参加、仕事の創出、支援をする人との大切な時間をつくり上げることで「つながる」芸術文化活動になることをめざし、「よろこび!」をテーマに公募展「あらゆるひとの表現 うみのもりの玉手箱3」を開催した。展

表などの機会をより増やし、今後における県内での障害者アート推進のシンボリックな事業をめざした。規模拡大に伴い、募集部門もこれまでの「フラッグ」「詩」「映像」の3部門を整理・拡大し、「部門1：絵画・彫刻（立体）・写真・書・クラフトの作品」「部門2：うみのもりフラッグの作品」「部門3：詩などの作品」とした。

示作品数は210点（部門1：絵画122点、彫刻（立体）17点、写真7点、書5点、クラフト作品12点、その他6点、部門2：フラッグ作品28点、部門3：詩などの作品13点）となり、このうち県内40の福祉事業所から応募があった。また、展示期間中の来場者数は4,177名であった。

今年度の課題と目標

まず、アフターコロナの社会状況に対応した「対面」での事業の再構築が求められるようになった。その中で千葉県の障害者アートのシンボリックな公募展をめざし、「うみのもりの玉手箱3」を千葉県立美術館で実施、成功させることが、今年度最大の課題となった。加えて、これまで実施してきた事業を継続・発展させるこ

今年度の成果と展望

公募展「あらゆるひとの表現 うみのもりの玉手箱3」は無事に終えることができた。来年度はさらに広い会場を使つての開催となることになり、より期待される公募展となる。今後、この公募展をさらに活用し、発表等の機会の場の提供だけでなく、千葉県内の障害者アートに携わる作家、事業所とのネットワーク構築、相談業務の拡

とも忘れてはならないことであり、そのために人材育成講座の充実を図り、講座において障害者と健常者が一緒に行ったワークショップの成果物を「音楽」「映像作品」として公募展覧会で展示する独自の試みも強化・継続した。また、公募展をきっかけとしたネットワーク構築と情報発信の強化もめざした。

充と深化していくことをめざしたい。

また、これまで注力してきた人材育成講座の充実と障害者アートに対する県民への啓発・広報活動の強化、県内の都市部と地方部との意識格差を埋める工夫などについても、さらに推し進めていきたい。



左/音楽表現ワークショップ
「多様な人との音楽づくり」実施風景 (8/12)



右/ワークショップ「こども・アート・障害を考える」
「絵の具と布を使ったドローイング」実施風景 (7/17)

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [人材育成講座1 講義・シンポジウム「こども・アート・障害を考える」7/17 ワークショップ「こども・アート・障害を考える」7/17] [人材育成講座2 動画配信「著作権保護」4/1～2/29] [人材育成講座3 ワークショップ「多様な人との音楽づくり」8/12] [人材育成講座4 講義「アートはユニバーサル!」9/1] [人材育成講座5 ワークショップ「うごいてはっけん、みんなのおもしろ」10/18] [人材育成講座6「もっと教えて!石井先生!」11/3] ●関係者のネットワークづくり [南関東・甲信ブロック合同企画展2023「カウンターポイント」への出展協力、11/29～12/3] ●参加する機会の確保 [公募展「うみのもりの玉手箱3」1/10～1/21] ●情報収集・発信 [メーリングリストによる情報発信、4/1～3/31(合計22回)]

支援センター運営団体

株式会社いろだま

株式会社いろだまが中心に運営し、3つの福祉事業所が福祉面でのサポートをしつつ障害者の表現活動の支援を行っている。株式会社いろだまは、千葉県において1998(平成10)年よりアート×共育の活動を行いながら、表現活動を通じて障害の有無にかかわらず、つながる教育・福祉の活動を続けている。

東京アートサポートセンター Rights (ライツ)

〒164-0002 東京都中野区上高田3-38-5 太和屋産業ビル2階

TEL: 03-5942-7251 FAX: 03-5942-7252

E-mail: rights@aisei.or.jp URL: https://rights-tokyo.com/



Pick Up! ティアラ表現ワークショップ「のはらフル」



身体表現の発表会とオープンワークショップの様子 撮影: たかはしじゅんいち

ねらい 身体を動かす活動に興味のある施設は少なく、コミュニケーション活動としても取り入れてみたいと考える潜在的な需要も多い。しかし、美術表現の活動と比べ、身体表現活動の実施にはハードルの高さを感じている声が多々あることが、前年度までの福祉施設等への訪問調査から分かった。身体表現の専門家からは「技術を教えるのではなく、障害の有無にかかわらず個々が

内容 江東区の文化施設と、多様な人同士でつくるインクルーシブダンスをさまざまな場で実践してきたNPO団体の二者と連携し、ファシリテーター育成研修と、障害のある人と一緒につくる身体表現ワークショップの2本立てのプログラムを8回実施した。研修の受講者は都内を中心に広く募集し、ダンサーや福祉施設職員等が集まった。身体表現ワークショップは江東区地域の障害の

持つ自由な表現を引き出せるファシリテーターは少なく、人材育成が急務」との意見もあった。このことから、障害のある人の身体表現の可能性を広げ、その表現活動に携わる人材の育成を実施するとともに、受講者や障害のある人、地域の人といった多様な人同士のコミュニケーションやネットワークづくりを目的とした。

ある人や福祉施設を中心に参加を呼びかけ、障害の有無や種別等を問わずさまざまな人が参加した。言葉がなくとも心を通わせ、個々の特性や想いに寄り添うことで、より自由で新しい表現が生まれる機会となった。身体を通じた交流から生まれる表現を大切にすため、実施は対面のみで行った。

今年度の課題と目標

前年度の事業で実施したトークイベントや研修会では、障害当事者を含めた参加者同士が、互いの活動についての悩みを共有したり、意見交換をしたりする場面があり、活動の発展のための情報交換やネットワークづくりの場の必要性を感じた。また、これまで地域と連携して実施したイベントや展覧会を通して、障害者の芸術活動の振興と拡充のためには各地域の人や団体が主体とな

今年度の成果と展望

身体表現の人材育成研修では、実施期間中に受講者が研修の講師のサポートの下、自身が務める福祉施設等で身体表現ワークショップを実施するといった発展が複数みられた。権利保護研修では、前年度以上に積極的な質問が増え、障害者の芸術活動支援への意欲と権利保護の意識の高まりがうかがえた。参加者同士のネットワークづくりを目的に実施した自由な語り場では、多様

り、地域に根ざした活動として継続的に実施されていくことが重要と考えている。そのため、今年度実施する研修や発表の機会は、地域の人や団体と連携し共催で実施することで、障害者の芸術活動が各地域での主体的な取り組みにつながる機運をつくるとともに、参加者同士の交流などが図れる場づくりを目標とする。

な人が互いの活動について新たな発表の機会を模索し合う場面などがみられた。当センターでは今年度連携した団体や、研修・イベントに参加した人が継続して意欲的に活動が行えるよう、情報の発信・提供に務めるとともに、障害当事者や障害者の芸術活動に関心のある人が必要とするネットワークづくり、発表の機会につながる事業を展開していきたい。



左/権利保護研修の様子

右/ネットワークづくりの場で参加者同士が語り合う様子



実施一覧

●相談支援 [無料法律相談、9/11～3/18 (合計6回)] ●人材育成 [ティアラ表現ワークショップ「のはらフル」6/9～1/26 (合計8回)] [障害のある人の芸術活動を守るために -著作権の基本を学ぶ-、12/2] ●関係者のネットワークづくり [コミュニティスペース「わあとなじかん with ライツ」開催のご案内、8/9～10/21 (合計3回)] ●参加する機会の確保 [ティアラ表現ワークショップ「のはらフル」発表とオープンワークショップDAY!、11/3] ●情報収集・発信 [ティアラ表現ワークショップ「のはらフル」記録映像制作 (前編・後編、オンライン) 3/28～(合計2本)]

支援センター運営団体

社会福祉法人愛成会

1958(昭和33)年に創立した、利用者と共に地域づくり・まちづくりに寄与する取り組みを行っている社会福祉法人である。所属や年齢、障害の有無を問わず地域に開いた創作の場「アトリエ pangaea (ばんげあ)」を運営するほか、2010(平成22)年からは、地域の商店街や人々と協働で芸術文化活動の発信に取り組んでいる。

神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター

〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル 地下1階

TEL: 045-325-0410 FAX: 045-325-0414

E-mail: info@k-welfare.org URL: https://k-welfare.org/



Pick Up! ワークショップ実施事業



「湘南希望の郷ケアセンター」で行われたダンサー・小暮香帆氏とのダンスの取り組み 写真:金子愛帆

ねらい 神奈川県内の障害福祉サービス事業所など7ヶ所を対象に、芸術家によるワークショップを実施した。実施施設のうち4ヶ所は昨年度からの継続実施、3ヶ所は公募による選定である。内容は「施設が地域とつながる方法を考えたい」「利用者の表現する力を引き出した」といった各施設のニーズに合わせて検討した。また、

内容 芸術家によるダンスや音楽、美術のワークショップを行った。参加者からは「みんなと一緒に楽しめた」「ふだんできない経験ができた」、職員からは「好きなことを通して出会う場をつくることができた」「自分たちの支援を振り返るきっかけになった」といった感想が聞かれた。昨年度から継続して行った施設の参加者の中に

実施終了後も継続した取り組みにつながることをめざし、近隣の文化施設へコーディネート依頼や、自治体の担当課等の関係機関に事業周知を行い、取り組みを見学していただいた。実施施設側でも、法人内の他施設と連携するなど自施設の取り組みとなるよう働きかけを行った。

は、前回の経験を通してより積極的に表現する姿もあった。また、施設を利用する障害者だけでなく、保護者や兄弟、施設に来ているボランティアや外国につながる子どもたちなど、障害の有無や年齢、国籍にかかわらず、共に過ごし楽しむ場をつくることができた。

今年度の課題と目標

年々相談件数が増加する中で、相談のつなぎ先となる地域資源の開拓が必要となっている。昨年度までの事業を通して県内の福祉施設や文化施設など、各地で障害者の芸術文化活動が活発に行われていることが見えてきたが、地域資源の把握やつながり、活動に関する情報

今年度の成果と展望

相談対応では、福祉施設や芸術文化団体等から自主的な企画に対するアドバイスを求める内容が多く、地域資源をつなげることで実現した事例もあった。また、ワークショップ実施事業では、近隣の文化施設がコーディネートを担当するなど、地域資源を活用した取り組みを行うことができた。コーディネーター養成講座はさまざま



左/県内の福祉施設職員を講師に招いた講座の様子

右/「地域相談支援センター さらん」でのアーティストユニット・Art Lab Ovaとの美術の取り組み 写真:金子愛帆

収集はまだまだ足りていないと感じている。今年度は、障害のある人が「地域の中で活動を続けられること」をめざして、「文化施設とのネットワークづくり」「県内の活動事例の収集」「関係機関への働きかけ」「自主的な活動のサポート」の4つに注力して事業に取り組んだ。

な地域、分野から集まった参加者同士が交流する機会となっていた。今後も障害者の芸術文化活動の場となりえる文化施設や生涯学習施設、社会教育施設とのネットワークづくりや、支援センターに蓄積されている県内の情報を整理することで地域の中で芸術にふれられるよう支える体制づくりをめざす。



実施一覧

- 相談支援 [都道府県内における相談支援、4/1～3/31(合計170回)] [相談窓口の周知パンフレット作成、8/7～3/31]
- 人材育成 [ワークショップ実施事業、9/12～3/13(合計24回)] [障がい福祉と芸術文化の関わりを考える勉強会、10/20～2/5(合計3回)]
- 関係者のネットワークづくり [協力委員会(オンライン)6/21・1/11] [文化施設職員との座談会、1/23]
- 参加する機会の確保 [成果報告会「地域とともに考える障がい福祉と芸術文化」2/20]
- 情報収集・発信 [神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターだより、5/2～3/31(合計10回)]
- 事業評価及び成果報告のとりまとめ [報告書の作成、2/27～3/31]

支援センター運営団体

認定NPO法人STスポット横浜

アートの持つ力を現代社会に活かすことをミッションに、小劇場「STスポット」の運営、学校や福祉施設への芸術家派遣、地域のアートプロジェクト支援などを行うNPOである。2015(平成27)年度からは、文化庁委託事業や神奈川県との協働を通して、福祉と芸術文化の関わりについて考える場をつくり続けてきた。

YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター

〒408-0025 山梨県北杜市長坂町長坂下条 1237-3

TEL: 0551-45-7027 FAX: 0551-45-8221

E-mail: yan@y-meisui.or.jp URL: http://y-meisui.or.jp/yan/

**Pick Up!** 芸術文化活動を支援する人材育成研修会
バリアフリー映画上映会『ケイコ 目を澄ませて』バリアフリー映画上映会『ケイコ 目を澄ませて』会場風景。
山梨県防災新館やまなしプラザオープンスクエアにて

ねらい 2022（令和4）年度に行った「目の見える人と見えない人が楽しむ美術鑑賞ワークショップ」では、視覚障害のある方とない方が観光地や美術館でそれぞれの見え方、感じ方を共有し合う中で互いを知り、交流を図ることができた。今年度も引き続き、障害のあるなし、障害

内容 上映作品は聴覚障害のある女性プロボクサーの日々を描いた『ケイコ 目を澄ませて』。富士吉田市、甲府市の2地域の会場にて開催した。芸術文化のバリアフリー化をめざしさまざまな取り組みを行うPalabra株式会社にバリアフリー日本語字幕とUDCastによる音声ガイドを付した上映の実施、講師・ナビゲーターを依頼した。上映後の茶話会では、参加者が輪になり映画の感想、

種別にかかわらずどなたでも参加できるバリアフリー映画上映会を開催。一つの作品を共に鑑賞する中で感じたこと、考えたことを共有し、互いを知り交流する中で芸術文化に親しむ上で必要な情報保障サポートについても共に考えることを目的とした。

参加者自身の経験、情報保障サポートについてなど感じたことを伝え合った。募集の際には県内の視覚・聴覚障害者協会、情報センター、眼科が主催する支援団体等の広報協力を得て、各回とも障害当事者の参加が3割を超えた。会場内に手話通訳者を複数名配置、茶話会ではUDトークでの文字サポートを行った。また希望者には会場最寄り駅からの送迎を行い、アクセスにも配慮した。

今年度の課題と目標

①相談支援：「相談者の自走をめざして伴走する」ことを指針とした。「代走」とならないよう、相談者自身の主体性を大事に行う。②人材育成：障害者支援を行う方や障害当事者、一般を対象とした鑑賞支援の研修「バリアフリー映画上映会」を開催し、障害のあるなしを超えて鑑賞を楽しむ工夫について共に考える場づくりを行う。③関係者のネットワークづくり：相談から発展した取り組みとして、アウトリーチによるヒアリング、創作ワーク

ショップを行うアートカフェミーティングを開催し、相談者の具体的な困りごとに伴走しながら関係性を深めていくことをめざす。④発表機会の確保：地域の他の主催者・個人が発表を行うにあたって生じる展示方法や販売方法等の困りごとに対して具体的な助言やサポートを行う。⑤情報収集・発信：主催事業、他団体が行う事業やお知らせについて、SNS（Instagram）で発信する。

今年度の成果と展望

①相談支援：相談数74件。例年に比べ、障害当事者からの相談が増加した。②人材育成研修：2地域にて計2回開催99名が参加。障害当事者の参加も3割を超え、映画上映後の茶話会では活発な意見交換が行われた。今後どんなイベントを行う場合も、どなたでも参加してもらえるようできる限りの合理的配慮を行っていきたい。③関係者のネットワークづくり：6件、計8回のアートカ

フェミーティングを開催。新たなネットワークを築くことができた。関わった団体に対しては継続的なフォローを行っていく。④発表機会の確保：継続開催展に対してのサポート、初めての個展・販売会に対しての助言等を行った。⑤情報収集・発信：Instagramへの投稿数28件、フォロワーやいいね数も増えてきている。HPでの発信が滞っていることが課題である。

左／絵画・版画ワークショップを行ったアートカフェミーティングの様子。南アルプス市にて
右／第10回山梨県障害者芸術・文化祭 先進的な舞台発表団体を招聘した鑑賞会

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [人材育成研修会「バリアフリー映画上映会」第1回富士吉田会場、7/16 第2回甲府会場、7/23] ●関係者のネットワークづくり [アートカフェミーティング、6/27～3/5（合計8回）] ●参加する機会の確保 [山梨県・みんなで楽しむバリアフリー演劇祭、9/16～18] [第10回山梨県障害者芸術・文化祭 先進的な舞台発表団体を招聘した鑑賞会、11/11] [大西暢夫写真展 120人の肖像展、2/9～11] ●情報収集・発信 [SNS等による情報発信、4/1～3/31]

支援センター運営団体

社会福祉法人八ヶ岳名水会

「共に暮らす地域の創造と実現（ノーマライゼーション）」という法人理念のもと、北杜市および韮崎市を中心に、障害のある人たちの地域生活を支援する事業を展開している。2016（平成28）年に「YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター」を開設。県と連携し、障害のある人たちの自立と社会参加をめざし、美術分野と舞台芸術分野のすそ野を広げる活動を推進していく。

ザワメキサポートセンター (長野県障がい者芸術文化活動支援センター)



〒381-0034 長野県長野市大字高田364番地1(長野県社会福祉事業団 本部事務局内)
TEL: 026-217-0022 FAX: 026-228-0310
E-mail: art@nagano-swc.com URL: https://nagano-swc.com/art/

Pick Up! ザワメキアート展2023 Roots of Arts



「ザワメキアート展2023 Roots of Arts」の会場風景

ねらい ザワメキアート展は、長野県在住の障害のある方の創造性あふれる作品を発信する場と県民が広く鑑賞する機会として、その優れた芸術性や創造性に対する認識を高めていただき、文化芸術活動の振興・推進を図ることをねらいとしている。2016(平成28)年から4年間、公募展を開催し、2021(令和3)年は過去4年間の入選者を紹介する企画展を行った。年々、来場者も増え、メディアにも取り上げられるなど障害のある方の芸術活動

内容 ゲストキュレーターに考古学研究者・堤隆氏を迎え、プリミティブで表現の根源的な魅力を放つ作品を選出し紹介した。特に今年度は作家および支援者と取材の段階から深く関わり、コミュニケーションを取ることができ

に対する県民の認識が高まりつつあり、この流れを継続できるよう開催している。本展の特徴は、作家の所属する福祉施設や自宅を訪問しての作品調査や聴き取りによる作家の生活や制作に至る背景の丁寧な取材にあり、作品の魅力だけでなく、作品や作家のモノガタリを紹介することを心がけている。

た。作家の作品展示に補完するようなかたちで、作家に対するキュレーターや支援者のコメントをキャプションとして掲示した。オープニングセレモニーのほか、関連企画の講演会やワークショップを行うことができた。

今年度の課題と目標

当センターを開設するにあたって5ケ年の運営方針を計画し、今年度はその2年目にあたる。前年度からの課題として、情報発信やネットワークの構築、レンタル事業の推進等が挙げられる。目標は、以下の通りである。①相談支援: 電話による相談受付、HP相談フォームの開設。②人材育成: 支援者向け展示講座、アートサポーター養成講座の実施。県内児童・生徒へのアート活動支援。

今年度の成果と展望

特筆する成果として、下記が挙げられる。④発表の機会の確保: ザワメキアート展、キララ☆展の開催。ザワメキアート展は今年度で7回目の開催となり、年々認知度が高まっている。アンケート調査の結果では、楽しみにされている方が多い。⑤作品の貸出: ガイドラインを作成し、レンタル事業の試行を行った。⑥情報収集・発信: 情報収集に関して、全県の障害者施設に芸術



「キララ☆展」の会場風景

③ネットワークづくり: 関係団体との連携。センター事業への意見や評価等を行なう組織の検討。サテライトセンターの検討。④発表の機会の確保: ザワメキアート展、キララ☆展の開催。⑤作品の貸出: ガイドラインの作成。レンタル事業の試行。⑥情報収集・発信: 県内施設への芸術文化活動に関するアンケート調査。作者への取材。施設の視察。

文化活動に関するアンケート調査を行い、現状の把握ができた。継続して作家の取材も行い、県内の福祉施設や個人の創作活動状況をより深く調査している。今後の展望については、センター開所から2年が経ち、障害者芸術文化活動に関する関係団体とのネットワークの構築が急務である。県内の関係団体を集めた意見交換会を検討している。



支援者向け展示講座の様子

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [キララ☆展支援者向け展示講座、1/17] ●関係者のネットワークづくり [県担当課との連携会議、4/18～3/27(合計12回)] [信州アーツカウンシルとの連携会議、4/25～3/28(合計12回)] ●参加する機会の確保 [ザワメキアート展2023 Root of Arts ゲストキュレーター・堤隆氏(考古学研究者) 12/9～12/25 WEB展、12/9～3/31] [キララ☆展(ザワメキ・キャラバン2023) 1/18～1/23] ●情報収集・発信 [ザワメキ・キャラバン in サンアップル、6/2～6/29] [ザワメキ・キャラバン in サントミュージゼ、11/2～11/5] [ザワメキ・キャラバン in 信毎メディアガーデン(対話アートNAGANO WEEK / ナナイロ会議) 11/16～11/29] [ザワメキ schoolキャラバン in 豊野西小学校、2/2～2/20] [対談「ヒトはなぜアートを手にしたのか?」(ザワメキアート展2023 Root of Arts)

12/9] [ワークショップ「黒曜石の垂飾り(ペンダント)を作ろう!」(ザワメキアート展2023 Root of Arts) 12/10] [取材(芸術文化活動のニーズ調査および発表の機会の創出へつなげる調査) 4/21～3/7(合計30回)] ●その他 [作品レンタル事業、4/1～3/31]

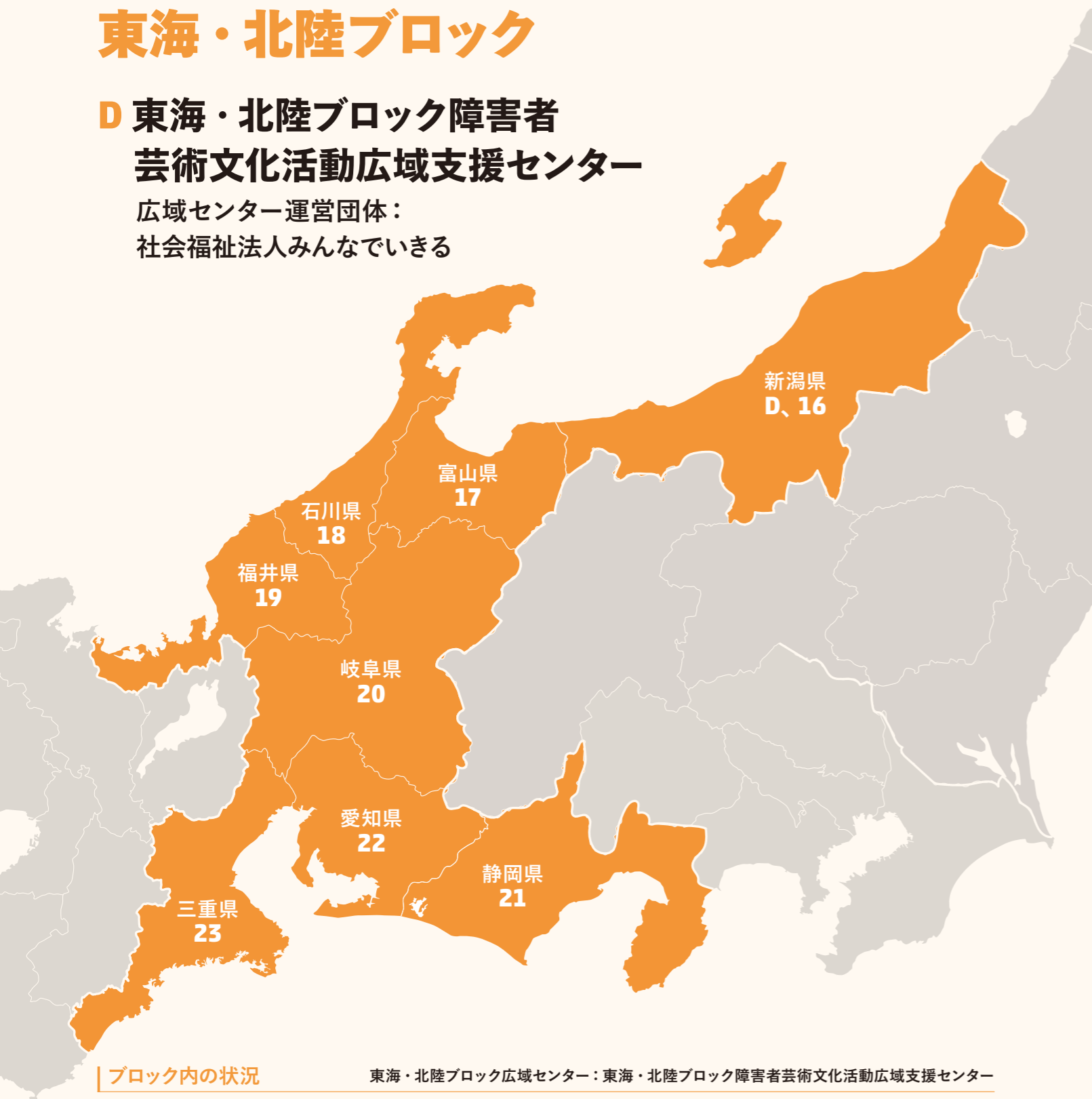
支援センター運営団体 社会福祉法人長野県社会福祉事業団

「誰もが笑顔で輝く社会を創造します」を経営理念に、県内各所にさまざまな施設・事業所を設置し運営している。2022(令和4)年度6月より、「ザワメキサポートセンター(長野県障がい者芸術文化活動支援センター)」をオープンした。「ザワメキアート展」を継続して開催するとともに、作品の販売や著作権に関する相談支援、芸術文化活動に関する研修等を行い、障がいのある方や、その支援をされる方を幅広くサポートをしている。

東海・北陸ブロック

D 東海・北陸ブロック障害者 芸術文化活動広域支援センター

広域センター運営団体：
社会福祉法人みんなできる



ブロック内の状況

東海・北陸ブロック広域センター：東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター

愛知県、岐阜県、静岡県、三重県、福井県、石川県、富山県、新潟県の8県全てに支援センターが設置されており、広域センターは新潟県に置かれている。石川県では「いしかわ百万石文化祭2023」が開催され、支援センターが中心となってアートレンタル事業の立上げ、アート作品の商用化などレガシーを残した。2024（令和6）年度は岐阜県において「清流の国ぎふ」文化祭2024が開催予定であり、支援センターが大会を盛り上げるための準備を進めた。

愛知県では支援センターの実施主体が変更となった。静岡県では新たに演劇の実施にチャレンジし、三重県では初の大規模なアートブリュット・フェスを実施し県内外の多くの作品を展示した。福井県では、新幹線の延長にとともに新たな駅で定期的なパフォーマンスを実施し、富山県では2022（令和4）年度の取り組みをブラッシュアップしたコンテンポラリーダンスを実施した。新潟県では新たな層へのアプローチと相談対応の強化に注力した。

新潟県

担当課：福祉保健部障害福祉課

16 新潟県障害者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：社会福祉法人みんなできる

富山県

担当課：厚生部障害福祉課地域生活支援係

17 富山県障害者芸術活動支援センターばーと◎とやま

支援センター運営団体：特定非営利活動法人障害者アート支援工房ココペリ

石川県

担当課：健康福祉部障害保健福祉課

18 文化・芸術活動支援センターかける

支援センター運営団体：特定非営利活動法人地域支援センターポレポレ

福井県

担当課：健康福祉部障がい福祉課

19 福井県障がい者芸術文化活動支援センター・ふくみなーと

支援センター運営団体：社会福祉法人ハスの実の家

岐阜県

担当課：環境生活部県民文化局文化創造課、健康福祉部障害福祉課

20 岐阜県障がい者芸術文化支援センター[TASCぎふ]

支援センター運営団体：公益財団法人岐阜県教育文化財団

静岡県

担当課：スポーツ・文化観光部文化局文化政策課

21 静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーと

支援センター運営団体：認定特定非営利活動法人オールしずおかベストコミュニティ

愛知県

担当課：福祉局福祉部障害福祉課社会参加推進グループ

22 愛知県障害者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：株式会社AJクリエイト

三重県

担当課：子ども・福祉部障がい福祉課

23 三重県障がい者芸術文化活動支援センター

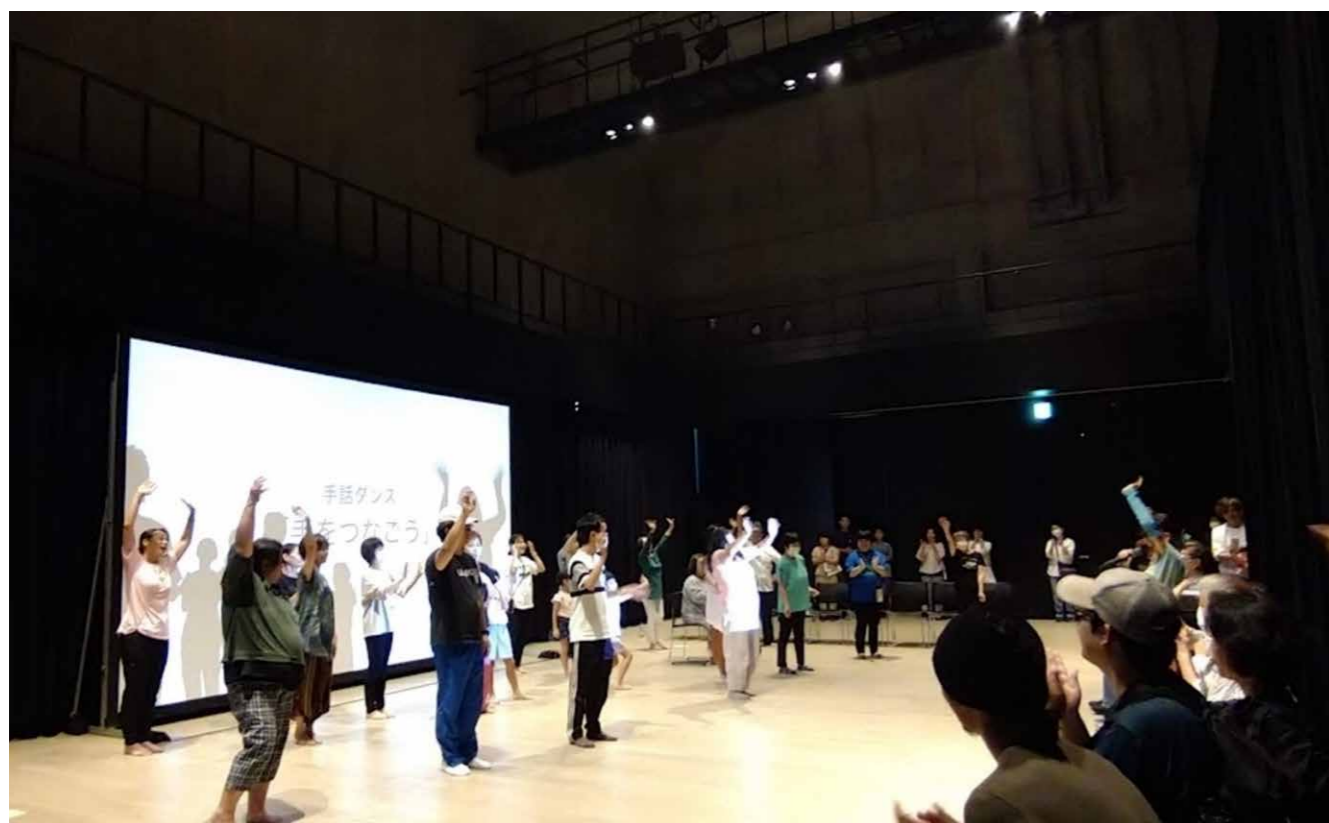
支援センター運営団体：公益社団法人三重県障害者団体連合会

東海・北陸ブロック障害者 芸術文化活動広域支援センター

〒943-0834 新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル307号室 社会福祉法人みんなでいきる法人本部内
TEL: 025-530-7264 FAX: 025-530-7261
E-mail: info@niigata-artbrut.net URL: https://www.niigata-artbrut.net/



Pick Up! 舞台芸術活動の推進



「ゆれる おどる つなぐ ワークショップ」実施風景

ねらい 美術分野と比較すると全国的に取り組みが低調な「舞台芸術活動」の推進を2023（令和5）年度の最重点事業とし、①支援センターの個別支援 ②人材育成事業への着手 ③ブロック内での特徴的な活動の実施、以上3つを柱として推進を図ることをねらいとする。①は支援センターが自地域で文化施設等と連携し、自走して舞台

内容 ①は富山県に舞台芸術アドバイザーを述べ20回派遣し、支援センターと文化施設、パフォーマーとの連絡調整を行い、共に舞台芸術事業を企画・実施した。このことにより、舞台芸術活動に興味のある福祉事業所や文化施設等と支援センターとのつながりができた。②は「障害のある方の舞台芸術推進」のための人材育成に関わる検討委員会を設置し、研修会の内容や育成する人

芸術事業を実施できるようアドバイザーの派遣 ②は障害のある方の舞台芸術の推進が図られるために必要な人材育成について検討する合議体の設置 ③はブロック内の特徴的な活動である音楽を通じて、新たなパフォーマーの育成や活動を実施している福祉事業所等の発掘や実践者のネットワーク化を図ることを目標とする。

材層等の検討を行った。③は「ジャパン・ミュージック・ブリュット・フェスティバル」において初の全国公募で出演者を募った。全国から出演希望があり、出演17団体のうち10団体が初出場となった。音楽活動を行っている新たな団体の発掘と出演団体同士のネットワーク化につながった。

今年度の課題と目標

開催が決まっていた「いしかわ百万石文化祭2023」をブロック全体で盛り上げていくことを目標とし、石川県の支援センターへの支援および大会広報に注力することに。併せて、前年度より相談が増加傾向にあったアートレンタル事業の実施に関わる対応への取り組みと、最重点事業とした舞台芸術の推進に向け、支援センターの

限られたリソースでどのような取り組みが有効か、検証できる仕組みをつくることを目標とした。年度途中ではあるが、令和6年能登半島地震により、北陸地域を中心に甚大な被害が発生した。復旧・復興には多くの時間を要するが、その過程で表現活動やデザインの力を適時活用していくことが求められる。

今年度の成果と展望

相談が多かった「アートレンタル事業のスタートアップ」について、情報交換会および研修会を実施し学びの時間を設けた。そのほか、ブロック研修会を8回9テーマで実施し、例年に引き続き人材育成を図った。また2022（令和4）年度に引き続き、広報・ネットワークづくり、舞台芸術、権利保護、合理的配慮の4つの課題に対し、延べ45回のアドバイザー派遣を行い、支援センターの

個別支援に当たった。美術分野においては、3地域でのブロック展示会および1地域での巡回展を実施し、東海・北陸ブロック内の表現活動の魅力を広く発信した。評価委員会では新たな取り組みがあることに評価を得たが、より丁寧な作品の扱い方など実務的な人材育成を図ってほしいとのアドバイスがあった。



「ジャパン・ミュージック・ブリュット・フェスティバル vol.04」壇上の様子



「三重県アール・ブリュット&ミュージック・ブリュット」展示風景

実施一覧

●各支援センターに対する支援 [アドバイザーの設置、4/1～3/31(合計48回)] [事例検討会(アートレンタル事業)の実施(オンライン)7/5] ●センター未設置都道府県の事業所等への支援 [実地研修の実施(オンライン)5/12] [「障害者芸術文化活動支援センター運営サポートブック読み合わせ会」の実施(オンライン)7/12] [SFRN EXHIBITION #1 ゆらぎ、7/15] ●芸術文化活動に関するブロック研修 [ブロック研修会の実施(オンライン)5/24～2/28(合計8回)] ●ブロック内の連携の推進 [個別ヒアリングの実施、4/28～2/21(合計23回)] [ブロック会議の実施(オンライン)5/24～1/25(合計7回)] ●参加する機会の確保 [「三重県アール・ブリュット&ミュージック・ブリュット」の実施、9/1～9/10] [「ボーダレス・アート。セッション in Himi」およびゆれる おどる つなぐ ワークショップの開催、9/3～9/24] [巡回展の実施、9/15～9/18] [ジャパン・ミュージック・ブリュット・フェスティバルの開催、12/9～12/10] [「てまえみそ展」実施、12/23～

12/25] ●自治体における基本計画策定の推進 [大分県障がい者芸術文化推進基本計画の取り組み状況についてのヒアリング(オンライン)2/28] ●その他 [報告書の作成、4/1～3/31] [舞台芸術の推進方法および評価軸の整理(オンライン)2/9] [評価委員会の実施(オンライン)3/11] [障害のある方の舞台芸術推進のための人材育成に関わる検討委員会の設置(オンライン)3/21]

広域センター運営団体 社会福祉法人みんなでいきる

「つながりのイノベーション」をミッションに、新潟県上越市において高齢・障害・児童・総合相談と総合的に福祉事業を展開している。「すべての人々を孤独にさせない支援」「すべての人々が「生きた証」を残せるように」をキーワードに福祉事業を通じて地域を創り続けている。

新潟県障害者芸術文化活動支援センター

〒943-0834 新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル307号室 社会福祉法人みんなでいきる法人本部内
TEL: 025-530-7264 FAX: 025-530-7261
E-mail: info@niigata-artbrut.net URL: https://www.niigata-artbrut.net/



Pick Up! 多様な方の発表の機会の確保



「ガタケット176」へのブース出展

ねらい「障害のある方の表現の発表の機会」が美術分野を中心に県下で増えてきた。それぞれの地域で、さまざまな団体が参加型展示会を自主開催できる力がつき、作家とのつながりも生まれている。支援センターとして、参加型展示会の機会を各地で展開していくという初期の目的は概ね達成されたといえる。一方、支援センターの役割の一つに、ほかの団体が受け皿になることが難しい

内容 新たな発表の機会の創出として2つの事業にチャレンジした。一つは日本海側最大規模の同人誌の展示即売会である「ガタケット」への出展である。公的な展示会では、作家本人が二次創作の発表をためらったり、主催者が出展不可とするケースが増加している中で、発表の機会を確保することがねらいである。ねらい通り二次創作に興味のある新たな層の作家の発掘につながっ

発表の機会の創出が挙げられ、センターと関わりを持てなかった層にいる作家との接点づくりや新たな表現形態を発表する機会の創出にチャレンジする必要があった。今年度は、相談を受けた二次創作に関わる作品発表および公共の場での作品出展をためらう方を対象とした発表の機会を確保することをねらいとする。

た。もう一つは、限定的な発表の機会の実施である。定員を4名に設定し、事前にどのような方が参加するか発表者同士で共有し、作品にまつわるデリケートな話題についても言及した。精神疾患のある作家の参加が多かったため、相談アドバイザーにも同席してもらい不測の事態に備えた。

今年度の課題と目標

障害のある方の表現活動に関わる取り組みに地域差があり、支援センターとの関わりが薄い地域を重点的にアプローチする必要があった。加えて、表現活動の推進を行う上でより広い層への働きかけが課題となっている。ひきこもりや軽度の発達障害のある方など、支援センターが関わってこなかった層へのアプローチを検討する必要がある。新しい層への働きかけを行う上で、相談ス

今年度の成果と展望

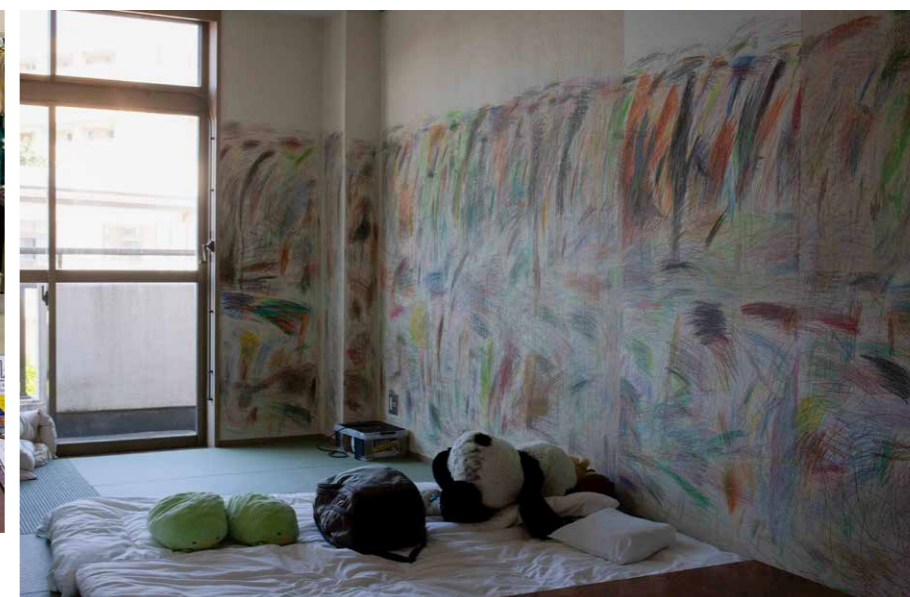
相談支援機能の強化を行った。アドバイザーを設置し、精神疾患のある方への対応、相談の終結時期、情報漏洩の防止など相談対応のフローを整備した。また、アプリを活用し相談内容をスタッフ間で必ず共有し、対応方法を協議するという情報共有の仕組みも構築したことにより、対応の円滑化が図られた。舞台芸術に関わる相談も増え、社会福祉法人から楽団

キルの向上も必須である。多様な方の相談に柔軟に対応できるよう相談体制の強化が求められている。また、公共の場で開催する従来の発表の機会では、作品の出展をためらうという相談があり、そうした声に支援センターとしてどのような環境を提供できるかが課題となっていた。

を立ち上げたいという依頼があった。所属するスタッフを対象にワークショップを行い、楽団設立に向けた担当スタッフの選考を行った。法人として今後、あらゆる事業に表現のファクターを取り入れるという方針を出しており、次年度以降、この法人を軸に舞台芸術の推進を図ることが期待できる。



左/「ガタケット176」におけるコスプレ店長
右/訪問調査の様子



実施一覧

●相談支援 [相談アドバイザーの設置、4/1～3/31] ●人材育成 [展示研修会の開催、7/26] [「アール・ブリュット入門講座」の開催(オンライン)12/20] [ワークショップ「からださがし」の開催、2/19・2/20] ●関係者のネットワークづくり [アート活動情報交換会の開催(オンライン)2/20] ●参加する機会の確保 [限定的な発表の機会の確保(オンライン)6/30・2/9] [「ガタケット」への出展、7/30・11/19] [「あ〜と展」展示協力、10/8～10/9] [「アール・ブリュットむらかみ」展示協力、10/21～10/22] [第21回「新潟県障害者芸術文化祭」への参画、11/7～11/19] ●情報収集・発信 [情報発信(オンライン)4/1～3/31] [訪問調査の実施、5/11

～12/7(合計10回)] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [協力委員会の開催(オンライン)3/26]

支援センター運営団体
社会福祉法人みんなでいきる

「つながりのイノベーション」をミッションに、新潟県上越市において高齢・障害・児童・総合相談と総合的に福祉事業を展開している。「すべての人々を孤独にさせない支援」「すべての人々が「生きた証」を残せるように」をキーワードに福祉事業を通じて地域を創り続けている。

富山県障害者芸術活動支援センター ばーと◎とやま

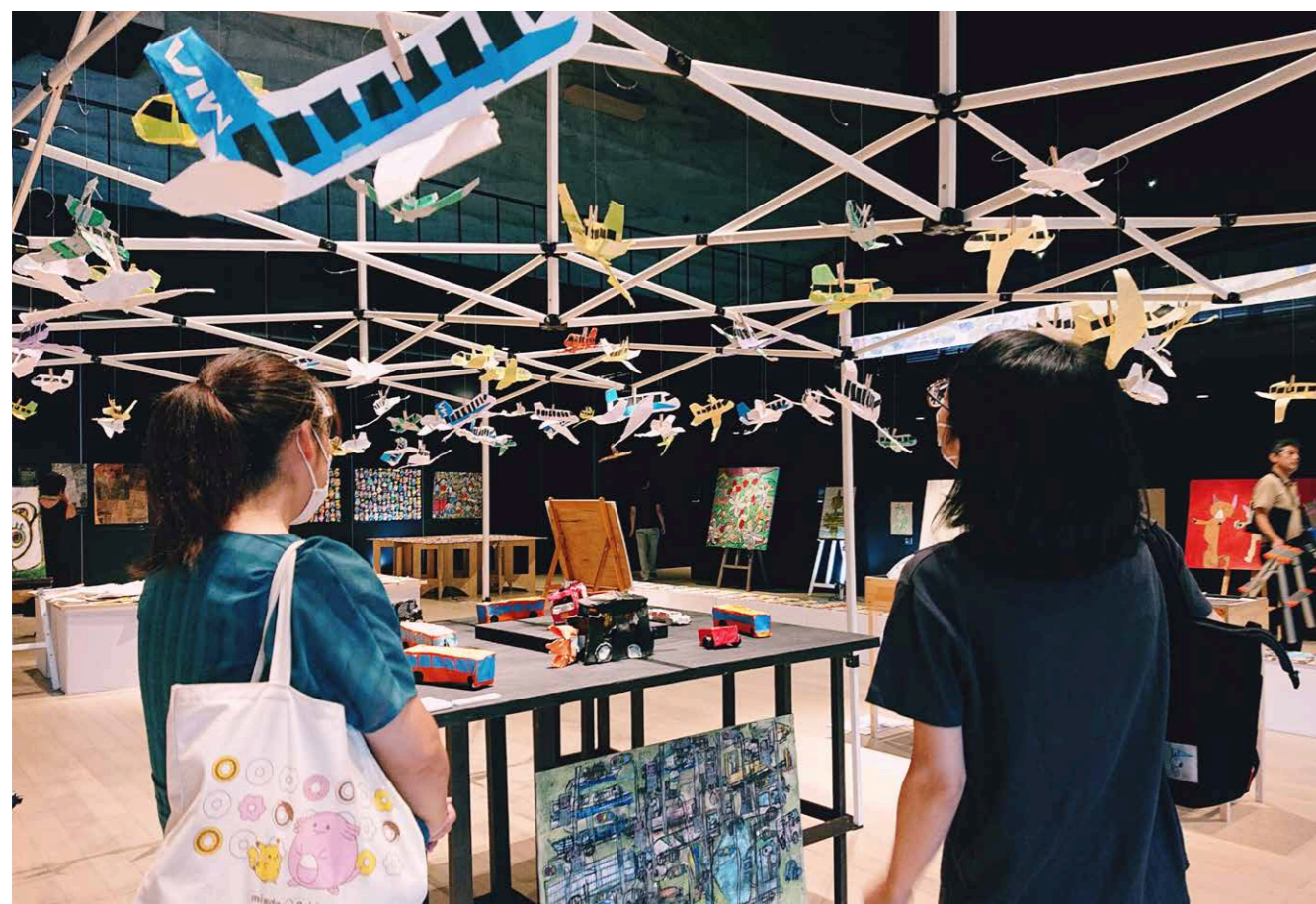
〒933-0115 富山県高岡市伏木古府元町2-5

TEL: 070-2643-0796

E-mail: beart.toyama@gmail.com URL: https://bearttoyam.jimdofree.com/



Pick Up! NOMAMA to GAMAMA (のままとがまま) 氷見のオール・ブリュット展



展覧会「NOMAMA to GAMAMA」展示風景

ねらい 多様な表現や作品を公募して展示を行うことにより、障害のある方の創作意欲を喚起し、発表発信の機会を創出する。また、地域における作家や作品の発掘を進めることで、障害者の創作活動支援の拡充を図る。ほか、富山県内と東海北陸地区で活躍する代表的な障害

内容 「のまま展」は、発掘応援事業として行った公募展である。展示は持ち込み作品のみとし、その際に創作の背景等を調査し、展示に生かすとともにアーカイブの資料とした。60名、980点の応募があった。「がまま展」は、県内在住者で県内外での出品や受賞経験を持つ作家15名の作品展示と、東海北陸ブロック各センターの「推しの

のある人の表現や作品を紹介し、表現の多様性や豊かさを伝えるとともに県内外の支援活動の成果についてふりかえる場とする。創作体験やダンスワークショップ等のアートイベントも会期中に行うことで、会場が交流の場としても機能するよう配慮する。

一点」を展示した。「誰でも創作体験」は、障害のある人ない人関係なく参加できる「ワークショップまつり」を行った。実演、創作体験、販売等、約10のイベントが行われた。「ゆるる おどる つなぐ ワorkshop」は、コンテンポラリーダンスによる2日間にわたるワークショップと発表活動に約20名が参加した。

今年度の課題と目標

地域行政や文化施設との連携を強化し、障害者の美術文化活動への関心を持つ人を増やす事業を展開し、それらを通して作家、支援者の意識を高めること、人材育

成への相乗効果を期待する。また、支援の対象となる活動に身体表現も取り入れ、より多様で多くの人にとって芸術活動への参加の機会を増やす取り組みを行う。

今年度の成果と展望

地域にある2ヶ所の文化振興財団と連携による展覧会を開くことができた。作品の公募により、県内で表現に取り組む人の掘り起こしにつながった。また、センターが関わるほかの展覧会への出品につながり、それぞれの発表の機会を増やすこともできた。2展あわせて約

100名のアーティストが参加、約4,200名が入場した。「企業×福祉×アート」の取り組みも増しており、各活動、関係者への支援や理解促進、人材育成についても今後注力する必要性が増した。



左/作品展示会場の隣のスタジオで披露したワークショップの成果

右/地元ハンドボールチームも参加して大盛況の「誰でも創作体験」実施風景



実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [創作体験ワークショップ「こんにちは!アート」6/19(合計2回)] [アート・コミュ「Artである 2+1=21」上映会とトーク、9/13] [研修会「アートとフクシのコラボーション」9/13] [ダンスワークショップ「ゆるる おどる つなぐ ワorkshop」9/23～9/24(合計4回)] [高岡市小学校での特別授業と展覧会、11/20] [アートコミュ「心を揺らすアート 地域を作るアート」3/10] ●関係者のネットワークづくり [誰でも創作体験、9/16～9/17] ●参加する機会の確保 [「NOMAMA to GAMAMA 氷見のオール・ブリュット展」4/1～1/1] [「PO-OF ART PROJECT」8/15～2/20] [NANTANG ギャラリー(富山県リハビリテーションセンター内)縄井亜祐美「うまれいづるもの」2/14～6/29 辻龍之介「NEKONEKONEKONOKOMONEKONE KONOKOMONE」6/30～進行中] [「ポー

ダレス・アートセッションH氏とN氏とM氏の展覧会](富山県民会館美術館)3/8～3/17] ●情報収集・発信 [障害者週間作品展示「みらいアート」(黒部市コラーレ)12/1～12/4 「だれでもちごてみないいが」(高岡市役所)12/3～12/8]

支援センター運営団体

特定非営利活動法人障害者アート支援工房ココペリ
富山県立高岡支援学校美術部OBの卒業後の創作活動継続のため、美術部顧問等がつくった絵画グループが基となって、より支援の輪を広げることを目的に2010(平成22)年に設置された。地元伏木からの発信を大切にしながら、「つくる」「かざる」「つなぐ」「さがす」「まもる」「つたえる」の活動を展開している。

文化・芸術活動支援センターかける

〒920-1346 石川県金沢市三小牛町イ3-2

TEL: 080-7484-9349 FAX: 076-287-0886

E-mail: po0po0.kakeru@m.email.ne.jp URL: https://r.goope.jp/po0po0-kakeru



Pick Up! 「てまえみそ展」



「てまえみそ展」会場風景

ねらい 「てまえみそ展」は2019（令和元）年より毎年行ってきた文化・芸術活動支援センター「かける」の展示会である。今年度は、東海北陸ブロックの支援センターの皆さまにもご協力をいただき、ブロック展として開催した。一般に向けて他県から集めた多様な作品を鑑賞してい

内容 石川県と東海北陸各県（新潟、富山、福井、岐阜、静岡、愛知、三重）の障害がある人たちが創作した、「ちょっと自慢したい!」という「手前味噌」な作品を紹介した。石川県からは、障害のあるアーティストの作品をレンタルするサービス「アートレンタルいしかわ」と、障害のある人

ただき、障害がある人のアートの多様性を知ってもらうことをねらいとする。また、障害者、福祉事業所に向けては多様な作品を通してイメージを膨らませ、「自分たちも!」と可能性を感じてほしいと考えた。

と地元デザイナーがタイアップした石川県オリジナルの新しい文字や絵である「百万石フォント」から出展した。作品は絵画や造形物等、約100点となり、来場者数は269名となった。

今年度の課題と目標

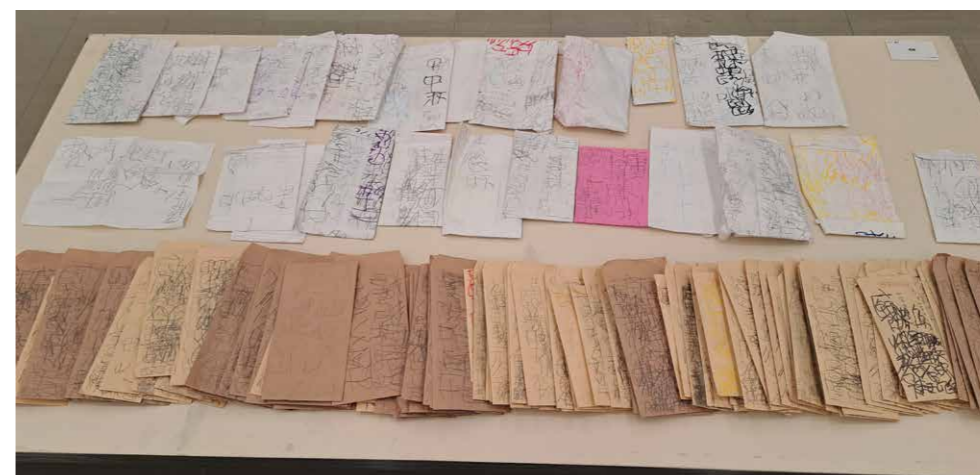
昨年度は、アート作品を活用した自主製品の開発支援を中心に取り組んできた。今年度も継続的に取り組んでいくが、参加事業所が限定的になるため、より多く広域的

に福祉事業所が参加できる機会の提供が課題である（登録方面、加賀方面の事業所は知らない、知っているも金沢開催では遠く参加できない等の声が多く聞かれた）。

今年度の成果と展望

今年度は「いしかわ百万石文化祭2023」サポートと「アートレンタルいしかわ」の立上げ業務が主になり、支援センターとしての事業は充分に取り組めなかった。その中で、機会の創出として各種（ダンス、木工、オリジナル缶バッジ制作）ワークショップの開催や他県も含めた出展の

促進を実施してきた。各事業を通してダンサー、デザイナー、社会福祉協議会、文化施設、大学生等の新たなつながりが構築された。今後はネットワークを活用し、福祉事業所にアプローチしていただけることを期待する。



左／出展サポートをした「まるまるつながるアートてんまる」展示風景
右／出展サポートをした「展覧会 NOMAMAtoGAMAMA」の展示風景

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●参加する機会の確保 [てまえみそ展、4/1～1/1] [展示会出展サポート、4/1～1/31(合計5回)] [百万石文化祭協力、4/1～11/26] [ダンスワークショップ、6/10・7/1] [創作ワークショップ、9/3・11/12] ●その他 [アートレンタルいしかわ立上げ業務、4/1～3/31]

支援センター運営団体

特定非営利活動法人地域支援センターポレポレ

「障がい」がある当事者とその家族に対して、相談、情報提供、具体的な支援に関する事業を行い、地域社会の福祉に寄与することを目的に活動している。センターの名称である「かける」は、ヒト・モノ・コトにおけるさまざまな価値観どうしに橋を“かける”ことで、互いに違う価値観にふれ、新たな価値観が創造されることへの願いから。特に福祉関係者に対するアプローチに力を入れている。

福井県障がい者芸術文化活動支援センター・ふくみなーと



〒910-4103 福井県あわら市二面87-26-2

TEL: 0776-78-6743 FAX: 0776-78-6744

E-mail: center-fukui@hyougen.org URL: https://hyougen.org/

Pick Up! 芦原温泉駅西口賑わい施設でのコンサート
「and Artist Collaboration Performance」

「ハスの実の家」の利用者たちによるエネルギッシュな歌の演奏

ねらい 今年度、地元あわら市の期待を背負い、JR芦原温泉駅アフレアホールで「and Artist Collaboration Performance」を開催。広く地域の方々との共同の開催をめざして取り組む。また、当支援センターの運営団体であるハスの実の家の利用者に加え、在宅障害の

内容 コンサートのレギュラーミュージシャンにフルート奏者とピアニスト、進行を担当するシンガーを置いた。その上で、ハスの実の家の利用者やダウン症の子どものダンスの発表、ラップ、主張等を行ってもらい、また、地域のアマチュアバンド、トーンチャイム、オカリナ等のグループの演奏で、そこに参加されたすべての方々と共に歌ったり、踊ったり、合同演奏できるような企画として

方々や特別支援学校の児童、生徒の参加を増やし、駅待合いや通行人、アフレアホール2階の「ふくいミゅ〜ジウム」利用者等の芦原温泉駅利用者らにも鑑賞したり、参加したり、互いに言葉だけでない共感、感動の場を創設する。

進めてきた。回を重ねる度に出演希望者が増え、観客も増えた。今年度は日曜日開催としたが、駅・観光客の利用状況や、障害児者事業所など休日の取り組みは困難と考え、次年度は土曜日の開催とし、障害のある人たちのさらなる表現の場、すべての人たちの参加の場を広げていきたい。

今年度の課題と目標

①県内における相談支援 ②芸術文化活動を支援する人材の育成など ③関係者のネットワークづくり ④発表の機会の確保 ⑤情報収集の実質的な取り組みを行う。人材育成のための研修会は、主催研修会、東海北陸ブロック・全国連絡会での学び、情報交換ミーティングと3つの層からなる豊富なプログラムを用意する。JR芦原

今年度の成果と展望

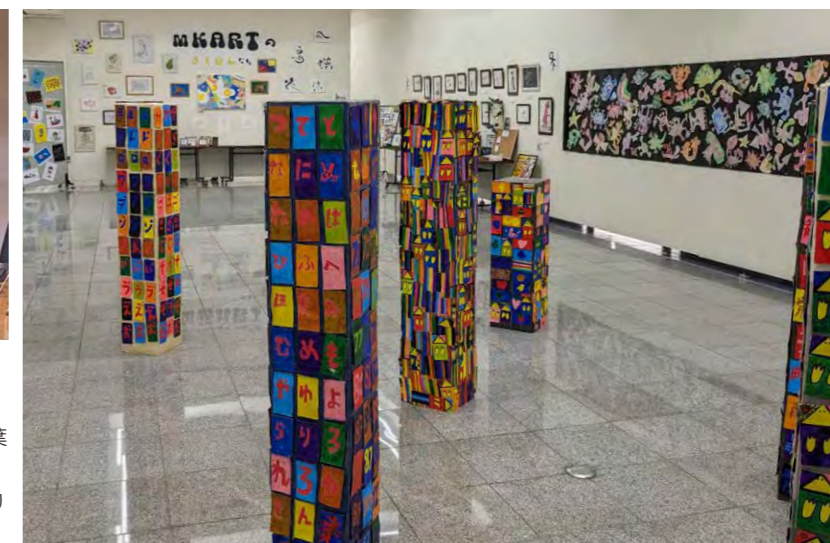
各種の広範な取り組みがより充実し、障害者事業所や関係団体を始め、県民の中に広く周知され、障害当事者を含め参加者も大幅に増えてきた。またホームページやSNS等を通じたリアルタイムな情報提供で相談や企画・参加の問い合わせ、また既存の組織にとられない新たなネットワークが構築されつつある。今後、各種事業に関して実行委員会や専門者会議等を広く呼びかけ協

温泉駅アフレアホールでの「and Artist Collaboration Performance」を月1回実施、広く障害のある人たちの発表の場の創設充実、定着を行う。ホームページ、フェイスブックなど、SNSにて情報発信を行っていく。これらの相談支援の拡充、裾野を広げていく。

働の取り組みの輪を確立していきたい。一方で東海北陸ブロック、全国連絡会、情報交換ミーティングでの学びは、全国的な動向や新たな取り組み等の経験交流、先進的な方向性を確信でき「新たな表現活動の可能性」を広げる事業の展開を県民の中に呼びかけ実現していきたい。



左/陸前高田市の「ノーマライゼーションという言葉のいらない街づくり」の講演風景
右/「三重県アールブリュット 2023」からのおかえりなさい展、展示風景



実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/21～3/25 (合計30回)] ●人材育成 [東海北陸ブロック会議・研修等 (オンライン) 5/24～1/25 (合計8回)] [全国連絡会、情報交流ミーティング (オンライン) 6/15～3/19 (合計7回)] [映画上映会と陸前高田市からのスペシャルゲストによるトークイベント、6/30] [三重アールブリュット2023東海北陸の荒ぶるアーティストたち、8/30～8/31] ●参加する機会の確保 [and Artist Collaboration Performance、7/2～2/11 (合計7回)] [富山氷見アールブリュット展、9/3～9/24] [三重県アールブリュット2023からのおかえりなさい展～あざやかに奏でる音色たち～、9/15～9/18 (合計4回)] [Another Morning Festival 2023 in Fukui こどもたちの医療、教育、芸術をみつめて、行動する、12/2] [石川てまえみそ展2023、12/23～12/25]

[「まるまるつながるアートてん まる」ミニコンサート、1/6] ●情報収集・発信 [facebook運用、4/21～3/23 (合計146回)] [催し物案内一斉メール配信、4/26～3/22 (合計24回)] [ホームページ運用、5/12～3/22 (合計32回)] [お知らせ郵送、5/21・9/6] [映画「星に語りて～Starry Sky」の上映、6/24～6/29 (合計5回)]

支援センター運営団体
社会福祉法人ハスの実の家

本年度創立59周年を迎えた。23年間の無認可時代を含め障害の重い人たちの日中活動の場として、また生活の場、支える場として、その人たち、家族、地域の皆様の願いを実現してきた。障害のある人たちのコンサート、文化・芸術活動をいつも真ん中に置いて活動し続けている。

岐阜県障がい者芸術文化支援センター〔TASCぎふ〕

〒502-0841 岐阜県岐阜市学園町3-42 ぎふ清流文化プラザ1F

TEL: 058-233-5377 FAX: 058-233-5811

E-mail: tasc-gifu@g-kyoubun.or.jp URL: https://www.tascgifu.com/

Pick Up! tomoni アートサポータープレゼンツ企画
「わたしのファッションショー」

「わたしのファッションショー」参加者

ねらい 「TASCぎふ」に登録しているサポーターによる自主企画として企画内容や運営も行うことで、各自が地域での活動に活かしていくことをねらいとする。また、協力していただく方々も、学生などの若者やアーティスト等、

内容 出場者（モデル）を公募により集め、自作や貸出の衣装を着て、12組16名の方がランウェイを歩くファッションショーを開催した。プロのモデルや重度身体障害の方等、多様な出場者に対応するため、サポーターは司会や出場者との連絡調整などを行った。また、モデルによるウォーキング指導や美容専門学校の生徒によるヘア

これまで障害者や福祉に関わったことのない方々にも参加や活躍の場面を設け、興味・関心を持っていただくきっかけとし、多様な方々のネットワークにつなげていく。

メイク、音楽家による生演奏、カメラマンによる記録撮影等、さまざまな専門家にも関わっていただく機会となった。それら関係者には聴覚や精神等に障害のある方も含まれ、多様な出場者と協力者・支援者が一つのイベントに向けて取り組み、成功に導いた好事例となった。

今年度の課題と目標

これまで「TASCぎふ」が主体となって各事業を企画・運営してきたが、障害者の文化芸術活動やその価値を各地域や特に若者に広めることができていないという課題があった。そこで、福祉やアートに関わったことがない方、特に若者に障害者と文化芸術活動を通して交流し、考える機会を設けるとともに地域で自立、自走し、また地域の

今年度の成果と展望

さまざまな企画において、得意なことや好きなことを通して高校生や専門学校生、大学生が障害者と関わりを持っていただく場を設けることができた。対面することでより身近に感じたり、考え続けるきっかけとなったり、今後につながる成果があった。また、各地域においては地元で活動する団体や個人がキーパーソンとなり、そこ

「こたえない学校プロジェクト」より。
クリヨシ×多治見西高校写真部「クリヨシを撮ろう」

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [サポーター制度、4/1～3/31] [チャレンジ企画展、4/29～7/17] [舞台手話通訳者養成講座 in ぎふ、5/13～6/4 (合計9回)] [基礎研修①、表現研修②、5/20] [舞台鑑賞サポーター育成講座 (基礎講座) 6/4] [舞台鑑賞サポーター育成講座 (実践講座) 8/13] [県民参加型舞台「森の夏祭り」コンサート、8/13] [TASCぎふサポータープレゼンツ企画展 わたしのファッションショー、9/9～11/7] [鑑賞研修①「誰もが鑑賞を楽しんで、どうということ?」9/19・11/5] [権利研修①「障害のある人たちの表現活動を守る著作権セミナー」1/25] [重症心身障がい者の生涯学習について学ぶ (オンライン) 2/16] [アートをメインとした県外施設を見学しよう、2/19] ●関係者のネットワークづくり [カフェでの販売、4/5～3/31 (合計4施設)] [こたえない学校、6/1～3/27 (合計21回)] [出張オープンアトリエ+α、6/23・8/25] [エイブルアート展関連 オープンアトリエ、7/17] [巡回展 HIDA まちなかアート、9/10～12/7] [みんなのもくもく作品展、11/14～11/26] [作品利用、3/6 (合計2回)] ●参加する機会の確保 [みんなのアート展、4/27～3/14] [私のいってん! + つなぎ ふくらむ作品展 (県庁) 5/16～3/14 (合計11回)] [TASCぎふコラボ展 vol.9、5/24～2/27] [第35回美濃加茂市美術連盟展

方々にも広めていただくためのサポートを行うことを目標とした。

また、これまでもバリアフリー演劇や字幕付きの映画上映等を行ってきたが、さらに多様な障害者に来場や鑑賞、参加いただくための情報保障 (アクセシビリティ) にも力を入れ、サポートできる支援者も増やしていくこととした。

から地域づくりへと展開する広がりを見せ、興味や参加、協力する人々が増えている。今後はさらに障害者や福祉、文化芸術の境界や括りをなくす方向へ、さまざまな人との協働を通して価値観を共有、広める活動を行う予定である。

「出張オープンアトリエ+α」より。
いぶき福祉会「にっこりえんがわマルシェ」

特別展 TASCぎふプレゼンツ展 みんなカモン! 6/11～6/18] [多様な有りよう展 2023、6/30～8/6] [TASCぎふのオープンアトリエ、7/30] [ワークショップ「ゲコリーナを作ろう!」8/3] [ワークショップ NEST 思い 響る 書は心なり、8/11～8/28] [いろいろなみんなの展覧会 虫が、食む。11/3～11/7] [TASCぎふサポータープレゼンツ企画 わたしのファッションショー、11/4] [特別支援学校総合文化祭 美術作品展、11/14～11/26] [清流ゆめ凧灯台、4/1～3/31] ●情報収集・発信 [ホームページ、4/1～3/31] [協力委員会、11/7] [調査4/1～3/31 (合計20回)] [令和5年度報告書作成] [記録集] ●その他 [画材バンク、4/1～3/31] [作品利用、4/3～2/28 (合計5回)] [オープンアトリエ、5/3～3/7 (合計13回)] [クラフトマンいっきのワークショップ、10/22]

支援センター運営団体
公益財団法人岐阜県教育文化財団

県民文化および地域文化の振興と発展並びに健康づくりおよび生きがいの推進を図ることにより、心身の健康と豊かさを実感できる「誇りあるふるさと」岐阜づくりに寄与することを目的としている。若者や障害者、地域の芸術文化活動の拠点として、ぎふ清流文化プラザの管理・運営を行っている。

静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーと

〒420-0031 静岡県静岡市葵区呉服町2-1-5 5風来館4階
 TEL: 054-251-3520 FAX: 054-251-3516
 E-mail: mirart@findart.jp URL: https://findart.jp/



Pick Up! パフォーミングアーツ Look@me!2023



Look@me!2023「銀河鉄道の夜」出演者

ねらい 障害のこと、障害のある人のことを知っていただき、相互理解の促進につなげることを目的とする。幅広く障害のある人の文化芸術活動を支援していく上で絵画等の美術分野と比較して取り扱い件数が少ない舞台芸

内容 舞台芸術分野の発表の場として、毎年「パフォーミングアーツ Look@me! (ルック・アット・ミー)」と題した舞台発表の場を設けている。第6回となる今年度は、宮沢賢治原作『銀河鉄道の夜』の演劇に挑戦し、一つの作品を皆でつくり上げ、大勢の観客の前で上演した。上演

術分野にスポットを当て事業を計画した。本事業では出演者を募集し、発表の機会を創出する。運営は多方面の専門家の協力を得て協働関係を築くことで、障害のある人の文化芸術活動の支援の輪を広げることに寄与する。

にあたり脚本・構成・演出・振付・映像制作等の各専門家に協力を依頼。また、出演者の保護者や福祉事業所職員の協力も得て10回以上のレッスンを重ね、上演日を迎えた。

今年度の課題と目標

文化芸術活動を通じて障害のある人の社会参加と障害のある人に対する県民の理解促進を図るため、以下3つの活動指標を掲げた。①文化芸術活動を支援する人材の育成に努める(指標:研修会等を3回以上開催)②地域の障害のある人による表現活動の発表の機会を確保する(指

標:県内東部・中部・西部地区で展示会を各1回以上開催、舞台発表を県内で1回以上開催)③障害のある人が文化芸術活動に参加できる機会を増やし、支援人材の育成にもつながるアウトリーチ事業を開催する(指標:オープンアトリエ等を県下8圏域で各1回以上開催)。

今年度の成果と展望

①研修会は計3回開催し、参加者は45名だった。また、障害のある人を取り巻く環境や支援状況等をテーマに、学校機関にて講義を行った(参加者:デザイン専門学校38名、大学125名)②絵画展示会は東部地区3回、中部地区3回、西部地区9回の計15回開催。舞台発表は1回開催。舞台発表は演劇「銀河鉄道の夜」を上演し、SNSや障害

者芸術祭等で映像展示した③アウトリーチ型のオープンアトリエ等を8圏域で合計39回開催し、参加者は延べ420名となり、アート活動の裾野を広げる取り組みとなった。このような取り組みを継続することで、障害のある人の文化芸術活動を支援していきたい。



左/福祉事業所職員を対象としたアートセミナーの様子

右/特別支援学校でのワークショップ「リサイクル品でアートをつくろう」実施風景



実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31(合計92回)] ●人材育成 [支援人材の育成、4/1～3/31(合計5回)] ●関係者のネットワークづくり [協力委員会の設置(オンライン)4/1～3/31(合計4回)] ●参加する機会の確保 [みらーと風を創るひとたち展等、4/1～3/31(合計15回)] [パフォーミングアーツ Look@me!2023、9/24] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [令和5年度運営事業成果報告書] ●その他 [オープンアトリエ・ワークショップ、4/1～3/31(合計48回)]

支援センター運営団体
認定特定非営利活動法人
オールしずおかベストコミュニティ

2010(平成22)年に「障害のある人の働く笑顔で、福祉と企業、地域の心をつなぎます」を理念に、障害のある人の働くことの支援を目的に誕生した。当法人では、障害のある人がその能力と適性に応じた働く場に就き、地域で自立した生活を送ることができるような共生社会の実現をめざすように支援している。

愛知県障害者芸術文化活動支援センター

〒462-0841 愛知県名古屋市北区黒川本通 2-40

TEL: 052-912-3676 FAX: 052-912-3653

E-mail: aa-aichi@aichi-geifuku.com URL: https://aj-create.localinfo.jp/



Pick Up! 「あいちアール・ブリュット障害者アーツ展」 舞台発表



「あいちアール・ブリュット障害者アーツ展」舞台風景

ねらい 障害のある人による創造活動は多様な場で行われているものの、舞台芸術や音楽等の表現活動をする場が少なく課題である。愛知県では2021(令和3)年度からあいちアール・ブリュット障害者アーツ展「舞台企画」

内容 障害のある人たちの芸術活動の認知度が高くなってきており、計7組の団体が出演。音楽やダンス、落語、作品(絵画)制作と音楽のコラボレーションといった既成概念にとらわれないパフォーマンスと演目も多種多様となり、開催日を土曜日にしたことで、年齢層も高校生から高齢者まで幅広く参加いただくことができた。たくさ

の一つとして、舞台発表の一般公募を開始している。今年度はより多くの方が参加できるように開催を土曜日とし、学生の方の出演や保護者の方の観覧のしやすさに努め、早めの広報・周知を心がけた。

んの観客席のある舞台上で披露することが嬉しいという人もいれば、緊張のあまり舞台上に上がりがたがらない人もおり、どちらにとっても刺激となった。本番ではその刺激をバネにその人の中にある強さが引き出され、誇らしげな笑顔と一人ひとりがその場を自分のものにする素晴らしさが来場者を惹きつけた。

今年度の課題と目標

愛知県では、2014(平成26)年度に第1回目となる「あいちアール・ブリュット展」を開催。2023(令和5)年度で10周年を迎えることもあり、行政との連携を通して芸術関係者や教育関係、福祉事務所との関係づくりを進めている。併せて、芸術文化活動に参加する機会についても通

今年度の成果と展望

「あいちアール・ブリュット」10周年を迎える中で、行政との連携を通して登録有形文化財施設やJRゲートタワー、愛・地球博記念公園など、多くの人が行き交う中での「まちなか展示」を開催することができた。また、企業や大学関係者等からの相談により、アール・ブリュットへの取り組みの幅も広がり、人材育成や権利保護の推

常の場に加え、登録有形文化財施設や多くの人が行き交う商業施設や市民展等にも働きかけ、社会における障害のある人の芸術活動の理解を深め、見方が変わることが促していく。また、ホームページやチラシ等でセンターの周知を図り、相談業務を充実させる。

進等につながった。中でも愛知県が全国でも先駆けとなったアート雇用への取り組みについては、希望や関心が非常に高く、センターを通じて多くの方を一般就労へ結びつける支援ができた。今後も、さまざまなアートが社会へとつながっていけるよう支援に努めていく。



左/まちなか展示(JRゲートタワー)での展示風景
右/国の登録有形文化財にてを開催した「街なかアーツ」



実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31] ●人材育成 [シンポジウム「アール・ブリュットの時代Vol.4」～アートって、なかに…アートの力～、2/17] ●参加する機会の確保 [子どもたちのアール・ブリュット2023、4/1～3/24] [最も自由な人たちVOL.10、7/30] [為三郎記念館 2023夏 OPEN MUSEUM「街なかアーツ」8/19～8/27] [まちなか展示/あいちアール・ブリュット展10周年記念事業 連携事業、8/19～3/31(合計5回)] [LoVE Gifted～三重県アールブリュット2023&ミュージックブリュット～、9/1～9/10] [NOMAMA to GAMAMA 氷見のアール・ブリュット展、9/3～9/24] [あいちアール・ブリュット障害者アーツ展、9/16] [ABDiM、11/23] [JAPAN MUSICBRUT FES VOL.04、12/9～

12/10] [石川県・東海北陸各県で障がいのある人が創作した作品を紹介する展覧会2023 てまえみそ展、12/23～12/25] [あいちアール・ブリュット/サテライト展(豊川市)2/6～2/11] ●情報収集・発信 [ホームページ等に情報発信、5/30～3/31]

支援センター運営団体
株式会社AJクリエイト

「描く・つくる」を仕事につなげる職業紹介事業所である。障がい者雇用のコンサルティング、文化芸術活動のマネジメント、ギャラリーの管理・運営を行っている。2023(令和5)年5月には、あいち芸術福祉ギャラリーも開設し、アーツの拠点となるよう展開していく。

三重県障がい者芸術文化活動支援センター

〒514-0113 三重県津市一身田大古曾670-2 三重県身体障害者総合福祉センター内
TEL: 059-232-6803 FAX: 059-231-7182
E-mail: info@mie-asc.jp URL: https://www.mie-asc.jp/



Pick Up! 舞台手話通訳、字幕、音声ガイドつき演劇「メゾン」& 鑑賞サポートワークショップ（文化庁委託事業との連携開催）



舞台手話通訳、字幕、音声ガイドつき演劇「メゾン」 撮影：西澤愛菜

ねらい 芸術文化活動において「鑑賞」することが好きという声がアンケートに多くあり、国の要綱改正にも合わせて「鑑賞」を主軸においた事業を計画した。昨年度までは事業のほとんどが美術分野であったため、他分野の芸術文化を普及していくねらいもあり、シアター・アクセシビリティ・ネットワークとの連携により、障害のある方へのサポートが充実した演劇の公演、そのサポート方

内容 聴覚障害と視覚障害の当事者から学ぶ鑑賞サポートワークショップは定員以上の申込があり、手話通訳者等の支援者が多く参加した。講師の指示を聞きながら介助者になりきって会場を案内するロールプレイングを行い、「実践的だった」「今後に生かしていきたい」といった感想が聞かれた。舞台手話通訳・字幕・音声ガイドつき演劇「メゾン」は満席となり、多くの方に鑑賞サ

法を支援者等が学ぶワークショップを企画し、県内の障害者芸術文化活動において鑑賞の機会を確保していくことをめざす。また、鑑賞サポート付き演劇を手話通訳者に体験してもらうことで手話通訳の向上を図ること、情報保障付きの「障がい者芸術文化祭ステージ発表」の出演希望者・観覧者の増加を図る。

ポート付き演劇を体験してもらうことができた。手話通訳者が演技をするなど舞台に溶けこんだ鑑賞サポートを見てもらうことで、手話通訳等の情報保障の向上につながった。「感動した」「また公演をしてほしい」という声が多く、鑑賞の機会を拡大する必要性を主催側も含めた参加者全体に感じてもらうことができた。

今年度の課題と目標

昨年度までは、作品を出品する人やその関係者以外への障害者芸術にふれる機会の提供が不十分であった。また「障がい者芸術文化祭」では、ステージ発表の出演希望者・観客が共に少ないことが課題となっていた。今年度は初めて演劇に関する事業を計画し、舞台鑑賞や舞台発表に興味を持ってもらうことで障害者芸術の間口

を広げていくことに注力した。

作品展はさらなる発展をめざし、県中心部から離れた地域での開催により広く周知を行った。また、芸術性の高い展覧会を開催することで出品者の意欲向上につなげるとともに、芸術への造詣が深い方に来場していただき、障害者芸術の魅力を知ってもらうことを目標とした。

今年度の成果と展望

演劇分野については、舞台手話通訳・字幕・音声ガイドつき演劇「メゾン」の公演、障害者と支援者が簡単な舞台発表まで経験する演劇ワークショップの2つの事業を実施した。いずれも参加者の満足度が高く、障害のある方と演劇文化を楽しむ環境づくりへ一歩踏み出すことができた。また、美術館での作品展や東海・北陸地方の作家も招待して大規模に開催した文化施設でのアートフェ

スを通じて、多くの方に障害者芸術にふれる機会を提供できた。美術館や文化施設のスタッフ、芸術に造詣の深い来場者との交流で新しいネットワークが構築されたため、来年度はこうしたネットワークも活用しながら障害者芸術を多方面で支援し、広く周知できるセンター運営をめざす。



左/東海・北陸の作家を招待したアートフェス「LoVe Gifted」展示風景
右/パラミタミュージアムで開催した障がい者芸術文化祭の受賞作品展



実施一覧

●相談支援 [アートサポーターによる相談支援、4/1～3/31 (合計22回)] ●人材育成 [演劇「メゾン」& 鑑賞サポートワークショップ、1/26] [講演「やまなみ工房の取り組みについて」2/3] [演劇を使ったコミュニケーションワークショップ見学会、2/16] ●参加する機会の確保 [三重県障がい者芸術文化祭受賞作品 常設展示、4/1～3/31] [葉のアーティストたち展 Vol.7 カラフル、5/20～6/10] [三重県厚生事業団記念式典 会場展示、6/22] [令和4年度三重県障がい者芸術文化祭受賞作品展 (パラミタミュージアム) 7/15～7/26] [今を生きる展、8/3～8/12] [ART BRUT CAFÉ 2023、8/8～8/20] [三重県アールブリュット& ミュージックブリュット2023 (LoVe Gifted 2023) 9/1～9/10] [令和4年度三重県障がい者芸術文化祭受賞作品展 (伊勢市展と

同時開催) 10/24～10/29] [令和5年度三重県障がい者芸術文化祭、12/1～12/2] [みえアールブリュット 津会場、1/18～1/21 名張会場、2/23～2/29] [令和5年度三重県障がい者芸術文化祭受賞作品展 (三重県庁) 1/29～2/2]

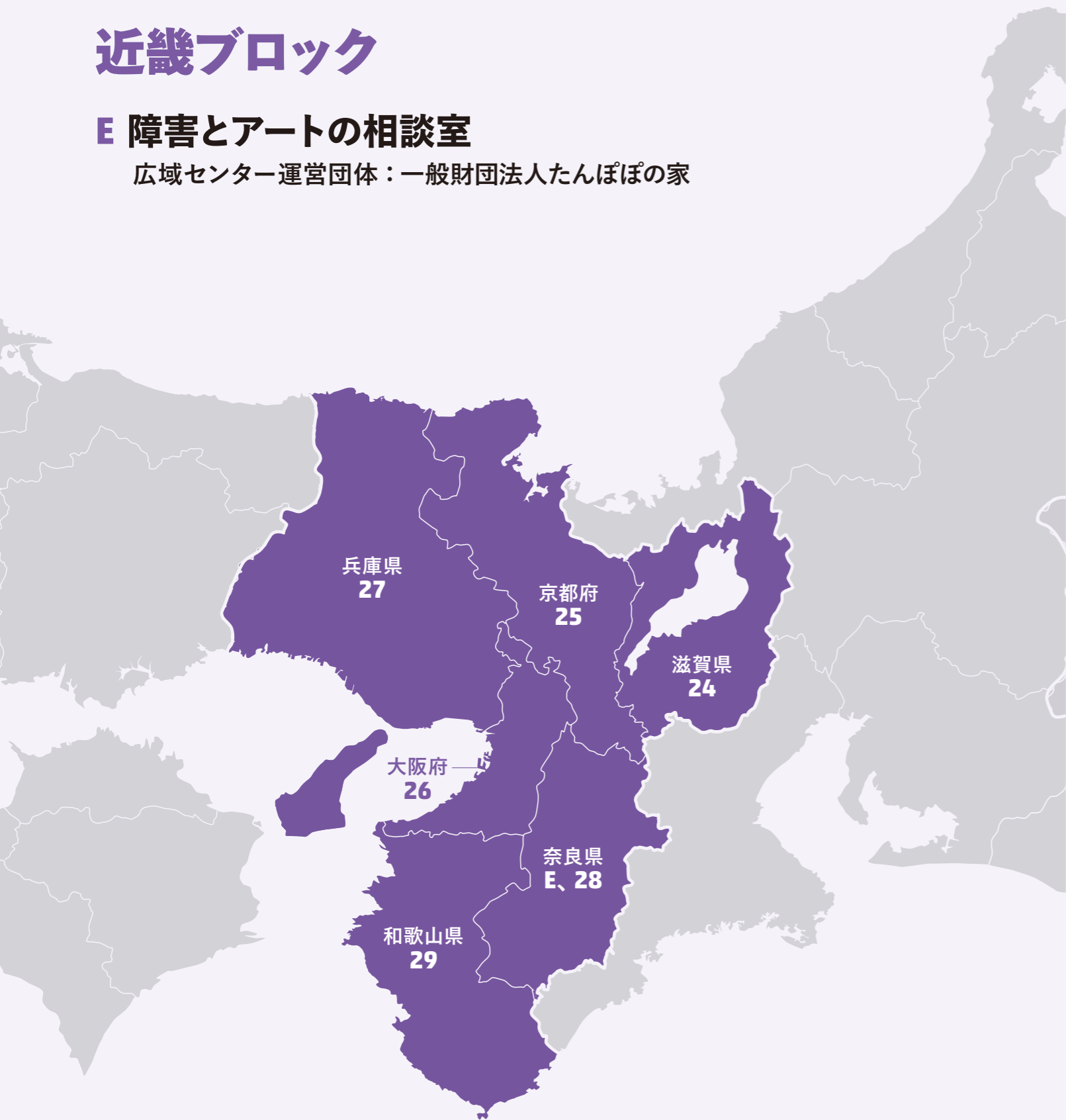
支援センター運営団体 公益社団法人三重県障害者団体連合会

県内の市町障害者団体で構成しており、「ノーマライゼーション」の理念のもと、障害者の自立と地域社会への参画を推進する事業を展開している。2012 (平成24) 年度から「三重県障がい者芸術文化祭」を開催し、障害者の芸術・文化活動の活性化を図り、2020 (令和2) 年から三重県障がい者芸術文化活動支援センターを運営している。

近畿ブロック

E 障害とアートの相談室

広域センター運営団体：一般財団法人たんぼぼの家



滋賀県

担当課：健康医療福祉部障害福祉課

24 アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター

支援センター運営団体：社会福祉法人グロー

京都府

担当課：健康福祉部障害者支援課

25 art space co-jin

支援センター運営団体：きょうと障害者文化芸術推進機構

大阪府

担当課：福祉部障がい福祉室自立支援課

26 国際障害者交流センター ビッグ・アイ

支援センター運営団体：ビッグ・アイ共働機構

兵庫県

担当課：福祉部ユニバーサル推進課

27 ひょうご障害者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：兵庫県福祉部 ユニバーサル推進課

奈良県

担当課：福祉医療部障害福祉課

28 奈良県障害者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：奈良県福祉医療部障害福祉課

和歌山県

担当課：福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課

29 和歌山県福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課

支援センター運営団体：和歌山県福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課

ブロック内の状況

近畿ブロックは、今年度、奈良県に支援センターがオープンし、ブロック内全てに支援センターが設置された。これまで先駆的な取り組みをする団体の活動が目立っていたが、比較的活動歴が浅い福祉施設や障害のある人たちの創作活動の機会も広がり、作品発表の場も増えている。大阪府や兵庫県等では2025(令和7)年の大阪関西万博に向けて、障害者の芸術文化活動を通して寄与していくという計画もあり、ブロック全体で活動が活発になっている。今年から活動を始めた奈良県では、施設見学やセミナーを通して関係者のネットワーク構築の土台づくりがスタートした。滋賀県は、障害のある人の芸術文化活動を支援するためのセミナーにおいて、大阪府・兵庫県の支援センター担当者とともに

近畿ブロック広域センター：障害とアートの相談室

に、創作物の活用や環境整備、著作権等について、来場者の悩みに答えた。京都府は、ブロック研修のオンライントークシリーズで、第1回「発信を考える—表現の見つけ方/展覧会のつくり方」に講師として登壇してもらった。和歌山県に関しては、県内で福祉・芸術文化活動を行う団体へのヒアリングを実施し、今後のセンターの活動支援のヒントを探った。さらに、自治体の障害福祉と文化振興の連携が取りづらいなど、地域性や行政文化の違いから生まれる課題もエリアごとに見えてきた。また、地域で障害者の芸術文化活動を支える支援者が不足しており、今後は人材育成等により注力していくことが必要だと考える。

障害とアートの相談室

〒630-8044 奈良県奈良市六条西3-25-4

TEL : 0742-43-7055 FAX : 0742-49-5501

E-mail : artsoudan@popo.or.jp URL : https://artsoudan.tanpoponoye.org/



Pick Up! オープンアトリエ「まち歩き&写真ワークショップ 世間遺産@奈良」 「春の目ざめ—影あそびパフォーマンスワークショップ」



「まち歩き&写真ワークショップ 世間遺産@奈良」実施風景

ねらい 障害のある人の創作活動の場を広げるために地域資源を活かすこと、多様な表現方法にアプローチすることをめざす。オープンアトリエ「まち歩き&写真ワークショップ 世間遺産@奈良」では地元の企業と連携する。障害のある人や市民にとっては表現へのチャレンジができ、また企業にとっては障害のある人のアート活動を支える機会があることで障害者や芸術文化への理解が広がる。

内容 ①オープンアトリエ2023「まち歩き&写真ワークショップ 世間遺産@奈良」：障害のある人、ない人が、写真を通して地域を再発見するワークショップ。「100年後に残したい風景」をテーマに、奈良市のならまち地域を歩きながら、写真表現を探求した。パートナー団体として、リコージャパン株式会社奈良支社が参加。リコーが持つプロジェクター、プリンター等を活用し、日頃体験

「春の目ざめ—影あそびパフォーマンスワークショップ」では、舞台表現などある程度の環境が整っていないと関わるのが難しい分野でも、創作から発表までの流れを体験することで、その分野の表現の魅力を感ずることができる。写真や影絵（舞台）といった多様なジャンルにさまざまな視点や役割を持って関わることで、参加した人たちがより交流しやすい環境をつくることもめざす。

できない写真表現を楽しんだ。
②「春の目ざめ—影あそびパフォーマンスワークショップ」：影絵の技法を使って、ストーリーやキャラクター、演出や音楽を参加者と一緒を考えて制作。最後にミニ公演を行うことによって、参加者同士のコミュニケーションだけではなく、見る人たちにどう伝えるかという演出の部分まで学び合う機会をつくった。

今年度の課題と目標

センター間の連携に関することが今年度の大きな課題である。センター間の連携を促し、支援が足りないセンターのサポートをできるような仕組みをつくることや、各センターの取り組みを紹介する発信を続け、各地域やブロック内外での認知度や関心度を高めることをめざした。

今年度の成果と展望

今年度は会議等での情報交換だけでなく、当センターが企画したイベントに各支援センターのスタッフが登壇する機会をつくるほか、立ち上がったばかりのセンターの企画運営のサポートを行った。また、より多くの創造の環境づくりに向けて、オープンアトリエの実施により、地域のネットワークづくりの事例や多様な表現の機会をつ

また、近畿ブロック内では比較的、障害者の芸術文化活動は充実している地域が多いが、地域に偏りがあり、新規参加が難しい場合も多い。より多様な表現を楽しむ環境をつくることで、つくる・みせるだけではないアートを通じた交流の場を増やしていくことめざす。

ることができた。一方で、長年活動している支援センターが事業目標を立てにくい、福祉や文化・教育やまちづくりの連携が取りづらいという課題も見えてきた。今後は各自自治体の障害福祉、文化振興の垣根を低くし、各地域の障害のある人たちの創造・発表・鑑賞の機会をより長期的につくっていくことが必要と思われる。



左/「まち歩き&写真ワークショップ 世間遺産@奈良」で撮影した作品を発表する様子
右/「春の目ざめ—影あそびパフォーマンスワークショップ」。参加者同士が身近なものを組み合わせて影絵をつくる



実施一覧

●各支援センターに対する支援 [近畿ブロック連絡会議の実施(オンライン) 6/14～2/28(合計3回)] [奈良県支援センター開設の広報、7/1～3/10(合計5回)] [奈良支援センターのセミナー&見学会の企画提案およびファシリテート、12/2・1/17] ●芸術文化活動に関するブロック研修 [近畿ブロック研修会の実施(オンライン) 8/10・2/28] [オンライントークシリーズ(オンライン) 2/28～3/7(合計4回)] ●ブロック内の連携の推進 [ウェブサイトやSNS等での広報強化(オンライン) 5/1～3/31(合計143回)] [「報告ショー～報告書を読みあう会」の実施、7/14] ●参加する機会の確保 [障害とアートの研究会の実施(オンライン) 12/6～12/20] [奈良県内での「オープンアトリエ」の実施、12/16～3/31(合計3回)] [福祉をかえる「アート化」セミナーにおける、相談会の実施、

1/28] [「鹿の劇場2024 一音と言葉がめぐるとき」の実施、2/24] [身体表現とコミュニケーションに関する研修の実施、3/20] ●自治体における基本計画策定の推進 [各支援センターへのヒアリング、2/12～3/10(合計6回)]

広域センター運営団体 一般財団法人たんぼの家

ソーシャル・インクルージョンをテーマに、アートの社会的意義や市民文化について問いかける事業を実施している市民団体。1973(昭和48)年より活動を開始。奈良を拠点に国内外のネットワークを通じ、障害のある人のアート活動支援事業や新しい仕事づくり、ケアの文化づくりに関するさまざまなプロジェクトに取り組んでいる。

アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター



〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦4837-2

TEL: 0748-46-8118 FAX: 0748-46-8228

E-mail: artbrut_info@glow.or.jp URL: http://info.art-brut.jp/

Pick Up! 鑑賞サポート研修「障害のある人とともに芸術鑑賞を楽しむために」



「鑑賞サポート研修」実施風景

ねらい 障害のある人の文化芸術活動を支援する人や関心のある人が、それぞれの事業所等において研修での学びを生かしながら、障害のある人の文化芸術活動に取

り組めるようになること、参加者同士の交流から新たなネットワークが生まれることをめざす。

内容 文化施設職員や制作に関わる人など、文化芸術活動に携わる人を対象に鑑賞サポートについて学ぶ研修として、全2回の研修を実施した。研修では作品のバリアフリー化や作品へのアクセス、鑑賞に関わるサポートについて学べる内容とした。当事者の声が聴けるよう、視覚障害当事者、聴覚障害当事者の方をそれぞれ講師に迎え、鑑賞にまつわる体験談を聞く時間を設けた。日頃

から映画や公演を楽しまれているお二方の講師から、具体的な鑑賞体験の楽しみ方や困りごとなど、生の声を聞くことができた。また、研修の最後にはグループワークを取り入れ、研修での学びや感想を参加者同士で共有した。グループワークを通して参加者同士の交流の場もなった。

今年度の課題と目標

新型コロナウイルスの感染拡大時には、活動・発表の機会が減少しているとの声が多く聞かれたが、現在は感染症対策を講じて活動が再開され、公演やイベントの開催も増えている。一方で、コロナ禍において寸断されたつながりは完全には戻っておらず、昨年度の取り組みの中でも、参加者同士や出演者と鑑賞者の交流を求める声が多く聞かれた。また、2022（令和4）年度に滋賀県が文化施設を対象に実施した「障害者の文化芸術活動等

に関する実態調査」から、文化施設において障害者の芸術文化活動が実施されるような活動が必要であると考えられる。

当センターでは、参加者等の交流が生まれ、ネットワークが構築されて次の活動や展開に発展した取り組みを行うこと、加えて文化施設において障害のある人のサポートについて理解が深まることをめざし、事業を計画する。

今年度の成果と展望

「人と人をつなぐ」「交流の場を設ける」ことを重視し、対面の研修では参加者同士が交流できるよう、グループワーク等を取り入れた。その他、新たなネットワーク構築を目的にさまざまな団体の訪問調査を行った。今年も年度初めの状況からコロナ前のようなつながりが戻り、新たなつながりが生まれるよう、交流の場をつくることを意識しながら事業に取り組んだ。

また、文化施設へのアプローチとして、鑑賞サポートの

研修を実施した。文化施設において障害のある人の公演が行われたり、鑑賞機会が増えたりするためには、文化施設が課題に思っていることや学びたいことをヒアリングした上での研修の実施や、協働による取り組みが必要である。今年度の取り組みで得た情報やふりかえりの内容を元に、新たなつながりをつくりながら、次年度も障害のある人の芸術文化活動に関わる人のニーズに沿った取り組みを実施していく。



「甲賀NINJAリドンドン'S」練習風景



「音にさわる演奏会」。参加者が音具を奏でる様子

実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31] ●人材育成 [鑑賞サポート研修(オンライン)「障害のある人とともに芸術鑑賞を楽しむために」9/14・10/19] [NO-MAボランティア対象研修「障害特性と鑑賞サポートについて学ぶ」10/10] [オンライン研修、11/24～1/18(合計3回)] [体験研修「art space co-jinの取り組みから」12/13] ●関係者のネットワークづくり [芸術活動に関する訪問調査、6/28～7/21(合計10回)] [文化施設等への訪問調査、6/28～7/21(合計6回)] [第20回滋賀県施設・学校合同企画展実行委員会、7/6～3/7(合計7回)] [社会福祉協議会、市民活動団体等への訪問調査、8/23～9/19(合計3回)] ●参加する機会の確保 [ワークショップ「みんなで作った信楽の音を楽しもう」7/1] [ワークショップ「甲賀NINJAリドンドン'S」9/17～12/3(合計7回)] [ワークショップ「音にさわる演奏会」11/4] [糸賀一雄記念賞音楽祭での鑑賞支援、12/3](音楽祭自体は別事業にて

開催)[オンライン発表会「あ～!いっさ!!」12/15] [第20回滋賀県施設・学校合同企画展ing...～障害のある人の進行形～、12/23～3/4] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [協力委員会(第1回はオンライン)7/18・2/13] ●その他 [COZY TOWN夏のバリアフリー映画祭、8/19～8/20]

支援センター運営団体 社会福祉法人グロー

「糸賀一雄記念賞音楽祭」の事務局として、県内で表現活動ワークショップの立ち上げや運営をサポートしてきた。また「ボーダレス・アートミュージアムNO-MA」では、数多くの企画展を開催している。2012(平成24)年「アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター」を開設、障害のある人が安心して芸術文化活動ができる環境づくりや人材育成事業等を行っている。

art space co-jin

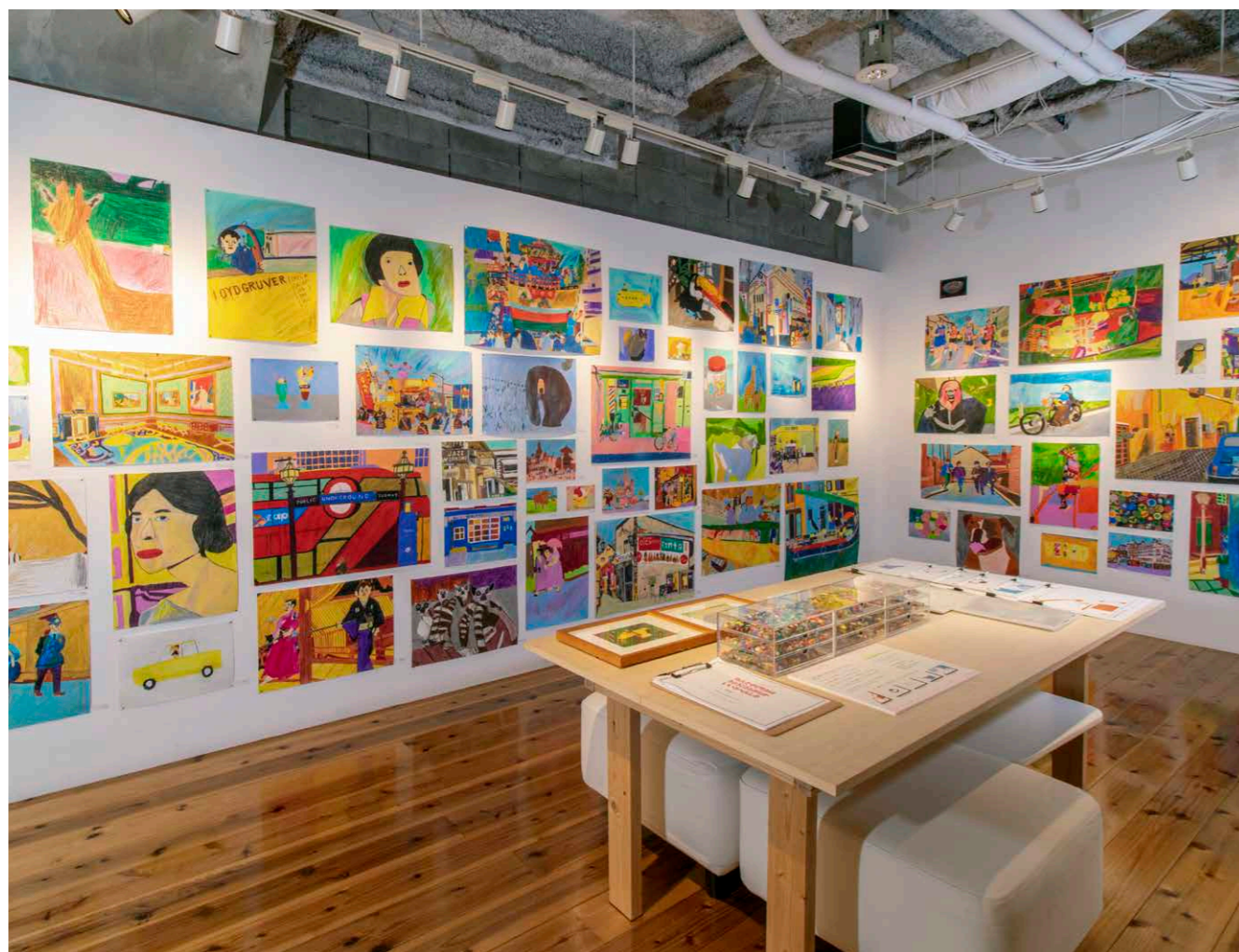
〒602-0853 京都府京都市上京区河原町通荒神口上ル宮垣町83レ・フレール1階

TEL: 050-1110-7655 FAX: 050-1110-7655

E-mail: info2015cojin@gmail.com URL: https://co-jin.jp/



Pick Up! 企画展「なんぞやひととはとうこととみじかいいろぺんしる」



「なんぞやひととはとうこととみじかいいろぺんしる」展示風景

ねらい 障害のある人の芸術作品にふれる機会がこれまでなかった人に展示をご覧いただくため、京都府の文化生活部が所管するアートイベントの協力を得て、それぞれが推薦する2名の作家（障害のある作家1名、ない作家1名）

内容 「何ぞや人とは?と問う事と、短い色鉛筆」をテーマにした木村舜氏と吉田裕志氏の2人による展示会。関連イベントとして、木村舜氏が来場者の持ち物にペイントを施す「なんぞやひととはあなたのもちもの」や、吉田裕志氏の作画を「ぬりえ」で体験するワークショップ「みじかいいろぺんしるでえがく」も開催。来場者

の合同展を開催する。障害の有無にかかわらず作品の魅力あらためて発信するとともに、相互に新たなファン層へのアプローチをめざす。

数は778名となった。ふだんは福祉関係者の来場が多いが、今回の試みにより、芸術分野の関係者など異なる層の方に多く来場いただくことができた。また、今回の展示をきっかけに作家同士の交流が生まれ、創作活動現場の見学等を通じて互いにより影響を与え合うことができた。

| 今年度の課題と目標

2022（令和4）年度に続き、障害のある人の表現を未だ見ることがない人、センター運営団体である当機構の取り組みを知らない人が多くいるため、これまで関心がなかった層にも作品の魅力や情報を伝える必要性があると考えている。障害のある人の作品をいつでも見られる場所として、ギャラリー内で定期的に展覧会を開催し、障

害のある人の作品や表現の発表機会を確保すること、多くの府民が作品に親しめる機会を増やすため、アーカイブ作品の充実や作品発表の場をさまざまな場所に広げていくこと、さらにこれらの活動を広く周知し、多くの人に知っていただくことを目標とする。

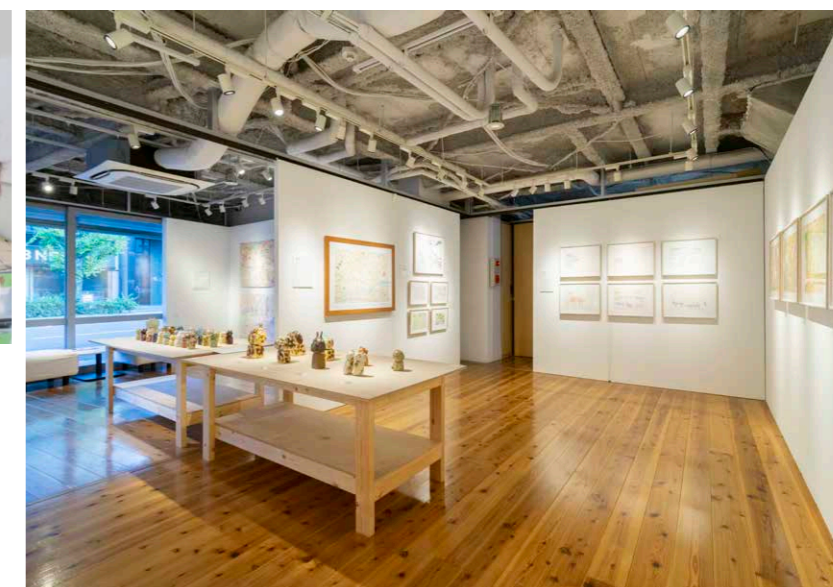
| 今年度の成果と展望

例年、来場者層に偏りがあり、広く一般に知られていないことが課題であった。今年度は府庁他部署の事業との連携や企画内容、広報の工夫により、いままでギャラリーを知っていても来られなかった層を取り入れることをめざした。結果、企画展の年間平均来場者数は、前年度に比べ増加。ほか、他団体との連携や企業への作品

仲介など障害のある人の表現に関わる情報提供が増えた。またコロナ以降、対面でのイベントを自粛していたが、今年は企画展に関わるワークショップや講座を対面で開催。オンラインでの講座では京都府外からの参加も増えた。一方、来場者からは展覧会等の情報が少ないという指摘もあり、引き続き広報活動にも注力していく。



左/施設見学会の様子



右/「co-jin collection 7々」展示風景

実施一覧

●相談支援 [相談事業、4/1～3/31] ●人材育成 [2023年度co-jin講座Vol.1(オンライン)服部正さんに問う「障害のある人たちの表現、これまでとこれから」1/26 Vol.2 大澤辰男さんに聞く「アーティストが育つ場所、アトリエライブハウスの取り組み」2/10 Vol.3(オンライン)竹内聡さんが語る「なぜごちゃまぜの状況をつくっているのか」2/22] [施設見学会(たんぼの家)5/23] ●関係者のネットワークづくり [co-jinサポーター活動、4/1～3/31] ●参加する機会の確保 [パナー展示事業、4/1～3/31] [他団体協力事業、4/1～3/31] [企画展「なんぞやひととはとうこととみじかいいろぺんしる」4/11～6/25] [企画展「南山城学園の粘土室」7/18～10/1] [企画展「Co-jin Collection - コジコレ - No.7々」10/17～12/24] [2023年度

共生の芸術祭「もしも だったり なにしろ だったり」11/22～11/25] [企画展「ルガル | 山崎俊生と心象の世界」1/16～3/24] [アールブリュッ都ギャラリー事業、2/9～3/10] ●情報収集・発信 [アーカイブ事業、4/1～3/31] [Webサイトでの情報発信(オンライン)4/1～3/31]

支援センター運営団体
きょうと障害者文化芸術推進機構

美術館や福祉団体、大学、企業、行政その他の関係機関で構成するオール京都体制の組織である。「art space co-jin」を活動拠点として、障害のあるアーティストの作品や活動の紹介等を行い、文化芸術活動を通じて障害者への理解と社会参加を推進するために活動している。

国際障害者交流センター ビッグ・アイ

〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1

TEL: 072-290-0962 FAX: 072-290-0972

E-mail: arts@big-i.jp URL: https://big-i.jp/



Pick Up! 大阪府障がい者舞台芸術オープンカレッジ表現のコース



講師、サポートスタッフ、アドバイザーの情報共有ミーティングの様子

ねらい 大阪府下における障害のある人の舞台芸術活動の表現の場を拡充し、必要な人材を育成するため、新たな支援者の育成に取り組んだ。人材育成においては研修スタイルではなく、障害のある人が多く参加するオープンカレッジを実践研修の場とし、講師やサポートスタッフのアシスタントとなり、ミーティングにも参加すること

内容 ダンサー、アーティスト、演劇関係者で障害のある人の芸術活動に興味関心のある参加者に、本事業の実践を通じた人材育成の場として実施した。「障がい者舞台芸術オープンカレッジ表現のコース」として障害の有無や年齢を問わず、ダンス・演劇の各ジャンルに2つの

で障害のある人の特性を学び、それを現場で実践していくことで、より深く障害への理解や実践能力を身に付けることをねらう。

また、新たに表現活動を行いたい、現在の活動をさらに充実させたいと考える文化芸術団体、福祉事業所、個人等の見学希望にも対応し、活動の拡充へとつなげる。

コースを設けた。ダンス90分、演劇120分のワークショップを各5日(計20回)とリハーサル1日(2回)を実施し、計83名が参加した。最終回には、参加者のご家族や友人・知人等を招待して成果発表会を開催し、約200名が来場した。

今年度の課題と目標

課題としては、以下の点が挙げられる。舞台芸術部門は、大阪府下全体に拡充していくために新たな人材の発掘とその育成が必要である。また、特に中央から北摂地域の参加の実現に向けて情報発信の強化が必要である。美術芸術分野は大阪府下全体、特に中央から北摂地域において美術活動の体験、創造の場の拡充が求められている。この課題を意識し、以下を今年度の目標とした。舞台芸術部門は①障害のある参加者のサポート(支援)

今年度の成果と展望

舞台芸術部門は新たな人材の発掘を行い、障害特性に応じたサポートについて実践現場を通じて学んでもらうことができた。また、各プログラム開始前に参加者の特性とその支援等を意見交換、情報共有することや、プログラム終了後にはその成果や課題を共有し、次回までに課題解決していくことを重ねたことで、サポートできる人材の育成につなげることができた。参加者サポート(支援)スタッフ(講師アシスタント)の発掘・育成:6名、ワークショップ応募参加者:83名、発表の機会の創出:応募総数20組。情報発信の強化は、DMの配架先の見直しとSNS閲覧数

スタッフ(講師アシスタント)4名(演劇2、ダンス2)の発掘と育成②ワークショップ:応募総数70名以上、発表機会の創出:応募総数20組。美術芸術分野は①オープンアトリエの開催:大阪府内3市町村での開催、参加者各回20名(定員)②現代アートのアーティストを講師として美術活動支援、3市町村、各回1名以上③吹田市市民活動センターとの連携による研修会の開催協力(1回)。

をアップするため投稿数を増やすこと、開催日の様子などきめ細かな投稿を行った。美術芸術部門は大阪府から市町村への働きかけにより市町村の協力が得られ、目標とした府内の北摂地域2市町村(豊中市、吹田市)でのオープンアトリエを開催し、計63名が参加した。他分野との連携として現代アーティスト3名を講師に招き、アート活動支援の場を実践してもらい、オープンアトリエの継続的な活動につなげることができた。アート教室、文化施設と連携した講演会を開催し、19名が参加した。



発表機会の確保と作品の評価「芸術・文化コンテスト」舞台風景



芸術文化活動を通じた交流、創造の機会「オープンカレッジ創造のコース」実施風景

実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31] ●人材育成 [あーと工房 みずのみば、7/8～3/9(合計14回)] [大阪府障がい者芸術・文化コンテスト2023、9/30] [大阪府障がい者舞台芸術オープンカレッジ表現のコース、11/11～3/14(合計45回)] [アーツ・セミナー「クロストークダイアログ 彼らの時代」(動画配信)1/12～3/31(合計4回)] [あーと工房 in すいた、1/21] [あーと工房 in とよなか、1/27・1/28] ●参加する機会の確保 [大阪府障がい者舞台芸術オープンカレッジ 創造のコース、8/26・11/19] [大阪府障がい者芸術・文化コンテスト2023、11/19] [大阪府障がい者舞台芸術オープンカレッジ 表現のコース、1/14] ●情報収集・発

信 [大阪府障がい者芸術・文化コンテスト2022(動画配信)4/1～1/31]

支援センター運営団体 ビッグ・アイ共働機構

障がいのある人の芸術文化活動拠点として、福祉と芸術に関する知識と経験が豊かな専門スタッフの運営の下、障がいのある人が芸術文化活動を通じて自己評価を高め、社会とつながる機会を創出する事業を展開している。また、障がいのある人の表現活動の支援や鑑賞支援、調査・研究事業、情報発信等を行っている。

ひょうご障害者芸術文化活動支援センター

〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5-10-1

TEL: 078-341-7711(内線2831) FAX: 078-362-9040

E-mail: universal@pref.hyogo.lg.jp URL: https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf10/hw20_00000009.html



Pick Up! 障害者芸術作品巡回展、障害がある方のための 絵画と音楽の体験ワークショップ



体験ワークショップの様子

ねらい 巡回展では、さまざまな地域を訪れ、作品の展示発表の場を拡充するとともに作品鑑賞の場を広げることで障害者芸術を知ってもらう機会の創出をねらう。

内容 巡回展では県内10ヶ所で、県の公募展の入賞作品や地域の障害福祉事業所等で制作された作品を展示した。期間中に延べ7,000名を超える方の来場があり、作品をより多くの方々に知っていただく機会の創出となった。また芸術活動を体験する場の創出として、絵本

ワークショップでは、さまざまな画材や道具に触れ、芸術を体験する場の創出することで表現活動の楽しさを体験してもらうことをねらいとする。

作家のWAKKUN氏による墨筆体験のワークショップや、楽器が初めての方でも簡単に演奏できる楽器（ヘルマンハーブ）の体験ワークショップを開催し、63名の方に参加いただいた。

今年度の課題と目標

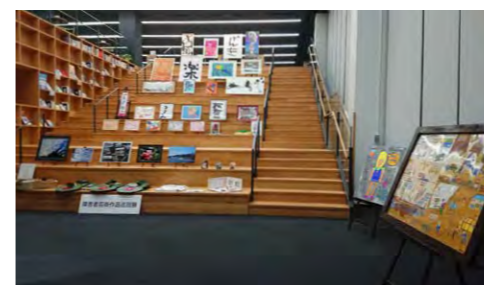
障害のある人の芸術作品等の発表機会の確保、鑑賞機会の拡大、活動を支える人材育成の3本柱で、芸術文化活動を行う障害者や事業所等への多面的な支援を体系

的に実施していくとともに、2025（令和7）年の関西万博に向けて、障害や多様性の理解促進や障害者芸術の素晴らしさを知っていただくことをめざした。

今年度の成果と展望

県内で障害者芸術に取り組む2団体が知事と面談し、現状や課題等の意見交換を行った。面談では障害者芸術を知ってもらう機会の拡充、芸術を体験する場の創出、作品鑑賞の場を県内各地で実施してほしいなどの意見が挙がり、これらの機会創出に向け、県内10ヶ所での

巡回展や体験ワークショップ等を実施した。また、セイン・カミュ氏（タレント）らを招き、表現活動の素晴らしさや今後の障害者芸術のあり方を考えるシンポジウムを開催した。来年度も引きつづき支援の充実をめざしたい。



左／障害者芸術作品巡回展の展示風景。
県立施設や商業施設、学校など色々な場所で展示した
右／障害者芸術作品巡回展の実施風景。聴覚障害だったとされる斎藤崎庵の作品（複製）も展示した



実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31] ●人材育成 [創作体験ワークショップ、7/15] [観劇時における「合理的配慮提供に係る研修」の実施、12/1・2/29] [第19回兵庫県障害者芸術・文化祭「美術工芸作品公募展」オープニングシンポジウム、3/1] ●参加する機会の確保 [障害者アートギャラリー常設展、4/1～3/31(合計4回)] [障害者芸術作品巡回展、7/11～12/11(合計10回)] [作品展示、発表会の開催支援、8/1～3/31] [作品鑑賞の場を広げる舞台芸術企画、11/18] [有馬温泉ユニバーサルの日展示、2/1～3/31] [障害者芸術文化祭「美術工芸作品公募展」3/1～3/10]

支援センター運営団体

兵庫県福祉部ユニバーサル推進課

兵庫県内における障害者の芸術文化活動のさらなる振興を図るため、兵庫県ユニバーサル推進課内に「ひょうご障害者芸術文化活動支援センター」を2019(平成31年)4月から設置・運営し、芸術文化活動を行う障害者や事業所等を総合的に支援している。

奈良県障害者芸術文化活動支援センター

〒630-8501 奈良県奈良市登大路町30番地

TEL: 0742-27-8922 FAX: 0742-22-1814

E-mail: syogai@office.pref.nara.lg.jp URL: https://www.pref.nara.jp/item/294724.htm



Pick Up! 障害のある人に対するアート活動の具体的な支援
障害のある人のアート活動拠点へ見学に行こう!



人材育成事業・見学会で、事業所のアート活動を見学している様子

ねらい 芸術文化活動を行っている障害福祉サービス事業所、または今後アート活動を始めようとしている事業所の支援者を対象に、障害のある人の芸術文化活動を

行う上でのサポート方法や支援者の役割、実践的ですが取り入れられる取り組み方法等を学んでもらうことをねらいとする。

内容 セミナーのほか、実際にアート活動を行っている現場へ出向いての見学会を連携して行った。①セミナー：芸術文化活動を行っている2つの社会福祉法人の支援者を講師に招き、現在の取り組みを紹介する。②見学会：障害のある人のアート活動を行っている現場（2ヶ所見学）に伺い、日頃から支援者が現場で心がけていること、

工夫や取り組み等について講話いただいた。③交流会：見学会後、支援者との交流会を実施。それぞれの事業所で行っている活動紹介しながら、意見交換などを行ったことで支援者同士のつながりができネットワークが生まれた。

今年度の課題と目標

今年度から設置した「奈良県障害者芸術文化活動支援センター」では、「相談支援」「機会創出」「情報発信」「人材育成」の4つを柱として事業を進めた。毎年恒例の「奈良県障害者作品展」の開催を「発表の機会」として実施。「人材育成」事業として、障害者作品展の出品者である障害福祉サービス事業所で芸術文化活動を行っている

支援者の人材育成とネットワークづくりを行うことを目標とした。また、県内でアート活動を行っている支援者が、障害のある人のアート活動におけるサポートやアドバイス、役立つ支援の方法等を学べる機会を提供。また、交流会では、県内で活動している事業所等の支援者同士、情報共有や交流を行うことで支援の充実を図った。

今年度の成果と展望

障害者のアート活動を支援している人にスポットを当てた人材育成事業では、2つの社会福祉法人の支援者を講師に迎え、芸術活動の取り組み事例などを紹介していただくセミナーと、実際にアート活動を行っている現場に行く見学会を実施。活動現場を見せていただくことができ、活動を行うための環境づくりや工夫等を実際に現場を見ながら解説をしていただいた。見学会の最後に参

加者の交流会を実施。それぞれの事業所で取り組んでいることや課題点、今後の展望等の情報を交換する場となり、ネットワークが生まれた。来年度はこれらの成果を踏まえ、まだ十分に把握できていない芸術活動を行っている事業所などの調査を行いつつ、関係者との交流の輪を広げていきたい。



左/人材育成セミナーの様子

右/障害者理解啓発イベントにおいて、ミニステージでヘルマンハーブを演奏する様子



実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31(合計17回)] ●人材育成 [人材育成(セミナー、見学会) 12/2・1/17] ●参加する機会の確保 [あいサポートフェスティバル ヘルマンハーブの演奏発表、11/11] [第51回奈良県障害者作品展、11/30～12/5] ●情報収集・発信 [WebサイトやSNSでの発信、4/1～3/31(合計6回)] [障害者作品展出展事業所、学校等へのアンケート調査、12/6～12/28]

支援センター運営団体

奈良県福祉医療部障害福祉課

奈良県内における障害者の芸術文化活動のさらなる振興を図るため、2023(令和5)年4月から奈良県障害福祉課内に「奈良県障害者芸術文化活動支援センター」を設置。障害者芸術文化活動を行う障害者や事業者等を総合的に支援している。

和歌山県福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課



〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通 1-1

TEL: 073-441-2530 FAX: 073-432-5567

E-mail: e0404001@pref.wakayama.lg.jp

URL: https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/040400/syogaigeijutu.html

Pick Up! 障害者芸術・文化活動に関する人材育成、発表機会の確保



「人材育成研修出前教室(いけばな①)」開催の様子

ねらい 各障害福祉サービス事業所や特別支援学校等において芸術・文化活動のバリエーションを増やすとともに、作品創作や文化活動に関する考え方を学び、新たな手

法等を身に付けてもらうことにより活動を活性化する。また、制作した作品を障害者作品展「紀ららアート展」において、発表・鑑賞の機会につながることをねらう。

内容 出前教室：障害福祉サービスの事業所に「段ボールアート」「書道アート」「いけばな」「音楽療法」の各講師を派遣し、事業所職員や利用者を対象に計12回(段ボールアート：4回、書道アート：3回、いけばな：3回、音楽療法：2回)の教室を実施。研修会、出前教室双方において、経験豊富な講師陣によりユーモアを交えて教室が進行され、参加者は型にはまらない自由な取り組みを学び、吸

収した。
障害者作品展「紀ららアート展」：2023(令和5)年度は、延べ290点の作品の展示を行い、紀北展(和歌山市)、紀南展(田辺市)およびWeb展を開催。各会場来場者による投票を行い、部門ごとに投票数が上位約1割の作品を、紀らら感動大賞として選定した。

| 今年度の課題と目標

障害のある方が芸術にふれ、自らも芸術活動に参加するという体験機会の拡充を中心に、障害のある方が必要な支援を受けて文化芸術を鑑賞する機会の拡充に向けた取り組みを進めていく。そして特別支援学校を卒業した後も継続して文化・芸術に接することのできる環境を

整備し、さらには芸術・文化活動により障害者の自立や社会参加につながるような取り組みを推進する必要がある。2023(令和5)年度は、障害者をサポートする人材の育成や発表機会の確保により、それら課題の解決に向けて取り組んだ。

| 今年度の成果と展望

人材育成については、「いけばな」「書道アート」「段ボールアート」「音楽療法」のメニューで、各事業所へ講師を派遣する出前教室を12ヶ所で開催し、延べ146名が参加した。参加者からは「活動の幅が広がり、ツールを学ぶことができた」「今後の事業所の取り組みに生かしたい」など、人材育成に資する取り組みとなった。

また、障害者作品展「紀ららアート展」では、延べ290点の作品の展示を行い、出品者・来場者等からは「素敵な作品が多かった」「障害者の親として、このような場があって有難い」「毎年開催してほしい」等の意見をいただいた。今後も同様の取り組みを継続し、障害者芸術・文化活動の推進に努める。



左/「人材育成研修出前教室(段ボールアート)」開催の様子



右/「人材育成研修出前教室(音楽療法)」開催の様子

実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31] ●人材育成 [令和5年度障害者芸術文化活動普及支援事業 人材育成研修「出前教室」9/22～1/19(合計12回)] ●関係者のネットワークづくり [令和5年度障害者芸術文化活動普及支援事業 ふれあいアート体験、11/7～11/17(合計4回)] ●参加する機会の確保 [令和5年度「紀ららアート展」11/15～12/18]

支援センター運営団体
和歌山県

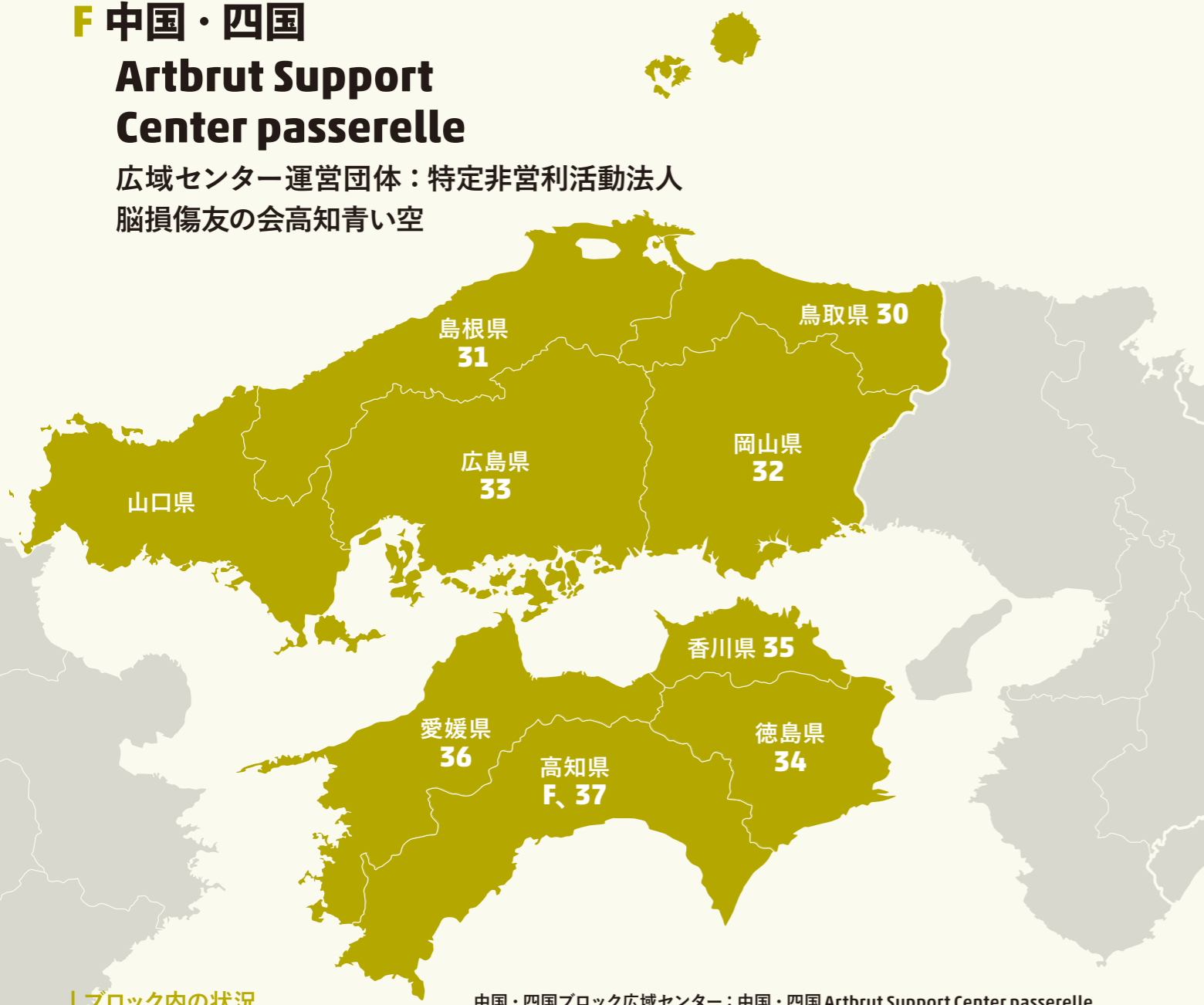
2022(令和4)年度から、それまで分割されていた支援センターを和歌山県障害福祉課に統合し、障害者芸術・文化活動を推進している。和歌山県障害福祉課は障害児に関する福祉、啓発の推進などを担っており、2021(令和3)年度に開催した「紀の国わかやま文化祭2021」のレガシーを引き継ぎ、障害者の自立や社会参加等を目的に芸術・文化活動の推進に取り組んでいる。

中国・四国ブロック

F 中国・四国

Artbrut Support Center passerelle

広域センター運営団体：特定非営利活動法人
脳損傷友の会高知青い空



ブロック内の状況

中国・四国ブロック広域センター：中国・四国 Artbrut Support Center passerelle

中国・四国ブロックは、山口県以外の8県に障害者芸術文化活動支援センターが設置されており、ブロックを構成する県数が全国で最も多い。鳥取県は今年度から運営体制を強化し、美術分野における多くの企画展を開催した。島根県は島根県立しまね海洋館アクアスと共同して創作活動を行うなど、新たな団体とのつながりを創出しながら事業を展開した。広島県は聴覚障害のある方々と一緒に舞台芸術を鑑賞し交流会を行うなど、情報補償等について考えることにも取り組んだ。岡山県は今年度より県直営の支援センターが設置され、「県北ダイバーシティ&アートin津山」の開催に協力するなどの活動を

行った。香川県はアート/リズムワークショップを開催するなど、新規事業にも積極的に取り組んだ。徳島県は例年開催している展覧会に加えて新たな会場で展覧会を開催することで、これまで本事業にふれたことなかった人々や団体を巻き込みながら事業を展開した。愛媛県はホームページをリニューアルし、情報発信にも力を入れて事業に取り組んだ。高知県は「想像」や「創作」を楽しむことができるアトリエを支援センター内に新しく設置し、材料や道具等を完備し、登録制で誰でも来場し創作できる環境を構築した。山口県はメールや電話にて情報共有を行っている。

鳥取県

担当課：福祉保健部ささえあい福祉局障がい福祉課社会参加推進室

30 あいサポート・アートセンター

支援センター運営団体：あいサポート・アートセンター運営事業共同事業体

島根県

担当課：健康福祉部障がい福祉課地域生活支援スタッフ

31 島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ

支援センター運営団体：社会福祉法人いわみ福祉会

岡山県

担当課：子ども・福祉部障害福祉課障害福祉企画班

32 岡山県子ども・福祉部障害福祉課

支援センター運営団体：岡山県子ども・福祉部障害福祉課

広島県

担当課：健康福祉局障害者支援課

33 広島県アートサポートセンター

支援センター運営団体：認定特定非営利活動法人コミュニティリーダーひゅーるぽん

徳島県

担当課：未来創生文化部ダイバーシティ推進課

34 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

支援センター運営団体：社会福祉法人徳島県社会福祉事業団

香川県

担当課：健康福祉部障害福祉課

35 香川みんなのアート活動センター KAGAWA MOVES

支援センター運営団体：NPO法人音楽療法グループ WALKS

愛媛県

担当課：保健福祉部生きがい推進局障がい福祉課

36 愛媛県障がい者アートサポートセンター

支援センター運営団体：社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団

高知県

担当課：子ども・福祉政策部障害福祉課

37 藁工ミュージアム 分室

支援センター運営団体：特定非営利活動法人蛸蔵

中国・四国 Artbrut Support Center passerelle

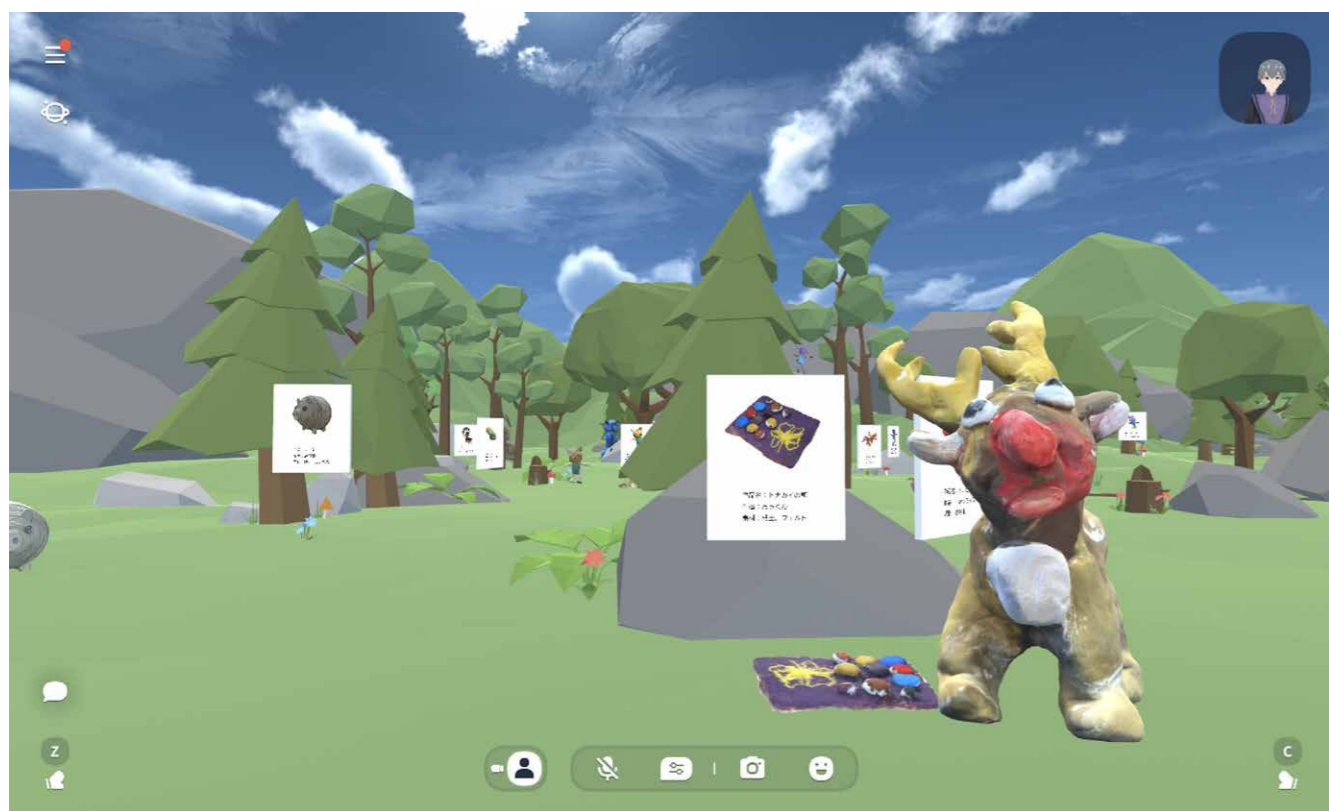
〒780-8014 高知県高知市塩屋崎町2丁目12-42

TEL: 088-803-4100 FAX: 088-803-4420

E-mail: passerelle@blue-sky-kochi.com URL: https://asc-passerelle.com/



Pick Up! メタバース内でのギャラリー事業



パスレルメタバースプロジェクト第2弾として公開した「BLUE SKY ZOO」

ねらい メタバース内ではリアル空間とは別の自分、いわゆる自分の分身=アバターで、場や他人とのコミュニケーションを楽しむことができる。福祉領域においてこうした側面は、身体に不自由がある方や自身の存在に何らかの理由で自信のない方にとって大きな意義があると考える。

メタバースは展覧会等の発表の機会においても、その利便性からリアル空間での発表よりも頻繁に実現できるメ

リットがある。また、物理的な移動がないため、例えばふだんは部屋から出ることが難しい方や、突然大声を出してしまうなどの理由からリアルな文化施設等へのアクセスが困難な方々も発表を観ることができ、発表する側になることもできる。つまり、メタバース内でギャラリー事業を行うことで、表現や発表までのプロセスにおけるコンフリクトを軽減させ、発表・創造・鑑賞の機会の拡張をねらう。

内容 メタバース空間内に、特定非営利活動法人脳損傷友の会高知青い空の利用者が制作した作品「野球盤」を3D化した作品「BLUE SKY STADIUM」を構築することを足がかりとして事業を進めた。その後、動物をテーマに公募を行い、集まった16作品を3Dスキャンし、鳴き声

を作者と考え、動物の動きを「ぐるぐる」「はねる」「こそこそ」「とびまわる」といった幾つかのシンプルな動作のパターンの中から作者自身に選んでもらうことで、オリジナルの3D作品の集合体「BLUE SKY ZOO」が完成した。

今年度の課題と目標

各県の自治体と支援センターとの連携には課題があるが、特に各県の自治体において、本事業に取り組む熱量に差があることが課題として挙げられる。また、各支援センターは予算額にも大きな差があり、額の少ない支援センターは限られた予算の中で工夫をしながら事業を実施している状況がある。そのような場合、一人の担当者にかかる負担は非常に大きく、人材育成など本事業の将来を見据えながら活動を行っていくことが困難な状況

今年度の成果と展望

発表や鑑賞の機会の拡張をめざして実施した「メタバース内におけるギャラリー事業」では、通常のギャラリー事業とは異なるメタバース空間で制作物を展示することによって、よりプリミティブ（素朴な・原始的な）かたちで表現ができる可能性があることについて、参加者・支援センターとで認識を共有することができた。「アート活動を始めようとする事業所のファーストステップに伴走する企画」では、新たに5つの事業所がアート活動に取り組んでいく上でのファーストステップを踏み、

にある。また、経験豊富な支援センターにおいても、例年行われる事業が固定化され、本事業の実施が形骸化する傾向にある。支援センターに対しては、当センター主催事業やブロック研修会等で障害者芸術文化活動に関連する新たな取り組みを積極的に体験・紹介するなどの情報提供支援を行い、各支援センターが新たな事業を立ち上げやすくするような仕組みづくりを行っていく。

中国・四国ブロックにおいて芸術文化活動に取り組む人や組織の裾野を広げることができた。「ブロック研修会」では支援センターのニーズに沿ったプログラムを構築することで、高い満足度を得ることができた。「支援センター未設置県に対する取り組み」としては、山口県において障害者芸術文化活動に関する相談対応やイベントの開催を古くから行っている団体との連携に成功し、支援センターの設置に向けて前進した。



ゆずぼっふ（香川県）が企画した「mimikaクリスマスライブ」実施風景



つくしんぼ作業所（広島県）が企画した「バリエードダンス」実施風景

実施一覧

- 各支援センターに対する支援 [ふらっとFlat (オンライン) 4/1～3/31 (合計3回)]
- 芸術文化活動に関するブロック研修 [第1回 ブロック研修会 (オンライン)「人材育成で抑えておきたいポイントと協働による人材育成について」7/25 第2回「アムステルダムにおける社会・アート・福祉について」11/28 第3回 (オンライン)「支援センターができる情報発信について考える」3/7]
- ブロック内の連携の推進 [第1回 ブロック会議「中国・四国ブロックにおける事業計画の共有 (オンライン) 4/27 第2回 (オンライン)「中国・四国ブロックにおける事業進捗状況の確認」7/25 第3回「中国・四国ブロック合同企画展について」11/28 第4回 (オンライン)「中国・四国ブロックにおける実施事業報告会」3/7] [事例検討座談会 (オンライン) 3/12・3/13]
- 参加する機会の確保 [アート活動

を始めようとする事業所のファーストステップに伴走する企画、4/28～3/31 (合計5回)] [メタバース内におけるギャラリー事業 (オンライン)「BLUE SKY ZOO」7/1・3/31]

広域センター運営団体

特定非営利活動法人 脳損傷友の会高知青い空
高次脳機能障害がある者およびその家族に対して、高次脳機能障害についての正しい知識の普及、さらに当事者の社会参加を促進するための事業などを実施するとともに、社会への理解を広めるための活動を行うことにより、高次脳機能障害者が安心して生活できる社会環境作りを寄与することを目的に活動している。

あいサポート・アートセンター

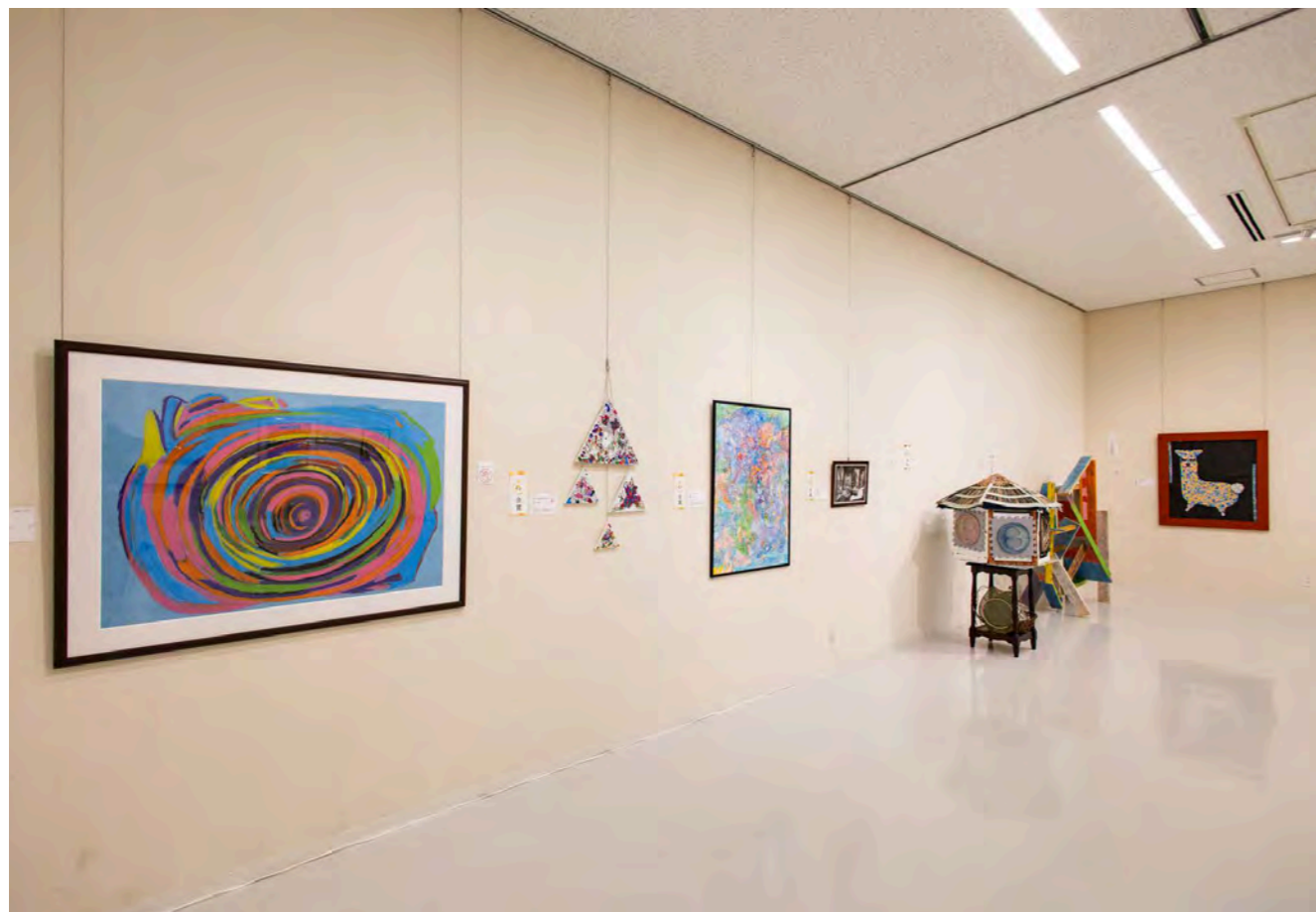
〒682-0821 鳥取県倉吉市福庭町1丁目105-2

TEL: 0858-33-5151 FAX: 0858-33-5151

E-mail: tottori.asac@gmail.com URL: https://aisapo.art



Pick Up! あいサポート・アートとっとり展の企画運営



「あいサポート・アートとっとり展」本展展示

ねらい 「あいサポート・アートとっとり展」は、「鳥取県障がい者芸術文化作品展」として9回目の実施となった。多くの作家や施設が、年に1回のこの作品展への出展を目標に活動に取り組んでいる。昨年度まではコンペで企画運営が行われていたが、今年度からセンターが担う

内容 県内の障害のある人たちを対象に募集したアート作品を一堂に展示する展覧会である。本展は米子市美術館、倉吉未来中心、鳥取県立博物館を巡回展示。また、入選作品は鳥取県立バリアフリー美術館の企画展示室にも展示。今回は、過去2番目に多い476点の作品が集まり、来場者数も1,774名を数えた。また連携企画として、滋賀県にある障害者福祉施設「や

ようになり、日々の活動への支援につながることができる。考える。

映画の上映会とトークショーを実施し、障害のある方の創作活動について考えていただく機会ともする。

まなみ工房」に所属する作家の作品制作現場に迫るドキュメンタリー映画『地藏とリビドー』の上映会&トークショーを米子市と鳥取市の2会場で行った。トークショーでは、山下完和氏（やまなみ工房施設長）と、鳥取県内でアート活動を行っている障害者福祉施設のスタッフが登壇した。

今年度の課題と目標

今年度より運営体制が新しくなった。まずは支援センターの本来の業務のあり方について把握するとともに業

務体制を整え、当事者や支援者の皆さまに活動を知ってもらうことをめざす。

今年度の成果と展望

運営体制を新しくし、外部アドバイザーを迎えたほか関係機関との連携も密にしてきた。また、活動をされている当事者や施設等を訪ねることで文化芸術活動の現状を把握するとともに、ニーズや課題の掘り起こしのほか、新たな作家の発掘を行うことができた。そうした活動を通して、センターの活動についても知ってもらうこともできた。積極的に発信をするなど広報も強化した。これに

より、創作・鑑賞・発表の機会の創出につなげることができた。

今後の展望としては、今年みつけたニーズや課題に適したセミナー等の実施や、相談支援体制の充実、また専門知識の習得等につなげ、障害のある方々の機会をより創出していきたい。



左/鳥取県立バリアフリー美術館のサイトより「バリアフリー美術館」
右/鳥取県立バリアフリー美術館 グランドオープン記念イベント「MeetuP vol.01」



実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31] ●人材育成 [フクシ×アートフォーラム、11/19] [映画『地藏とリビドー』上映会&トークショー、12/10・1/28] ●関係者のネットワークづくり [山陰ご当地フォントプロジェクトの連携、4/1～3/31] ●参加する機会の確保 [鳥取県立バリアフリー美術館の管理運営(オンライン) 4/1～3/31] [MeetuP Vol.01、6/16～6/25 Vol.02、8/16～8/24] [鳥取県はーとふるアートギャラリー合同展、10/28～11/8] [あいサポート・アートとっとり展、12/9～1/30] [表敷功作品展、3/8～3/12] ●情報収集・発信 [フリーペーパー Hugsの発行、6/1～3/1(合計4回)] ●その他 [障がい者アート活動支援事業補助金の交付、4/1～3/31]

支援センター運営団体

あいサポート・アートセンター運営事業共同事業体 運営体制を強化するため、2023(令和5)年度4月より運営事業共同事業体に移した。一般社団法人アートスペースからふるが代表となり、社会福祉法人もみの木福祉会、特定非営利活動法人あかり広場、特定非営利活動法人十人十色、特定非営利活動法人アートピアとっとりが構成員となった。新たな体制で相談支援・啓発等を推進している。

島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ

〒695-0024 島根県江津市二宮町神主1964番地31

TEL: 080-5756-3225 / 0855-54-3100 FAX: 0855-54-3101

E-mail: artbase@shimaneiro.jp URL: https://shimaneiro.jp/



Pick Up! アクアート「しずかでにぎやかなうみ」



アクアート「しずかでにぎやかなうみ」でペンギン水槽の前で創作の様子

ねらい 本イベントでは、創作や鑑賞を「純粋に楽しむ機会」を提供することを重視する。従って美術が得意でなくても「何かやってみようかな」と手を動かしたくなる創作環境の提供として、休館日の水族館をくつろいで過ごしてもらうための環境設定・人員配置に注力する。また、創作後の展示期間を設け、一般来館者に広く創作作品を鑑賞いただく機会とし、展示期間を障害者週間に合わせる

内容 創作準備として「浜田養護学校障子紙アートWS」において島根県立大学の学生が障子紙を使用し、アクアート創作日に使用する簡易テント「ティピ」を制作した。アクアート創作当日は、しまね県立海洋館アクアスを会場とし、午前・午後の2部制（児童の部・成人の部）で実施。休館日の水族館での障害者を対象とした創作イベン

せることで、多様な方にアクセスいただきやすいよう配慮する。創作イベントは1日限りであったが、「アクアート」事業の一連の流れ（創作準備～創作日～展示期間）において、地域の支援学校や大学、地域の団体等に関わっていただいた。今後、この企画をブラッシュアップさせ、地域の施設や企業とも関わりながら、誰もが楽しめる事業として長期的展望を持って地域へ広げていく。

トで、水族館を観覧した後に海の生き物を眺めながら絵画・粘土・シールの切り貼りなど、好きな創作を気ままに行った。その後、創作した作品を展示する「うみ・いろ・かたち展」を同館で実施。ワークショップやAR観覧も併せて開催した（協力：アトリエ・スノイロ、島根県立大学地域政策学部）。

今年度の課題と目標

課題として、県東部や離島との連携、人材の発掘・配置がある。文化芸術の中心地でもある県東部との連携を図ることで、県内の文化芸術活動の機会増加が見込まれる。また、センターから遠方の地域の相談対応が困難なこともあり、アドバイザーの配置は県東部での支援の充実に寄与する。企業や個人からの問い合わせも増えてきており、東部地域の拠点づくりの重要性を感じている。

今年度の成果と展望

昨年度の成果からの展望として以下を挙げた。相談対応を通して、①県内障害者の文化芸術活動のニーズの把握に務めること ②視覚聴覚障害者に配慮した取り組みの充実 ③地域の中で文化芸術活動が混ざり合う企画を通して社会参加の一つとすること。
県内障害者の文化芸術活動のニーズの把握については、①人材育成ワークショップを実施したり、福祉事業所へのアンケートを実施するなどして、ニーズの把握に務めた。

限られた人材・予算の中で県内の文化芸術活動を充実させるには、ボランティア人材の育成も必要である。今年度の目標として、引き続き文化施設、地域教育機関、企業等のネットワークを充実させ、文化芸術活動の鑑賞・創造・発表の機会を創出し、新たなニーズを探りたい。また、少人数による視聴覚障害者との鑑賞体験や、地域での展示スペースの確保や関わりをつくることも充実させたい。

②視覚聴覚障害者に配慮した取り組みの実施については、文化施設とのバリアフリー公演を共催した。また、③地域の中で文化芸術活動が混ざり合う企画では、しまね県立海洋館アクアスとの創作イベントの共催を実施。水族館を来訪する一般の方にも作品を見ていただく機会となった。今後は視聴覚障害者の方との鑑賞体験等を実施し、地域の方と視覚聴覚障害者の方がお互いの世界観を想像し合うような機会の提供等もしたい。



左/「島根県障がい者アート作品展」本展での展示と来場者の様子
右/「島根県障がい者アート作品展」巡回展での展示と来場者の様子



実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31] ●人材育成 [粘土でおぼけを作ろうワークショップ、8/1] [伝わる展示のつくり方 立体作品編、9/16] ●参加する機会の確保 [邇摩分教室わくわくプロジェクト、6/20～1/22(合計6回)] [アクアート「しずかでにぎやかなうみ」11/7 「うみ・いろ・かたち展」11/29～12/11] [令和5年度島根県障がい者アート作品展本展、12/8～12/10 巡回展、2/23～2/25] ●関係者のネットワークづくり [グラントワ・ダイバーシティ事業「にぎやかな学校」11/23 「にぎやかな日々 in グラントワ」1/21]

支援センター運営団体

社会福祉法人いわみ福祉会

島根県西部の浜田市・江津市を拠点とした障害福祉サービス、高齢者福祉、相談支援、地域生活支援等を行っている。地域伝統芸能である「石見神楽」が盛んな地域であり、余暇支援として取り組んでいた「芸能クラブ」(2023 [令和5] 年10月より名称を「桑の木神楽会」とした)は、当事者の文化芸術活動や生涯学習の一つとして、施設開所当時より位置づいている。

岡山県子ども・福祉部障害福祉課

〒700-8570 岡山県岡山市北区内山下2-4-6

TEL: 086-226-7343 FAX: 086-224-6520

E-mail: isupport@pref.okayama.lg.jp URL: https://www.pref.okayama.jp/page/739464.html



Pick Up! 文化施設におけるユニバーサルデザイン(UD)セミナー



文化施設等における来館者への配慮方法を学ぶ「UDセミナー」

ねらい 文化芸術の創造・交流・発信の拠点のみならず、地域づくりや地域活性化の場としての役割も期待される文化施設には、県内外から障害のある人を始め高齢者、子ども連れの人、外国人といった多様な来館者が訪れる。誰もが楽しめる文化施設を実現するためには、それぞれ

内容 UDセミナーは、県内の文化施設（美術館、博物館、コンサートホール等）職員および市町村文化担当部局職員を対象として実施した。講師に徳田恭子氏（特定非営利活動法人まちづくり推進機構岡山代表理事）、亀井真紀氏（おokayama UD [ユニバーサルデザイン] アンバサダー）を招き、徳田氏からは「UD [ユニバーサルデザイン] とは」「UD [ユニバーサ

の来館者に配慮した対応が求められる。障害のある人への配慮については、本年4月からの改正障害者差別解消法の施行に伴い、民間事業者の合理的配慮の提供が義務化となる。以上の状況を踏まえ、多様な来館者への対応に役立てることを目的に本セミナーを開催する。

ルデザイン] 7原則を知る」「文化施設のUD [ユニバーサルデザイン]」についてお話いただいた。また、亀井氏からは「『車いすの立場から思うこと』～不便なこと、良かったこと～」をテーマに、車いすの方への介助方法等について疑似体験を行った。

今年度の課題と目標

特定の団体への委託ではなく、県（障害福祉課）が中核となり、さまざまな専門機関等と有機的に連携する体制を

整備することで、支援センターの機能を果たすことを目標とした。

今年度の成果と展望

関係機関を始め、県内の障害者芸術文化活動に取り組む事業所とのネットワークを構築することができ、次年度以降の事業推進のきっかけとすることができた。県直営の支援センターとして初めて開催したセミナー（UDセミナー）では、受講者から「バリアフリーやUDに配慮

した視点を学ぶことができたので、今後活用していきたい」など、UDに対する関心が高まったという意見が多く寄せられた。今後、バリアフリー化を始め、各施設が多様な来館者への配慮に向けて改善を図っていくことを期待したい。



左/岡山県知的障害者福祉展開催事業「ゆうあい福祉展」展示
右/「農業」と「福祉」がつながる「ノウフマルシェ」。障害のある方やその仲間たちによるピアノ演奏、鍵盤ハーモニカ、手話歌等を実施

実施一覧

●相談支援 [相談対応、4/1～3/29] ●人材育成 [文化施設におけるUD (ユニバーサルデザイン) セミナー、2/14] ●関係者のネットワークづくり [関係機関との連絡会議 (オンライン) 6/8] ●参加する機会の確保 [障害のある人のアートギャラリー、4/1～3/29 (合計12回)] [ノウフマルシェ (ステージイベント) 10/29] [ゆうあい福祉展 (岡山県知的障害者福祉展開催事業) 11/23～12/16 (合計3回)] ●情報収集・発信 [ホームページを通じて発信、4/1～3/29]

支援センター運営団体

岡山県子ども・福祉部障害福祉課

本県では、2023 (令和5) 年度より支援センターを設置し、県の直営で障害のある人の文化芸術活動の推進に取り組んでいる。主な取り組みとして、文化芸術団体や障害者団体等の専門機関と連携した各種相談の対応や、県庁舎や県内施設での絵画などの作品展示、ポータルサイトを通じた県内外の公募展や取り組み事例等の情報発信を行っている。

広島県アートサポートセンター

〒731-0102 広島県広島市安佐南区川内6-28-15
TEL: 070-5671-8668 FAX: 082-831-6889
E-mail: hululu@hullpong.jp URL: https://hululu.jp/



Pick Up! アートセミナー&座談会 ～もしも～



「『アートって何?』って言われたら、そして思ったら」実施風景

ねらい 支援者や関係者が表現活動に関する知識を習得し、支援スキルを向上させることで、文化芸術を享受する感性を高めることをめざす。また、テーマに合わせて意見交換をすることで支援者や関係者同士のネットワークをつくること、障害のある人々が個性と能力を発揮する機会を増やすことをめざす。この目的を達成するため

内容 アートセミナー&座談会1回目は、羽鳥智裕氏（太田川学園アートディレクター）から、1人の利用者をきっかけに始まった表現活動の事例を聞き、参加者全員で表現活動のサポートをする環境づくりについて考えた。また、アートに関する権利についても弁護士三浦友美氏から説明を受けた。2回目は、妹尾恵依子氏（アートスペースからふる理事長）から、「アートを仕事に」をテーマにした事例について興味深い話を伺った。また、作品の二次利

に、現場で起きうる課題をテーマにしたセミナー、座談会（4回）、ワークショップ（1回）を実施した。これにより、支援者や関係者がより理解を深め、より効果的な支援を提供できるようになり、障害のある人々が自己表現や才能を発揮する場が広がること、併せて、参加者のネットワークが整っていくことを期待する。

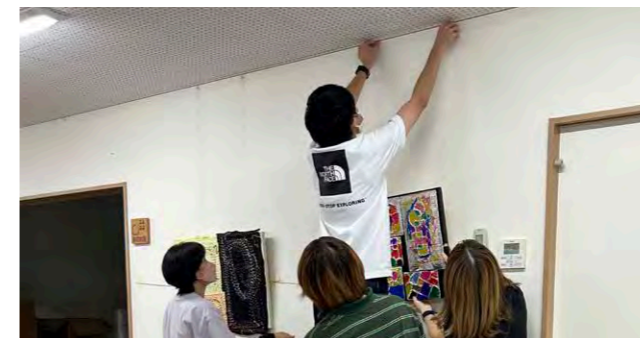
用や売買の際の注意点について、三浦氏から学んだ。3回目は、松本仁志氏（広島大学）から書道に取り組む際の環境づくりや指導のポイントについて学び、その後、ワークショップで文字を書く体験をした。4回目は、中野篤志氏（ぬかつくるとこ代表）から、障害のある方の行動をアートとして独自の視点で見つめる事例について聞き、その後、参加者全員でアートの考え方について意見交換を行った。

今年度の課題と目標

施設、事業所において、さまざまな事情から「福祉事業所の業務以外の支援はしない」方針のところと「障害のある方の表現を大切に、社会とつながる活動として取り組む」方針のところとの二極化が進んでおり、本事業への参加者も固定化してきている。その一方で、表現活動の場やサポートが得られない当事者本人からの相談が増加している。このことから今年度は以下3つの目標

今年度の成果と展望

個々の意見を丁寧に聞き取り、表現活動に対する考え方を共有する機会をつくったことでネットワークが広がり、関係性を強化することができた。また、YouTube配信の開始により、新たなつながりが生まれる可能性を感じた。このような関係の中で、誰もが文化芸術を楽しむ機会が一步前進したと思う。今後は、より多くの外部イベントやコラボレーションにも参加し、さらに連携を深めていきた



専門家派遣「作品展示について」の研修会の様子

に焦点を当て、事業の実施に取り組む。

①支援者や関係者の表現活動に関するスキル向上を支援し、障害のある人々が個性と能力を発揮する機会を増やす。②誰もが文化芸術を享受し、多様な文化芸術活動に取り組むことができるよう、支援者や関係者のネットワークを整える。③広島県内で多様な表現の裾野を拡大する。

い。また、オンラインプラットフォームを活用して、より多くの人々に障害のある方の表現活動の魅力を発信し、参加の機会を提供していきたい。さらに、障害のある方々の声やニーズに耳を傾けながら、より包括的で柔軟な支援体制を構築し、誰もが表現活動を通じて自己表現を楽しむことができる環境を整えていきたい。



YouTube番組「ひゅるりんぱ」

実施一覧

●相談支援 [アート相談窓口、10/31・12/2] ●人材育成 [アートセミナー&座談会1「もしも『新しい表現活動をしたい』『絵を描きたくない』と言われたら』8/5 アートセミナー&座談会2「もしも『絵が欲しいよ(買いたいよ)』と言われたら』9/5 アートセミナー&座談会+ワークショップ3「もしも『書道がしたいよ』『きれいな字が書きたいよ』と言われたら』11/11 アートセミナー&座談会4「もしも『アートって何?』って言われたら、そして思ったら』12/1] [専門家派遣(単発型)作品展示についての研修会、9/12] [人形劇「一寸法師」とお楽しみ交流会、3/9] [「アートの巣箱」公募事業集まれ!ぼくらの星ここにいるよ、1/12~1/14(合計3回)] ●関係者のネットワークづくり [ネットワークの構築「のらのの会」5/31~3/6(合計6回)] ●参加する機会の確保 [第21回広島アピリンピック 障がいのあるアーティストによる作品展示、1/6] [ゆかいに共生ゆーとび企画 おきらく劇場ピロシマによる演劇公演『まいるまいるまいる』のサポート、1/13~1/14(合計4回)] ●情報収集・発信 [YouTube番組「ひゅるりんぱ」7/22~3/1(合計14回)] [表現を楽しもうプログラム(動画

配信)「アーティストに会いにいってみた」2/8~3/18(合計4回)] ●その他 [体験ワークショップ「書道を楽しもう」6/10] [専門家派遣(単発型)「書」を楽しもう、6/10] [おきらく劇場ピロシマ演劇クラブのサポート、6/25~3/10(合計6回)] [鑑賞支援遠隔ロボットを使った鑑賞サポート、9/23・9/30] [専門家派遣(継続型)「創作」を楽しもう、11/10~3/22(合計8回)] [鑑賞支援 広島県立美術館紹介動画の制作、12/4] [鑑賞支援 みんなで楽しむ「第3回おしゃべり鑑賞会~美術館でアートを見よう~」2/24]

支援センター運営団体

認定特定非営利活動法人コミュニティリーダーひゅるりんぱ
1981(昭和56)年に任意団体として発足。2001(平成13)年よりNPO法人になり、2018(平成30)年3月には認定NPO法人として活動。児童福祉施設児童発達支援センターの運営、就労継続支援B型事業所の運営を行うほか、障がい者アートによる街づくり事業(障がい者アート展の実施等)、ボランティア育成事業(福祉教育の一環としてのボランティアの受け入れ・育成事業等)を行っている。

徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

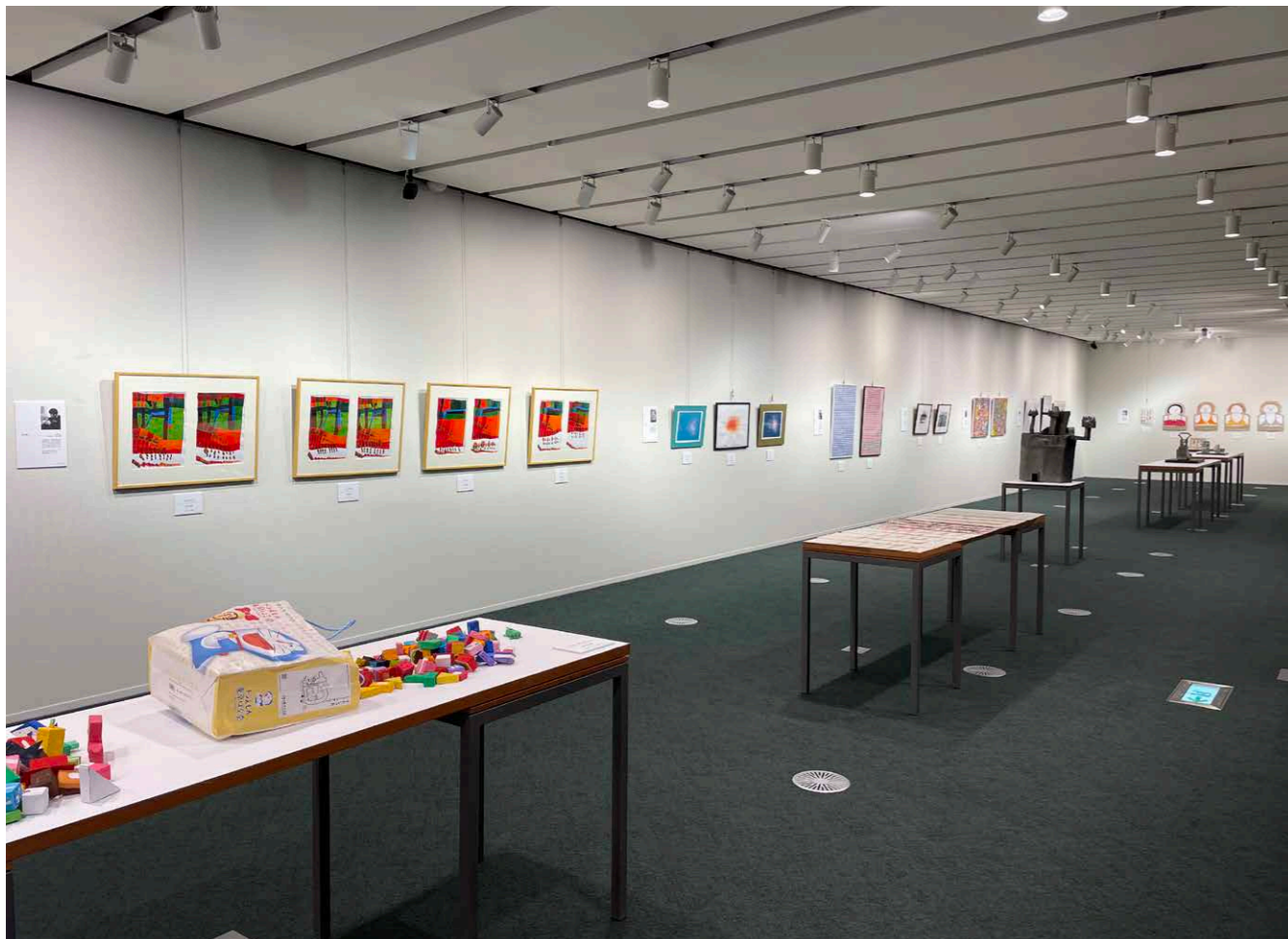
〒770-0005 徳島県徳島市南矢三町2-1-59 徳島県立障がい者交流プラザ1階

TEL: 088-631-1200 FAX: 088-631-1300

E-mail: t-geibun@kouryu-plaza.jp URL: http://kouryu-plaza.jp/gb-center/



Pick Up! 私のことば2023展



「私のことば2023展」会場風景

ねらい 徳島県障がい者・芸術文化活動支援センターは、2018（平成30年）年9月に開設され、今年度開設5周年を迎えた。これを記念し、阿波銀行と共催で「私のことば2023展」を開催し、記念セレモニーと新川修平氏（特定非営利活動法人100年福祉会片山工房理事長）をお招きして記念

内容 展覧会では、県内在住の障害のある12名の方々が制作した作品35点を展示するとともに、作者紹介のビデオも上映した（ビデオは当センターのYouTubeチャンネルで視聴可能）。また、第9回「障がい者アーティストの卵」発掘展で受賞した13点の作品、第3回全国公募「Tシャツデザイン展」での優秀作品を県内クリエイターが協働で

講演を行なった。この展覧会では、自分らしく生き、社会の中で生きがいを見つけ、積極的に自立と社会参加を目指す表現活動に取り組む人々の姿を紹介するとともに、県内企業と共催することにより、当センターの知名度向上に貢献することをねらいとしている。

制作したTシャツ5点も展示。開催期間中220名を超える方々が来場し、「作者それぞれが魅力的で感動した」「一人ひとりの『ことば』がひしひしと伝わる展示で、心の限り表現しようとする様子に胸を打たれた」等の温かい言葉がたくさん寄せられた。

今年度の課題と目標

障害者芸術文化の振興は、障害のある方の活躍の場の創出や社会参加の意欲向上につながるのと同時に、芸術文化活動を通じた障害のある人となない人の交流による障害者理解の促進など社会的にも大きな意義がある。特に一般企業等に障害者芸術の素晴らしさを知ってもらうとともに、支援センターの知名度を上げることにより、多くの方々が参加できる新たな方策を企画・実行することが

今年度の成果と展望

全国公募「Tシャツデザイン展」「障がい者アーティストの卵発掘展」で多くの方に出品、観覧していただき、障害者芸術への理解促進に貢献することができた。また、舞台芸術の発表の場として「みんなのはっぴょうかい」を開催し、YouTubeでのライブ配信も行った。「障がい者アート活動支援のためのワークショップ」では、県内外



第2回「みんなのはっぴょうかい」舞台風景

実施一覧

●相談支援 [相談記録簿の作成、4/1～3/20(合計11回)] ●人材育成 [「知的財産権の基礎を学ぼう」10/4] [「ポードレス・アートミュージアムNO-MA」佐川美術館見学、10/18] [マスキングテープで表現してみよう、11/5] [NFTって何?、12/7] [「私のことば2023展」センター開設5周年記念講演、12/17] [「ひとりひとり、いろいろで、まる。」工房まる作品展 公開制作・ゲストトーク、2/25] ●関係者のネットワークづくり [訪問調査、10/3～11/17(合計12回)] [企画委員会、9/22・3/11] ●参加する機会の確保 [笠野智也作品展、4/29～5/28] [第3回全国公募Tシャツデザイン展、7/14～8/16] [第9回「障がい者アーティストの卵」発掘展、9/6～9/10 巡回展、9/23～12/18] [「私のことば2023展」12/13～12/18] [第2回「みんなのはっぴょうかい」2/22] [Spring展、3/20～4/14] [プラザギャラリー貸出業務、4/1～3/31(合計7回)] ●情報収集・発信 [ホームペー

じによる情報発信、4/4～3/20(合計87回)] [SNSによる情報発信、4/21～3/20(合計118)] [「ひとりひとり、いろいろで、まる。」工房まる作品展、2/21～3/3] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [事業報告、3/10・3/11] ●その他 [作品販売、6/1～2/29] [「あつまれ! みんなで楽しもう!!」音楽療法体験、8/1]

の福祉施設関係者や利用者の方々に参加していただいた。今後も、多様な表現活動に取り組んでいる障害のある方々の優れた才能やその魅力を広く発信していくことで、多様な人々が自分らしく生きることができる社会で生きがいをみつけ、積極的に社会参加し、自立していけることを目標に活動を続けていきたい。



「集まれ! みんなで楽しもう!!」音楽療法体験 実施風景

支援センター運営団体
社会福祉法人徳島県社会福祉事業団

1972（昭和47年）年の設立以来、福祉施設の経営とともに福祉ニーズに応じた専門的なサービスを提供するほか、障がい者のスポーツ、芸術・文化活動の事務局を担うなど多彩な事業も積極的に展開している。これまで積み上げてきた信頼を財産とし、地域共生社会の実現に向け牽引役をはたしていく。また、県施設の指定管理業務等もやっている。

香川みんなのアート活動センター KAGAWA MOVES

〒761-1703 香川県高松市香川町浅野1032-6

TEL: 087-880-1559 FAX: 087-880-1559

E-mail: kagawamoves@mc.pikara.ne.jp URL: https://www.kagawamoves.com/



Pick Up! リズムワークショップ、アートワークショップ、音楽鑑賞会



ガムテープ太鼓を使用した「リズムワークショップ」の様子

ねらい 生の芸術に触れてもらうことにより、障害のある方に文化芸術への興味を持ってもらう。また、文化芸術の専門家らと連携し、文化芸術活動を支援する保護者・

内容 以下のワークショップを実施した。①リズムワークショップ：講師はドラマーの梶原哲也氏（元ブルーハーツ）。バケツに好きな色のガムテープを貼り、ガムテープ太鼓をつくった。梶原氏のリードで色々なリズムのパターンをガムテープ太鼓を鳴らして楽しんだ。②アートワークショップ：美術家の講師を迎え、県内2施設でワーク

支援者の支援技術の向上を図るため、ワークショップおよび講座を実施する。

ショップを実施。地域イベントのバックアートの制作や、新聞紙を使用した創作活動を行った。③鑑賞会：ピアノ・バイオリン・尺八のプロミュージシャンを招き、県内3施設で音楽鑑賞会を実施。豊かな音色や迫力ある生演奏を楽しみ、手づくり楽器で演奏にも参加した。

| 今年度の課題と目標

「文化芸術活動の専門家・支援者の発掘」や「サポーターの募集」を行うとともに、障害者の文化芸術作品の展示場所と、作者情報の分析と活用を図る。また、県内の障害者施設および文化芸術団体の活動の状況把握を継続して行うことで、障害者の文化芸術活動の支援を進めていく。

さらに、ワークショップ等を企画・実施することで、障害者が文化芸術活動に参加する機会を創出するとともに、支援者に対しても文化芸術活動を実際に体験してもらう。

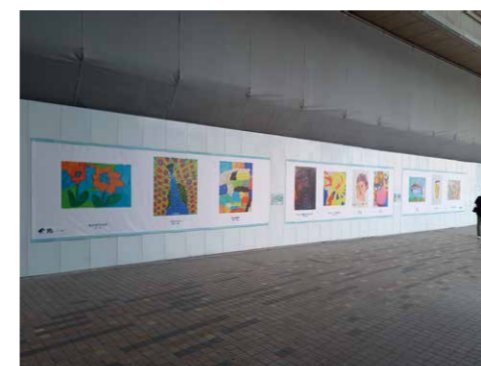
| 今年度の成果と展望

今年度は初めて障害のある方と支援者を対象にしたワークショップを開催し、「鑑賞・創造の機会の拡大」「発表の機会の確保」をすることにより、多くの障害のある方に文化芸術を身近に感じてもらうことができた。支援者には、文化芸術活動の支援に対する糸口をつかむきつ

のほか「香川県障害者芸術祭2022」に出展された作品の一部を県内各地で展示する「巡回展」や障害者アートをWEB上で展示する「常設WEB展示」を新たに実施し、障害者の文化芸術活動の発表と鑑賞の機会を確保するとともに、情報発信を行うことで共生社会の実現に向け、広く障害者理解の促進に努める。

また、外部機関等との連携等により、障害者の文化芸術活動による作品の二次利用について検討していく。

かけづくりを行った。今後もワークショップの開催を通じて、文化芸術を身近に感じられる機会を拡充していく。また、外部機関等との連携により、障害者の文化芸術活動による作品の二次利用について継続して検討していく。



左/建築現場の仮囲いを活用した作品展示「まちかどアート展」の様子（高松常盤町商店街）

右/ピアノ・バイオリンのプロミュージシャンを招いた音楽鑑賞会の様子



実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31] ●人材育成 [リズムワークショップ、7/18] [アートボランティア養成講座、8/6] [アートワークショップ、10/20・11/29] ●関係者のネットワークづくり [香川みんなのアート活動センター KAGAWAMOVES 運営委員会、4/1～3/31 (合計3回)] ●参加する機会の確保 [香川県障害者芸術祭2022～キラリ☆と光る芸術祭～巡回展、6/1～2/4 (合計7回)] [建築現場仮囲い展示「まちかどアート展」開催、7/13～] [たかまつ元気DAY! 展示、11/23] [常設web展示「香川みんなのアートギャラリー」開設(オンライン)12/1] [県庁ギャラリー展示「アートを通じた障害のある方々の社会参加のかたち」

3/18～3/25] ●情報収集・発信 [実態把握、4/1～3/31 (合計3回)] [イラスト入りエコバッグの制作・販売、4/1～3/31] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [令和5年度事業報告書] ●その他 [音楽鑑賞会、10/5～10/25 (合計3回)]

支援センター運営団体
NPO 法人音楽療法グループ WALKS

ハンディのある人が参加している音楽グループ。結成は1992(平成4)年で、香川県内を始め西日本を中心に公演等の活動をしてきた。2015(平成27)年にNPO法人を取得し、生活介護の障害福祉サービス事業所を運営するなど活動の幅を広げている。

愛媛県障がい者アートサポートセンター

〒790-0843 愛媛県松山市道後町2-12-11(愛媛県身体障がい者福祉センター内)

TEL: 089-924-2170 FAX: 089-996-8116

E-mail: art-support@ehime-swc.or.jp URL: https://ehime-artsupport.jp/



Pick Up! 商品化支援事業「障がい者アートデザインコンペ」



アーティストとデザイナーがアイデアを練る様子

ねらい 障害のある方の自立や社会参加の促進を図るため、協賛企業の協力のもと、障害者アートを活用した商品化をめざす。企業が設定した課題（企業が扱っている商品や自社で取り組みたい商品を具体的なテーマとした）に対し、障

内容 今年度は、らくれん牛乳部門（牛乳パック広告面のデザイン）、今治タオル部門（タオル商品のデザイン）、松山鍋焼きうどん部門（カットフィルムのデザイン）の3部門について次の流れで実施した。①デザイナーの選考・決定（4月）②アーティストの募集（5～6月）③アーティストの選考・決定（6月）④参加者説明会（6月、デザインコンペの内容説明、企業の

害者とデザイナーがチームを組み、ワークショップでアイデアを創出。審査・評価を企業等が行う企業コンペ形式で開催する。企業に採択されたアイデアはブラッシュアップを行い、実際に商品化して販売する。

テーマ発表)⑤ワークショップ（7月、アーティストとデザイナーが協働してデザインを練る）⑥プレゼンテーション（8月、1チーム当たり12分の発表）⑦採用アイデアの決定（8月）⑧ブラッシュアップ（9～12月）⑨商品の製造・販売（1～3月）⑩表彰式および事業成果報告会（1月）。

今年度の課題と目標

商品化支援事業として2021（令和3）年度より「障がい者アートデザインコンペ」を実施している。本事業により、障害のある方の自立と社会参加の一助となるとともに、障害者アートの商品化のモデルとなり、社会啓発が進むことによって、デザインコンペ協賛企業以外の事業者からの商品化に関する問合せや協力依頼が増えてきた。

今年度の成果と展望

デザインコンペでは3部門3作品が商品化され、企業により販売された。今までの成果の蓄積から、ワークショップ、審査、契約、商品化、販売までスムーズに進行し、商品化のモデルが確立した。弁護士作成の契約書雛型も適切に活用された。デザインコンペのプレゼンテーションは一般公開し、企業数社の参観があった。「芸術文化活動を支援する人材の育成研修」では、昨年

それにつれて権利や契約等についての問題や相談も増え、商品化支援事業のあり方や内容の発展的な見直しを図っていく必要性が出てきた。今年度は「障がい者アートデザインコンペ」の運営と他事業との連携を通して、次年度の商品化支援事業の方向性を明確にしていこうことを目標とした。

度に引き続きアートにまつわる権利についての研修を行い、企業数社の参加があった。新設したホームページには、アーティスト紹介、デザイナー紹介、商品化事例紹介のページを作成し、商品化に興味・関心が持てるような環境を整えた。来年度はデザインコンペを廃止し、商品化を希望する事業者に対して必要な経費の補助や支援を行うかたちに発展させる。



左/「障がい者アートデザインコンペ」で商品化された製品（らくれん牛乳のパック、今治タオル、松山鍋焼きうどんのフィルム）

右/ミュージカル「Christmas Gift ～聖者の行進～」舞台風景



実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31] ●人材育成 [外部指導者派遣事業（舞台芸術）、8/29～2/14（合計18回）] [表現力向上ワークショップ、9/9～10/21（合計3回）] [外部指導者派遣事業（美術）9/10～2/19（合計12回）] [三浦友美氏講演会、9/11] ●参加する機会の確保 [障がい者芸術文化祭～愛顔ひろがる えひめの舞台芸術、7/15（合計2回） えひめの舞台芸術～ワークショップ、リハーサル、7/22～12/23（合計30回） えひめの障がい者アート展、11/30～12/10 えひめの舞台芸術～成果発表会、12/24 成果発表会YouTube配信、2/25～3/31] ●情報収集・発信 [身体障がい者福祉センター作品展示、4/1～3/31（合計8回）] ●その他 [テクSPORT今治作品展示、4/1～3/31（合計4回）] [障

がい者アートデザインコンペ説明会、6/27 ワークショップ、7/11 プレゼンテーション・審査会、8/22 表彰式・成果報告会、1/31]

支援センター運営団体
社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団

愛媛県の100%出資により設立された公共性の高い社会福祉法人で、障がい者支援施設を始めとする7つの直営施設、4つの県営施設、3つの公益事業所を運営している。障がい者等が自立した生活を営むことができるよう、生活支援や訓練、就労・自立に向けた相談・支援や障がい者のスポーツ・芸術文化の振興等に取り組んでいる。

藁工ミュージアム 分室

〒781-0074 高知県高知市南金田28 アートゾーン藁工倉庫

TEL:088-879-6800 FAX:088-879-6800 E-mail:info@warakoh.com

URL:https://www.facebook.com/profile.php?id=100067579957323



Pick Up! 高知市文化プラザかるぽーとリニューアルオープン記念事業 第7回高知市民ミュージカル「Gift of Life ～にぎやかな植物園～」への協力



「Gift of Life ～にぎやかな植物園～」本番の様子

ねらい さまざまな立場の人が「舞台作品の創作」という目標に向き合いながら経験や価値観、学びや喜びを共にする場づくりを通じ、劇場を拠点とした新しい共生社会の実現を目的とする公立文化施設の事業に協力する。

内容 公益財団法人高知市文化振興事業団から相談を受け、年齢や社会的立場、障害や舞台経験の有無に関係なく、誰もが参加できる市民参加型ミュージカルの上演に協力した。7歳から80歳までの90名が出演者として、小学生から50代までの23名がサポーターとして参加。うち、障害のある方は1割に満たない程度だったが、

これにより、障害の種別や程度等にかかわらず誰もが文化芸術活動に参加できる継続的な土壌形成を図り、公立文化施設が事業に取り組む機運が高まることをねらいとする。

障害のある方のサポートを行い、安心して活動に参加できる環境整備を図った。また、聴覚に障害のある方、文字のほう理解しやすい方を対象とした鑑賞支援サービスを提供。さらに、障害のある方が活動に参加する際のサポートや環境整備を行える人材、字幕制作とオペレーションスタッフの育成も行った。

今年度の課題と目標

「高知県障害者美術展（スピリットアート）」が今年度27回目を迎え、創作活動に取り組んでいる福祉施設なども増え、美術活動は一定して活発になってきているが、美術分野以外での展示機会は少ない。展示作業も美術展主催者が行うため、作品保全や展示のノウハウが蓄積されにくい状況である。また、作品販売の機会はほとんどない。

舞台芸術分野では、公立文化施設等による「障害の有無にかかわらず参加できる事業」への取り組みは着実に増えてきているが、非常に機会は少ない。事業に取り組むためにも取り込むことができない文化施設もあり、ジレンマを抱えている。機会増大を図るためにも、文化施設への支援が必要である。

今年度の成果と展望

美術分野では、アーティストの主体性を重んじたアンデパンダン方式のアートバザール（「アートだ!」と思う作品を誰もが展示販売できる）を開催。障害の有無にかかわらず作家同士やつくり手の支援者が交流する機会となった。継続して参加している作家の様子から、表現や展示、販売方法等を学び合う機会になっていることも伺え、作品販売点数も増えた。関わる方の声を拾い上げ、バージョンアップしながら継続し、作家主体の作品発表・販売機会



展覧会「こどもの絵-今と昔-」関連イベントTJ☆WS「美術館×遊び場」ワークショップの様子

を創出していきたい。

舞台芸術分野では、公立文化施設等が行う事業への協力を注力した。小学生から80代までの幅広い障害種別の方が関わる舞台作品づくり、さまざまな配慮やサポートのある公演鑑賞、劇場のルールを学ぶ鑑賞機会など、障害のある方が主体的に参加できる土壌づくりは進んでいるが、今後は高知市外にも取り組みを広げていきたい。



TJ☆WS「美術館×遊び場」ワークショップの参加者が考えたワークショップ「美術館×遊び場」①絵の世界でソロキャンプの様子

実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31] [「ワークショップ目の前にいる『気になる存在』を魅力的なパートナーにする秘訣」への協力、4/1～3/31] [高松ワークショップLab.×岡山芸術創造劇場ハレノワ「トークセッション バリアフリーな場ってなんだろう?」への協力、4/1～3/31] [「知的・発達障害児(者)にむけての劇場体験プログラム」への協力、4/10～2/10] [第7回高知市民ミュージカル「体験ワークショップ」への協力、4/22・4/23 「Gift of Life ～にぎやかな植物園～」オーディションワークショップへの協力、5/6・5/7 「Gift of Life ～にぎやかな植物園～」への協力、5/20～12/17 地域交流プログラム「プチミュージカル体験」への協力、10/22 鑑賞支援サービス、12/16～12/17(合計3回)] [こうちミュージアムネットワーク情報交換会発表「文化施設における障害者への合理的配慮について」5/23] [研修会「障がいのある方が来やすい文化施設について考えてみる」6/26] [「東京演劇集団 風-バリアフリー演劇- 星の王子さま」への協力、10/16～1/20] [第3回藁工アンパンアートバザール] 会場下見・相談会、10/20～10/23 (合計4回) [アーティスト派遣、1/11] [夜須公民館主催事業 市民参加演劇公演 鑑賞支援サービス、2/24(合計2回)] ●人材育成 [展覧会「こどもの絵-今と昔-」関連企画TJ☆WS「美術館×遊び場～ワークショップを体験してつくってみよう～」6/20～9/3] [障害者の文化芸術創造拠点形成プロジェクト DANCE DRAMA「Dance Camp」への協力、8/26] ●関係者のネットワークづくり [ネットワークづくり、4/1～3/31] [「第3回藁工アンパンアート

バザール」交流会、11/25 振り返り会、12/4] [いろいろを楽しむ演劇プロジェクト「手話表現でゲーム!!」3/23～3/30] ●参加する機会の確保 [展覧会「こどもの絵-今と昔-」7/15～11/5] [わらこう Sou Sou室 プレワークショップ作品展、3/15～3/31] ●情報収集・発信 [作家・作品調査、4/1～3/31] [情報収集、4/1～3/31] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [事業評価、4/1～3/31] [成果報告のとりまとめ、1月頃～3/31] ●その他 [展覧会「こどもの絵-今と昔-」関連イベント「美術館×遊び場」ワークショップ①②、9/2～9/3] [障害者の文化芸術創造拠点形成プロジェクト DANCE DRAMA「Dance Caravan in 高知」への協力、11/11] [第3回藁工アンパンアートバザール「アーティスト応援BOX」設置、11/17～12/3 投げ銭パフォーマンスステージ、12/3] [身体表現と舞台芸術の可能性を探るワークショップと作品づくり、1/21～3/17] [わらこう Sou Sou室(仮)プレワークショップ2/10～2/11(合計3回)] [わらこう Sou Sou室]の開設、3/1～3/31]

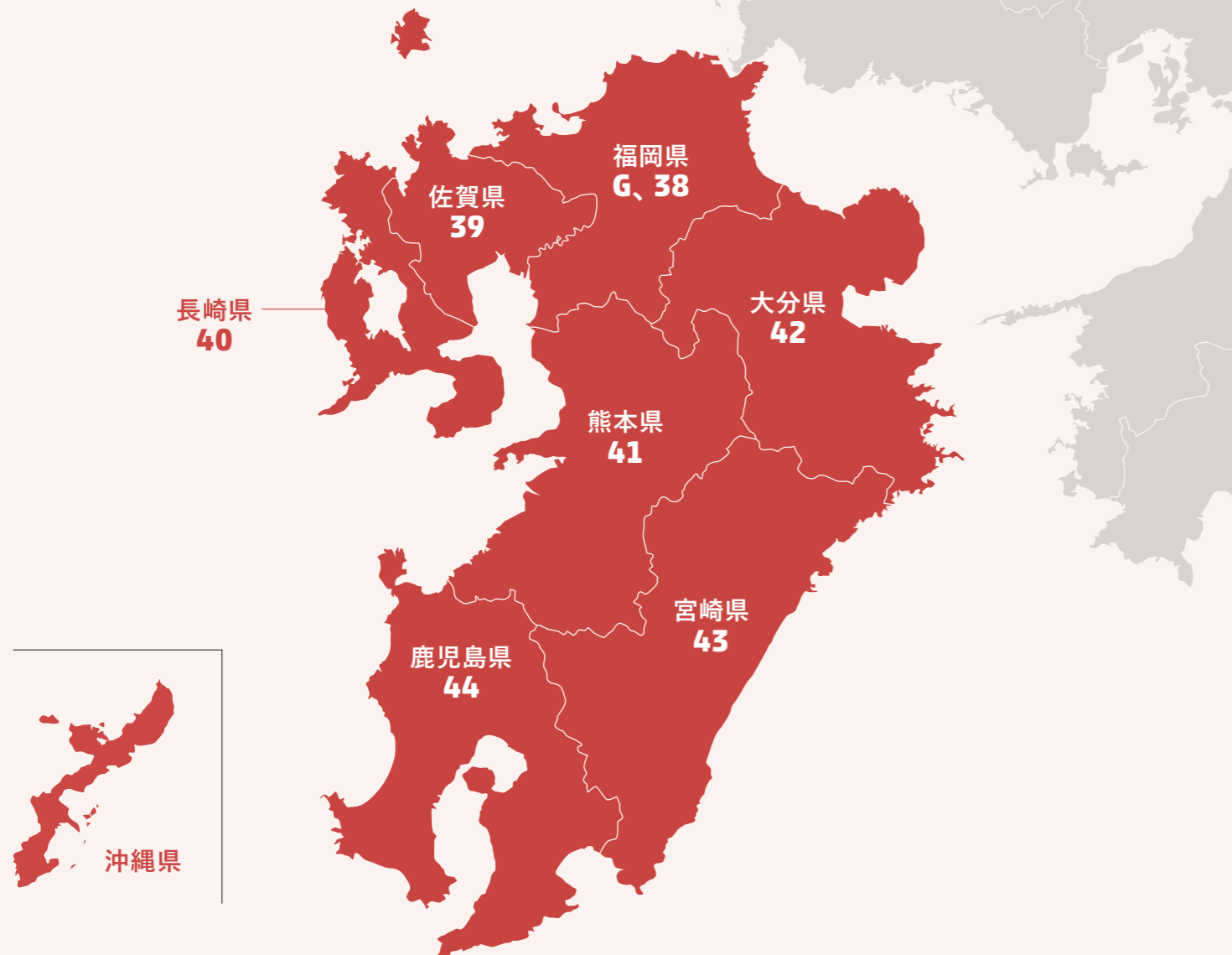
支援センター運営団体 特定非営利活動法人蛸蔵

多目的施設「蛸蔵」の運営を通じ、演劇、音楽、映画、美術等の制作並びに発表の場を提供している。また「藁工ミュージアム」を2022(令和4)年より運営。同館は、福祉とアート、地域とアートをつなぎ、誰もが多様なものとつながり、多様なものの存在を楽しむことができる、創造的かつフラットな場となることをめざしている。

九州ブロック

G 九州障害者 アートサポートセンター

広域センター運営団体：特定非営利活動法人まる



ブロック内の状況

ブロック会議での報告やイベント視察等を行う中で、昨年度に引き続き気になるのが、相談件数、セミナーの参加者数、展覧会や舞台の入場者数を成果として捉えている支援センターも少なくないことだ。予算規模や人員的な差があることや、日常の事業所運営も兼ねて実践されることの大変さは承知しているが、本事業がめざす幅広い文化芸術活動のさらなる促進、他分野と連携しての文化芸術にふれる機会の創出、地域における推進体制の構築を視野に入れた取り組みを実践していく必要性を感じている。

九州ブロック広域センター：九州障害者アートサポートセンター

今年度は、鹿児島県、宮崎県、長崎県の支援センターと関係団体とのネットワーク構築、アートサポーターの人材育成、文化施設との連携構築と各地の課題解決に向けた講座を協働して開催した。また、九州ブロック会議では、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県の支援センターが参加した。各支援センターに新たなネットワークができつつあるので、そのつながりを連携できるように発展させたいと考えている。沖縄県においては、支援センター設立に向けた沖縄県内のさらなるネットワーク構築を目的としたセミナーを開催した。

福岡県

担当課：人づくり・県民生活部文化振興課

38 FACT(福岡県障がい者文化芸術活動支援センター)
支援センター運営団体：特定非営利活動法人まる

佐賀県

担当課：文化・観光局文化課

39 佐賀県障がい者芸術活動支援センター SANC
支援センター運営団体：社会福祉法人はる

長崎県

担当課：福祉保健部障害福祉課

40 長崎県障害者芸術文化活動支援センター
支援センター運営団体：長崎県障害者社会参加推進センター

熊本県

担当課：健康福祉部子ども・障がい福祉局障がい者支援課

41 障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館
支援センター運営団体：社会福祉法人愛隣園

大分県

担当課：福祉保健部障害者社会参加推進室

42 おおいた障がい者芸術文化支援センター
支援センター運営団体：公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団

宮崎県

担当課：総合政策部みやざき文化振興課

43 宮崎県障がい者芸術文化支援センター
支援センター運営団体：社会福祉法人ゆくり(アートステーションどんこや)

鹿児島県

担当課：くらし保健福祉部障害福祉課障害者支援室

44 鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター(かごしまアールブリュットセンター)
支援センター運営団体：社会福祉法人ゆうかり

沖縄県

担当課：生活福祉部障害福祉課

九州障害者アートサポートセンター

〒815-0041 福岡県福岡市南区野間1-13-1 グレイスビル602号

TEL: 092-516-0677 FAX: 092-516-0677

E-mail: info@kda-support.org URL: https://kda-support.org/



Pick Up! セミナー「福祉とアートを考えるセミナー@沖縄」



支援センター設立に向けて沖縄で開催したセミナーの様子

ねらい 11月（2023（令和5）年度）、沖縄県から次年度の支援センター設立に向けての予算請求を行っているとの連絡があり、当初考えていた展覧会企画ではなく、セミナーを開催した。本セミナーでは、本事業に取り組む目的や支援センターのこれまでの活動事例の紹介と同時に、支

援センターの設立に向けた沖縄県内のさらなるネットワーク構築を目的とする。セミナー開催日は、参加者と支援センター設立に向けたディスカッションを行い、福祉、文化、教育といった分野を超えた新たなネットワーク構築をめざす。

内容 セミナー前半は、森真理子氏（厚生労働省）に本事業の目的と事業の紹介をしていただき、鈴木京子氏（国際障害者交流センター ビッグ・アイ）には大阪府支援センターにおける舞台芸術分野からの取り組み、当センターの樋口からは美術分野の取り組み事例を紹介した。

福祉関係者だけでなく、文化、行政、教育など他分野の方々に参加いただき、設立に向けたディスカッションではさまざまな意見を伺った。支援センター設立に向けて新たなネットワークを構築することができた。

今年度の課題と目標

2024（令和6）年度の沖縄県の支援センター設立に向け、設立準備会のネットワークを強化し、自治体との意見交換の場を設けながら働きかける。

九州ブロックの各支援センターが、自治体との協力体制を強化し、県内で芸術活動を行っている団体や文化施設等とのつながりを構築し、芸術文化活動のニーズに対応

する支援を行うために連携を図る。また、九州ブロックの各支援センターが、障害のある人たちの権利擁護やさまざまな場面での契約について専門的な知識を得て、著作権を始めとした権利擁護についてトラブルを未然に防ぐことのできる相談支援ができるよう、学びの場をつくる。

今年度の成果と展望

2024（令和6）年度に沖縄県の支援センターが設立することが決定した。ネットワーク会議にて、どのような体制で支援センターを運営するのかを沖縄県の障害福祉課も含めて協議しており、支援センター設立に向けてサポートを続けていく。また、今年度は鹿児島県、宮崎県、長崎県の支援センターと関係団体とのネットワーク構築、アートサポーターの人材育成、文化施設との連携構築と各地の課題解決に向けた講座を協働して開催した。そ

こで培った新たなネットワークを生かして、次年度も引き続き協働事業を展開していく。

「九州ブロック研修」においては、著作権や知的財産権等を専門にされている弁護士を講師に招き、シミュレーション形式でさまざまなシーンで生まれる権利についてわかりやすく解説していただいた。各支援センターからも多くの質問が飛び交い、今後の相談支援に生かすことができた。



左/熊本県立劇場で開催した「現場体験ワークショップ」実施風景

右/九州ネットワーク会議で開催した「劇場体験プログラム」会場風景



実施一覧

●各支援センターに対する支援 [現場体験ワークショップ、7/12] [文化と福祉のレクチャー&相談会、7/12] [アートサポーター養成講座「アート活動のすすめ@宮崎」12/2] [セミナー「表現活動のあれこれ@鹿児島」1/20] [文化と福祉のマッチング相談会、1/29] ●センター未設置都道府県の事業所等への支援 [沖縄ネットワーク会議（オンライン）6/28～2/10（合計4回）] [福祉とアートを考えるセミナー@沖縄、3/9] ●センター未設置都道府県の事業所等への支援 [沖縄ネットワーク会議（オンライン）6/28～2/10（合計4回）] [福祉とアートを考えるセミナー@沖縄、3/9] ●芸術文化活動に関するブロック研修 [著作権セミナー、11/30] ●ブロック内の連携の推進 [芸術×福祉九州ネットワーク会議、7/12～12/18（合計3回）] [九州ブロック会議

（オンライン）7/13～3/21（合計3回）] ●参加する機会の確保 [みんなのアート展2023空の森、6/5～6/11（合計7回）] [劇場って楽しい!! 2023夏 in アクロス福岡、8/5（合計2回）] [まるのふだん展、11/12～1/19（合計8回）]

広域センター運営団体 特定非営利活動法人まる

1997（平成9）年に無認可の福祉作業所として開設し、2007（平成19）年にNPO法人化。当初から障害のある人たちが自分らしく生活できる環境を構築することを目的に、創作・表現活動を中心に行っている。現在、施設運営事業では3ヶ所の事業所を運営し、コミュニケーション創造事業では、行政や地元企業との協働事業等を展開している。

FACT (福岡県障がい者文化芸術活動支援センター)

〒815-0041 福岡県福岡市南区野間1-13-1 グレイスビル602号

TEL: 092-516-0677 FAX: 092-516-0677

E-mail: fact@maruworks.org URL: https://fact.or.jp/



Pick Up! ワークショップ「ことばであそぼう!おのおのオノマトペ」



地元アーティストと開催した「詩のワークショップ」

ねらい 展示会への出展や舞台公演への出演等が難しい障がいのある人たちに対して、気軽に参加できる表現の場の構築をめざし、地元アーティストやクリエイターたちと

内容 各地で詩のワークショップを展開している渡邊めぐみ氏（詩のソムリエ/NPO法人ドネルモ）をファシリテーターに招き、オノマトペから連想して身体や音で表現したり、参加者オリジナルのオノマトペから物語を制作したり、参

画を練り、地域の文化施設と協力して芸術活動を通じた交流の場をつくる。

加者の個性に注目したワークショップを開催した。参加者の個性があふれるワークショップとなり、継続的な開催を望む声がたくさんあった。

| 今年度の課題と目標

福岡県には地元で活動するアーティストやクリエイターが豊富に存在しているので、障害のあるなしにかかわらず、子どもから大人まで参加できる交流の場を構築していきたい。一方、支援センターの知名度の向上に関してはまだ課題があり、次年度以降は新たな領域として教育

分野との連携構築を検討している。特別支援学校や放課後等デイサービスなどに対するアウトリーチ事業により、障害児を対象にしたアート体験やワークショップ等を展開していきたい。

| 今年度の成果と展望

今年度実施した「詩のワークショップ」や「ツナガルアートフェスティバル FUKUOKA」で開催したデジタルアート体験に関しては、アーティストやクリエイターとともに企画を行い、イベント当日もファシリテーターを担っていただいた。今後も県内各地で新たなアーティストやクリエイターとつながる仕組みを構築し、障害のある人に対

してダンスや音楽、絵画や造形等のアート体験やワークショップを展開していきたい。

相談件数は、筑豊地区での事業所開設サポートや北九州市での講座参加者からの問い合わせや相談も増え、前年度238件から今年度345件となり、145%増加することができた。



左/新規に芸術活動を行う施設への相談
右/アクロス福岡で開催した「ステージパフォーマンス体験」の様子



実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31 (合計345回)] ●人材育成 [文化芸術と福祉がつながるレクチャー&交流会、8/24] [表現活動の進め方@北九州、3/14] ●関係者のネットワークづくり [現場体験ワークショップ、7/15] [劇場って楽しい!! 2023夏 in アクロス福岡、8/5 (合計2回)] ●参加する機会の確保 [みんなのアート展 2023 空の森、6/5～6/11 (合計7回)] [ことばであそぼう!おのおのオノマトペ、10/1・10/14] [ふくらむあそびのミュージアム、2/24]

支援センター運営団体
特定非営利活動法人まる

1997 (平成9年)に無認可の福祉作業所として開設し、2007 (平成19年)にNPO法人化。当初から障害のある人たちが自分らしく生活できる環境を構築することを目的に、創作・表現活動を中心にを行っている。現在、施設運営事業では3ヶ所の事業所を運営し、コミュニケーション創造事業では、行政や地元企業との協働事業等を展開している。

佐賀県障がい者芸術文化活動支援センター SANC

〒849-0917 佐賀県佐賀市高木瀬町長瀬1168-1 社会福祉法人はる内

TEL: 080-2794-6195 FAX: 0952-34-1024

E-mail: info@s-brut.net URL: https://s-brut.net



Pick Up! 創作体験ワークショップ／事業所訪問型ワークショップ／ Web サイトリニューアル



創作体験ワークショップの様子

ねらい 県内の障害のある人には、さまざまな要因により芸術文化活動にふれることが難しい人や、芸術文化活動を日々の暮らしに取り込むことができていない人がまだまだ多い。

内容 「創作体験ワークショップ」「事業所訪問型ワークショップ」は、さまざまな画材等に実際にふれて作品を制作することを通して、自宅や事業所での創作活動で使える道具や支援のヒントを学ぶことができるワークショップ。「いろいろな道具を使って、自由に描けて楽しかった」「自宅ではできないことができた」「利用者の新しい一面

障害のある人にとっては創作の機会となり、支援者にとっては創作活動支援のヒントにつながる体験型ワークショップを県内のさまざまな地域で開催し、障害者が芸術文化活動に取り組みやすい環境をつくることにつなげる。

「見ることができた」等の感想をいただいた。「Web サイトリニューアル」は、佐賀県内の障害のある人の芸術文化活動に関する情報のハブとして機能するWebサイトをめざしてリニューアルを実施。機能・コンテンツの充実を図る。

今年度の課題と目標

障害のある人の芸術文化活動への関心の高まりは、一方で、障害のある人の芸術文化活動の機会と環境を求めるニーズへの受け皿不足という状況も生み出す。障

害のある人の芸術文化活動への関心の高まりに対応し、さまざまな地域で障害のある人が芸術文化活動に取り組みやすい機会・環境を創出し広げていく。

今年度の成果と展望

障害のある人にとっては創作機会となり、支援者にとっては創作活動支援のヒントにつながる体験型ワークショップを県内8市郡で9回開催した。長時間の移動が困難だったり、日常の暮らしの中では創作活動に取り組むことが難しい障害者や支援者の創作活動への参加に

つながった。活動場所の確保が難しい事業所・団体のサポートについては、アトリエ・サンク（障がいのある人の芸術活動拠点として2015年に開設）を活動場所として活用してもらうことにより、参加機会の創出につなげた。



上/「がばいアーティストたち vol.6 実行委員会」実施風景 下/「第7回 スター発掘プロジェクト in 佐賀」より

実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31] [「どんぐりミュージアム」開設サポート、4/7～3/31(合計3回)] ●人材育成 [アート活動サポート、6/29～12/11(合計6回)] [事業所訪問型ワークショップ、7/31～12/5(合計5回)] [創作体験ワークショップ、9/14～10/15(合計4回)] [障がいのある人のアート活動を支えるための権利擁護セミナー&相談会、3/15] ●関係者のネットワークづくり [協力委員会の設置と運営(オンライン) 8/7～3/14(合計3回)] [「がばいアーティストたち展」を一緒に作りませんか? 9/3～2/4(合計7回)] ●参加する機会の確保 [スター発掘☆TV、6/3・9/23] [がばいアーティストたち Vol.6、1/27～2/4] [第7回

スター発掘プロジェクト in 佐賀、2/18・3/9] ●その他 [オープンアトリエ「ゆっつらアートデイ」 4/15～3/16(合計11回)]

支援センター運営団体 社会福祉法人はる

2002(平成14)年に設立以来、福祉支援サービスの創造と展開、整備を積み上げてきた。子どもから大人まで、活動や仕事を通して地域の方々と触れ合ったり協働したりすることで、障害のある人たちの生活が豊かになり、地域理解が深まることをめざした活動に力を入れている。

長崎県障害者芸術文化活動支援センター

〒852-8104 長崎県長崎市茂里町3-24 総合福祉センター内

TEL: 095-842-8178 FAX: 095-849-4703

E-mail: nagasaki-suishin2@mbr.nifty.com URL: https://nagasaki-artsupport.com/



Pick Up! 交流&実践セミナーはじめの一歩



実際に展示作業に取り組んだ第3回「はじめの一歩セミナー」実施風景

ねらい 2025(令和7)年度「全国障害者芸術・文化祭」の本県開催を見据え、アート活動とその支援の活性化や、支援者同士の横のつながりを形成する。さらには作者・作品の発掘等を目的に、作品はあるが発信の仕方がわからないと感じている支援者や、作者を対象として最終的に一つの展示会をつくり上げることを目標に据え、相

内容 セミナーは11月～2月の3回連続講座で開催し、初回はそれぞれ作品を持ち寄り、見せ合いながら作品の魅力を語り、意見を交わし合った。2回目は実際の展示に向け、講師から作品選定のポイントやキャプションの役割について説明を受けた上で、展示する作品の検討、額装選び・キャプションの検討等をした。その後、

互の交流、発信するための知識や手法を学ぶことをねらいとした。成果展示会は作者にとって初めての発表機会にもなった。さらには、受講者や所属事業所・団体が、セミナーで得た経験を生かして、次の発表の機会を創出していききっかけとなることもねらいとする。

キャプション作成と額装は受講者それぞれが持ち帰り、1ヶ月間をかけて取り組んだ。最終回では、県美術館ギャラリーにて実際に展示作業を行い、いろいろな展示のテクニックを学びながら奮闘し完成させた。展示会は1週間にわたり一般公開し、約200名のお客様に見ていただくことができた。

| 今年度の課題と目標

2025(令和7)年度「全国障害者芸術・文化祭」の本県開催を見据えたとき、本県ではいまだ障害者アートにふれることができる場(発表の場)が少ないことや、表現活動に取り組む障害者は多く存在するはずだが、支援者側に知識や横のつながりがなく発信に至っていないこと、そのために支援センターとしてもまだ把握できていないことなどが課題として挙げられた。よって今年度は、支援

| 今年度の成果と展望

「発表の機会拡大に向けた助成事業」では、事業実施に関わる助言や広報の支援等も行い、福祉事業所だけでなく中間支援団体や芸術団体の参加を得ることができた反面、福祉事業所については、ノウハウの不足や活動体制の整備が難しく、積極的な参加はまだ少ない。今後とも引き続き創作・発表の機会充実につなげる人材育成の

者や作者によるアウトプットに向けた後押しとなることを目標に、人材育成や助成事業に取り組んだ。また、さまざまな鑑賞機会へのアクセシビリティ向上も、全国芸文祭を控えてのもう一つの課題であり、支援センターと県内文化施設・関係者とのネットワーク拡大を図ることを目的とした事業にも取り組んだ。

取り組みを続けていきたい。また、九州障害者アートサポートセンターの協力を得て、県内の文化施設へのアンケート調査と、福祉分野と意見交換ができるセミナーを開催した。今後、いっそう文化施設等へ向けたスキルアップの機会提供、ひいては障害者の鑑賞の機会充実に取り組んでいきたい。



左/発表の機会確保事業助成事業を活用して福祉事業所が取り組んだ野外イベント
右/「文化施設と福祉施設との意見交換会」実施風景



実施一覧

●相談支援 [相談窓口の運営、4/1～3/31] ●人材育成 [創作体感・作品展示ワークショップ&講演会、9/7] [交流&実践セミナーはじめの一歩、11/21～2/6(合計3回)] ●参加する機会の確保 [ウェブサイトでの作品紹介(オンライン)4/1～3/31] ① [「天然色～100のTシャツ展～」Tsunagu Family & minatomachi factory presents、8/20～8/27] ② [「生きるもの展～愛徳7年の軌跡2017-2023～」9/17～9/30] ③ [ワクワクを届けたい みんなのフェス、10/29] ④ [ちよろずちよろず音楽祭、11/24～11/27(合計4回)] ⑤ [TSUNAGU FAMILY meets 音遊びの会!、11/25・1/8] ⑥ [笑って交流「障がい者や和い輪い」まつり、12/2] ⑦ [「しまのみんなの音楽祭」プレコンサート、12/10～12/11] ⑧ [L VILLAGE presents TRAP Exhibition、1/14～1/31(合計3回)] ※以上、①～

⑧は発表の機会確保事業助成事業 ●情報収集・発信 [ウェブサイト情報発信(オンライン)4/1～3/31] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [事業報告ニュースの発行、3/18]

支援センター運営団体
長崎県障害者社会参加推進センター

視覚・聴覚・内部の各協会と市町協会の各団体からなる県身体障害者福祉協会連合会に事務局を置き、県手をつなぐ育成会、県精神障害者家族連合会、県精神障害者団体連合会、県知的障がい者福祉協会、県精神障がい者福祉協会といった県下の障害福祉団体と連携しながら、障害者の社会参加を進めるための事業に取り組んでいる。

障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館

〒861-0551 熊本県山鹿市津留2022

TEL: 0968-43-2771 FAX: 0968-43-2793

E-mail: ailinkan@magma.jp URL: https://www.aileans.com/art/



Pick Up! ネットワークによる新たな事業展開



韓国とのネットワークを通じた友情展示。交流会の様子

ねらい 当支援センターではこれまでもネットワークを基盤とした事業展開を行ってきた。しかし、活動当初から美術分野の活動に特化して取り組んでいるため、県内における舞台芸術のネットワークは美術分野と比べると広がっていない印象である。広域センターの研修が本県であったことや、文化協会との関係性で生まれた劇場と

の新たなネットワークを基に新たな「発表の機会」「人材育成の場」とすることを目標とし、劇場のバックヤードツアーを行った。

また、当事者団体（DPI）とのつながりで生まれた韓国・ソウルとのネットワークを通して、国際的な視点で県内の事業をとらえ、作家活動支援の幅を広げたいと考えている。

内容 本県での韓国人作家の展示を通して、ソウルの芸術活動支援団体「図と知」（TOWAJI）との新たなネットワークが構築できた。県立美術館での意見交換会では作家交流を始め、日本と韓国の文化や芸術活動支援の制度の違いなどを共有したほか、視察訪問時には実際に韓国の作家が創作する環境について学ぶことができた。

次に、県内福祉事業所から参加する利用者・支援者とともに県立劇場のバックヤードを巡った。参加者は身近に劇場を感じ、劇場（文化施設）にとっては障害のある方々が施設を利用する際の障壁について学ぶ機会となった。芸術文化活動支援を実施するにあたり、県内の文化施設とのネットワークは非常に大切なものだ認識した。

今年度の課題と目標

創作活動を続ける上で作品の保管方法と保管場所、作品売買、二次利用等は作家・家族・支援者の積年の課題や目標になってきており、これまで研修会の開催や契約補助等を通して作家の利益を守るための支援の大切さ、その意識の浸透と必要な支援を図ってきた。また「相談支援」「発表の機会確保」等の毎年継続して取り組む事業に加え、ネットワークづくりによる新たな事業展

開も視野に活動することを課題としている。

これらの課題を踏まえ、本年度はネットワークを生かした事業展開と作家のニーズに沿った作品売買・二次利用の支援、作家の利益を守ることを目標として取り組んでいく。さらに、県内事業所や芸術団体等に芸術活動支援がより波及していくことを目標とする。

今年度の成果と展望

本年度は文化団体とのつながりが広がり、これまで一度だけ連携した県立劇場において新たな取り組みを実施することができた。また、継続開催している展覧会の設営運営・撤収を通して、県内の他事業所スタッフの芸術活動支援のスキルアップを図った。連携が強化でき、その後の事業でもより積極的に関わり合うようになった。さらに、作家・家族が展示をする際、展示協力と備品の

貸出を行うなど、個人、事業所レベルでの活動も活発化しており、これからも支援センターとして有効に機能していこうと考えている。

県内で作家・作品が評価される土壌（地域基盤）と、個人、事業所が各々に芸術活動を推進する動きが醸成されているのを感じた。



劇場との新たなネットワークから生まれた「熊本県立劇場バックヤードツアー」実施風景



地域の子ども達と福祉事業所利用児童を対象に行った「粘土体験ワークショップ」実施風景

実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31] ●人材育成 [現場体験ワークショップ協力 熊本県立劇場、7/12] [アール・ブリュット講演会～芸術でつながる地域共生社会づくり～、10/17] [駒田親子展示協力、2/20～2/25] [韓国芸術文化活動支援団体視察・意見交換、2/23～2/24] [県立劇場 バックヤードツアー、3/18] ●関係者のネットワークづくり [子ども陶芸粘土体験、5/20] [灯笼Tシャツ展、8/1～8/31] [岳くんと一緒に作ろう体験会、8/5] [生の芸術ArtBrut展覧会 vol.9 韓国作家との交流会、1/24] ●参加する機会の確保 [AO-KUMA BRUT、4/1～4/30] [作品レンタル事業、4/27～9/6] [福山ひろみ作品展、5/1～5/15] [デイケア陶芸展、5/15～5/30] [ゆうあい園さをり織展、6/1～6/30] [移動美術館 熊本機能病院、6/5～7/14] [北原岳作品展、8/1～8/15] [原山陽祐作品展、9/1～9/15] [ギャラリーウォール 中山颯良作品展、10/1～10/15] [角田奈穂・未来作品展、10/16～10/31] [移動美術館 やまがアート in 鶴城、10/28～

11/3] [ゆうあい園さをり織展、12/1～12/20] [移動美術館 鹿北小学校、12/5～12/8] [移動美術館 熊本城ホール、12/10] [移動美術館 緑ヶ丘小学校、12/14～12/22] [移動美術館 熊本県庁、1/4～1/19] [生の芸術ArtBrut展覧会 vol.9、1/24～2/4] [作品レンタル事業、2/15～6/30] [移動美術館 熊本県立劇場、3/28]

支援センター運営団体 社会福祉法人愛隣園

1950（昭和25）年創設の社会福祉法人愛隣園は、児童養護施設、軽費老人ホーム、特別養護老人ホーム、障害者支援施設と在宅サービス16事業を行う法人である。障害者支援施設愛隣館は、熊本県全域で多分野連携による障害者の芸術活動支援ネットワークを築くため、2014（平成26）年市民団体アール・ブリュットパートナーズ熊本の創立を図り、事務局を担っている。

おおいた障がい者芸術文化支援センター

〒870-0029 大分県大分市高砂町2-33 iichiko 総合文化センター内

TEL: 097-533-4505 FAX: 097-533-4013

E-mail: artbrut-oita@emo.or.jp URL: https://artbrut-oita.com/



Pick Up! オリジナル影絵パフォーマンス「よるのとびらをあける」



オリジナル影絵パフォーマンス「よるのとびらをあける」公演風景

ねらい アート作品を紹介する「おおいた障がい者芸術文化支援センター企画展」と同時期にパフォーマンス・ワークショップ・公演を行うことで、アート・身体表現・音楽の発表機会の創出と、お客様の流動性を高

内容 奈良県で障害のある人のアート活動に取り組む「たんぼの家」より講師を招き、公募で集まった参加者たちと3回のワークショップを経て、影絵とガムラン楽器による音楽の公演を実施した。テーマは“影”。たんぼの家で取り組んできたダンスプログラム「かげのダンス」、インドネシアの伝統的な影絵芝居「ワヤン・ク

める仕掛けを行っている。「影絵」は、パーツをつくる「アート活動」、影の動きをつくる「身体表現」、物語を進めるための「音楽」という全てを網羅した活動であり、参加者の満足度を高めることをねらいとした。

リッ」をヒントにしつつ、インドネシアの伝統楽器・ガムランも使いながらオリジナルの影絵芝居を創作した。パフォーマンスは、ワークショップ①「影絵体験&お話しをしよう」②「影絵人形を作ろう」③「パフォーマンス&音楽を作ろう」で内容を固め、現地でリハーサル、本番を実施した。

今年度の課題と目標

支援センターでは、大分県が2019(令和元)年度に策定した「大分県障がい者芸術文化推進基本計画」を元に7つの方向性である①相談支援、②創造機会 ③発表機会 ④鑑賞機会 ⑤人材育成 ⑥交流事業 ⑦情報収集・発信、を軸に事業を展開している。これまでは絵画や造形といった美術活動が中心だったが、ジャンルを偏向させることなく、

今年度の成果と展望

パフォーマンスによる発表の機会を設けたことで、美術活動とは違う層の参加者があり「やることはっきり分かったら、それに向けてみんなで作り上げていく過程がとても楽しかった」といった肯定的な感想をもらうことができた。また、交流事業では「学校ではできない貴重な体験になった。(子どもたちが)作品やアーティストと出会い、同じ空間で過ごせたことに感謝している」と

さまざまな表現活動があることを体感してもらうため、今年度は「発表機会」にて創作影絵パフォーマンスの企画を実施。「交流事業」では身体表現を行うファブリックアーティストを講師に招くこととした。また「人材育成」では施設職員から創作活動をしてみたいというリクエストを受け、ワークショップ型のセミナーを企画した。

いった感想を学校関係者からいただいた。ワークショップ型のセミナーでも施設職員や教員からさまざまな気づきがあったとの感想があった。今後、どの事業においても幅広い表現活動ができるよう、柔軟性のある環境を整えることで、障害の有無にかかわらず参加者が喜びや発見を得られる事業を展開していきたい。

左/交流事業「アートを感じるワークショップ」実施風景
右/人材育成事業「冬の創作ワークショップ」実施風景

実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31(合計410回)] ●人材育成 [冬の創作ワークショップ、2/4・2/25] ●参加する機会の確保 [gallery MAPO、5/2～3/31(合計6回)] [オープンアトリエ地域開催(中津市)展示、8/22～9/3] [オープンアトリエ地域開催(由布市)展示、9/26～10/9] [おおいた障がい者芸術文化支援センター企画展 Vol.5 扉をあける、11/8～11/18] [よるの扉をあける～オリジナル影絵芝居、11/9～11/12(合計5回)] [わたしのパレット展、3/2～3/25] ●情報収集・発信 [SNS等を活用した情報発信、4/1～3/31(合計184回)] [調査・発掘、6/21～1/29(合計5回)] ●その他 [オープンアトリエ in コトブキヤ駅南、6/11～3/10(合計16回)] [鑑賞支援「彫刻を触る時間」7/2] [アウトリーチ、7/6～3/20(合計21回)] [オープンアトリエ地域

開催(杵築市)8/3・10/14] [オープンアトリエ地域開催(中津市)8/18] [オープンアトリエ地域開催(由布市)9/3] [アートを感じるワークショップ、10/13・10/31]

支援センター運営団体

公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団

大分県立総合文化センターおよび大分県立美術館を拠点として、県民の幅広い欲求に応えられる多様な文化事業やスポーツの振興に関する事業を実施するとともに、県民と外国人の相互理解と友好親善の増進に努め、もって潤いのある県民生活の創造と健やかで個性ある地域づくりに寄与することを目的として、さまざまな事業を行っている。

宮崎県障がい者芸術文化支援センター

〒880-0825 宮崎県宮崎市東大宮4-23-1

TEL: 0985-27-2823 FAX: 0985-89-6000

E-mail: donkoya@jl.moo.jp URL: https://donkoya.moo.jp/artistic-culture_center/



Pick Up! オープン!アトリエ



創作だけでなくアートを通して誰かとの会話も楽しむ「オープン!アトリエ」の様子

ねらい「まちなかアート化」の一環として、障害のあるなしにかかわらず、誰でも利用できるアトリエとし、アートを通しての交流をねらう。外出の機会から創作活動の場

内容 アトリエは毎月第3土曜日の10時から16時までオープンする。障害のあるなしにかかわらず、誰でもアトリエに来て創作活動したり、自分の表現について話したり、誰かと共有したり、相談ができる場づくりを行った。アトリエには、基本的な画材だけでなく、将棋、トランプやボードゲーム等のおもちゃ、ギターや木琴等の楽器、

へ、さらにワークショップやセミナー等の学びの場へときっかけづくりから創作支援、相談支援、アートに関する情報発信の場へと展開していく。

絵本やアートに関する本、障害福祉や全国の支援センターの報告書やチラシ等を自由に使えるよう設置。ふだん就労継続支援事業所を利用されている方、支援学校卒業した後も創作したい方、どこにも所属していない方の「外出の機会」「創作活動の場」「相談や交流の場」となっている。

| 今年度の課題と目標

昨年に引き続き、障害者芸術文化活動の裾野の拡大と情報収集、支援センターの認知度向上という課題に取り組む。「相談窓口としての認知度を上げることで、障害のある人が安心して芸術文化活動に取り組めるようにする」「障害のある人や支援者が芸術文化活動に向かう意欲を

さらに感じていただく」「ふだん障害者芸術文化に関わりのない宮崎県民に、その魅力を知ってもらい、それが共生につながっていく」「障害のある人の活動に目標ができ、楽しみが増える」ことを目標とした。

| 今年度の成果と展望

相談から生まれ今年度スタートした「オープン!アトリエ」は、障害の有無を超えて延べ40名が参加し、外出の機会、創作の支援、交流の場として機能し始め、アートを通じた学びの場に展開しつつある。さらに、昨年度より始めた事業所訪問調査がきっかけとなり、「“こころ”のふれあうフェスタ2023作品展」では、新しい事業所から5団体の作品

出展、初めての個人や団体からの応募が4つあるなど、認知度の向上と裾野の拡大を実感している。また、4年にわたって「障がい者の作品鑑賞について考える会」委員とつくり上げた「見えない人／見えにくい人と一緒に楽しむ対話型アート鑑賞ガイド」が完成した。今後も対話型鑑賞会の継続的な実施と普及に取り組みたい。



左/作品出展アーティストがメインの「突撃!みんなでギャラリートーク!!」の様子



右/対話型アート鑑賞ガイドを使用した「はじめまして、いっしょに鑑賞しませんか?」の様子

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [アートなかま、4/1～3/31] [アーティスト派遣ワークショップ(アウトリーチ)7/4] [「はじめまして、いっしょに鑑賞しませんか?」セミナー、11/17・1/11] [アート活動のすすめ@宮崎、12/2] ●関係者のネットワークづくり [「視覚障がいと鑑賞について」の実行委員会会議、9/26・3/8] ●参加する機会の確保 [アートトレーラーが連れて来たぞっ!! まちなかアート化@あいあい、4/1～3/31(合計6回) @西都市民会館「からだと心が動き出す!多感覚セッションワークショップ」8/26 @みやはく「古民家の森で展覧会」3/9～3/16] [「こころ」のふれあうフェスタ2023作品展、11/15～11/19] [突撃!みんなでギャラリートーク!、11/18・11/19] [古民家の森でワークショップ、3/9] ●情報収集・発信

[ちょっとおじゃましますっ!事業所訪問2023、4/26～2/2(合計22回)] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [またまた、おじゃましますっ。宮崎県障がい者芸術文化支援センターです!2023] ●その他 [オープン!アトリエ、4/22～2/17(合計9回)]

支援センター運営団体

社会福祉法人 ゆくり(アートステーションどんこや)

身体に障がいのある人々が集まり、1994(平成6)年に「障害者芸術村」という名称でスタートした。多様な福祉サービスを、利用者の意向を尊重して総合的に提供できるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的に活動している。

鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター (かごしまアールブリュットセンター)



〒890-0014 鹿児島市草牟田1丁目8-7 地域生活支援拠点ゆうかり内
TEL: 080-8379-7852 FAX: 099-813-7175
E-mail: kac@yuukari-s.jp URL: https://yuukari-s.jp/kac/

Pick Up! KAC アートスタジオ



KACアートスタジオ ～カメラアート体験

ねらい 障害のある方の芸術文化作品の発表の場を設け、県民との作品鑑賞やアートスタジオ等による交流を通して、障害のある方の芸術文化活動を推進するとともに、

県民の理解促進や共生社会の実現を図ることを目的とする。

内容 年度内の5月から2月まで毎月1回程度、アートスタジオの開催を継続した。毎月、多彩なテーマを決めて障害のある方や支援関係者はもちろん、一般の方々も参加する場を設けることで、芸術文化活動を通して県民が交流する機会を創出した。

毎月のアートスタジオでは作家や支援関係者とのつながりが生まれる。そのつながりを生かして、センター主催

の作品展やセンターが情報を提供する作品を出展するなど、アートスタジオの開催が発表の機会につながるネットワークづくりの推進にもなっている。障害のある作家にとっては「発表の機会」「情報の発信」「共有の機会」となり、支援関係者にとっては、障害福祉に関連する支援関係者だけにとどまらない広いつながりができた。

今年度の課題と目標

今年度実施した「相談支援」「人材育成」「関係者のネットワークづくり」等をさらに充実していく必要がある。アートナー（障害者芸術文化と一緒に広め、活動と一緒にサポートしてくれるアート仲間）の募集を行い、アートスタジオ等を通してセンターの取り組みへの協力をもらいながら、芸術

文化活動を支援する人材の育成等とネットワークづくりを推進する。展覧会等において、視覚だけではなく聴覚や触覚等を含めた五感で楽しめる展示の工夫を取り入れる。次年度の受託先への引継ぎおよびフォローアップを行っていく。

今年度の成果と展望

窓口設置により、多くの相談に対応することができた。展覧会等を開催、作品を展示することで障害の有無にかかわらず、多くの来場者に障害者芸術にふれていただいた。「ネットワークづくり会」を開催することで、芸術文化活動に力を入れている法人等の情報を共有し、サポートの在り方等について情報交換することができた。作品展等における展示の工夫（視聴ブースでの音声や動画データを含めた作品の展示等）を取り入れることができた（触れ

て楽しめるブース等をもっと増やしたい）。

主に支援者向けのセミナーの開催により「障害のある方々の創作活動にまつわる権利を守る」芸術文化活動を支援する人材の育成等とネットワークづくりを推進できたほか、「アートサポーター養成講座」の開催では、県内の先進的な取り組みの共有および当センターの活動報告をすることで、芸術文化活動を支援する人材の育成等とネットワークづくりを推進できた。



「ハートピアアートマルシェ 2023」会場内の様子 (KAC スタッフ)



支援者向けセミナー会場内の様子 (KAC スタッフ)

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [支援者向けのセミナー「障害のある方々の創作活動にまつわる権利を守る」10/21] ●関係者のネットワークづくり [ネットワークづくり会①、8/31] [KACアートスタジオ Boon Boon Festa2023リハーサル見学訪問、9/23] [そなた de マルシェ 作品展、10/15] [アートサポーター養成講座「表現活動のあれこれ@鹿児島」、1/20] [ネットワークづくり会②、3/27] ●参加する機会の確保 [KACアートスタジオ ORIGAMI (折り紙)体験、5/27] [KACアートスタジオ デジタルドゥ体験、6/10] [KACアートスタジオ 始良 作品展、7/16] [KACアートスタジオ カメラアート体験①、8/26] [KACアートスタジオ カメラアート体験②、10/28] [ハートピアアートマルシェ 2023、12/1～12/3] [KACアートスタジオ アート書道体験、12/3] [つばめロード市民ギャラリー作品展、12/9～

12/23] [KACアートスタジオ ドラムサークル体験、1/27] [KACアートスタジオ 木育ワークショップ、2/17] [遊美塾・鹿児島さんの写真展とのコラボ KACの紹介及び一部作品展示、3/19～3/24] ●情報収集・発信 [バリアフリー演劇鑑賞会、7/16]

支援センター運営団体 社会福祉法人ゆうかり

知的障害のある方々の施設「ゆうかり学園」において、20年ほど前から絵画クラブを創設し、定期的に利用者の創作活動を支援している。また、フランス・パリで開催された「アール・ブリュット・ジャポネ展」を始め、オランダ、スイスの企画展にも参加している。2022(令和4)年より、鹿児島県障害者芸術文化活動支援センターの運営を担っている。



連携事務局の取り組み

連携事務局

E-mail: welfare@arts-npo.org URL: https://arts.mhlw.go.jp/



支援センター、広域センターを横断的にサポートする事務局として、連携事務局が設置されている。2023年(令和5)

年度は、特定非営利活動法人アートNPOリンク(美術分野)、株式会社precog(舞台芸術分野)が協働で運営した。

今年度の課題と目標

2023(令和5)年度は、44の支援センターと全国7ブロックに広域センターが設置され、支援の枠組みの整備は広がっている。しかし、令和3年度障害者総合福祉推進事業「全国の障害者による文化芸術活動の現状分析に関する研究」によると、障害者文化芸術活動の機会を提供する事業の頻度や情報量等に地域差があり、十分な支援や情報が届かないことなどの課題が残されている。また2021(令和3)年改正の「障害者差別解消法」2022(令和4)年の「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」においても、それぞれ文化芸術分野の取り組

みや展開の多様化が求められている。こうした共生社会に向けた諸政策を整理したものが、新たに策定された「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画(第2期)」であり、その理念と具体的な取り組みに関する広がりをつくる機運の醸成が求められている。

以上を踏まえ、今年度は「支援センター間のコミュニケーションの活性化、連携の強化」「支援体制の強化」「基本計画における連携体制の模索」「支援センター、広域センターによる評価」を目標に掲げ活動した。

今年度の成果と展望

「支援センター間のコミュニケーションの活性化、連携の強化」「支援体制の強化」においては、情報交換ミーティング、広域センターミーティング、全国連絡会議の開催を通じて活発な情報交換が行われ、内容も地域に根ざした取り組みや地道な活動など各センターが取り入れやすいよう心がけた。「基本計画における連携体制の模索」においては、関係団体へ本事業に関する情報提供や広報協力等を行った。「支援センター、広域センターによる評価」においてはアンケートを実施し「活動する上で必要な知識やノウハウを得ることができた」等の項目で60%を超える満足度を得られた。

支援センターの増加に伴い運営形態も多様となり、新たな課題が生まれている。それぞれの独自性を生かしながら、均一化した情報やノウハウの提供に留まらない連携を模索する必要がある。

また、第2期計画を始めとした障害者芸術に関する施策全般に関して、文化施設、芸術文化団体等への浸透は道半ばであり、各地の支援センターとの連携が強固に結ばれている地域は限られている。今後は障害福祉、芸術文化の両分野の知見を持った人材の育成を目標として取り組みを進めていきたい。

事業概要	
ア 広域センター等に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> ●広域センターミーティング(年3回) ●情報交換ミーティング(年4回)
イ 全国連絡会議の実施	<ul style="list-style-type: none"> ●全国連絡会議(年3回)
ウ 全国の情報収集・発信	<ul style="list-style-type: none"> ●パブリシティ・メディアタイアップによる情報発信 ●全国の取り組みを紹介する企画取材と記事掲載 ●デジタル広告 事業紹介パンフレットの制作 ●SNS(Facebook)の運用、情報提供窓口の開設
エ 全国のネットワーク体制の構築、成果のとりまとめ、公表等	<ul style="list-style-type: none"> ●支援センター・広域センターへの取材、会議参加等による情報収集 ●ウェブサイト改修、報告書作成
オ 障害者団体、芸術団体等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●本事業ウェブサイトの取材を通じた障害者団体・芸術団体とのネットワーキング ●情報収集活動を通じた関係事業や団体との連携

1. 広域センター等に対する支援

広域センターミーティング

広域センターを対象にしたオンラインミーティングを開催した。各ブロックでの近況報告や、特徴的な活動の紹介、情報不足やノウハウ不足の補完、事業の連携や協働の促進等による双方向・多方向への全国ネットワークの構築を目指した。

【参加者】
広域センター、連携事務局、厚生労働省

【開催形態】
オンライン会議ツールを使用

【第1回】広域センターミーティング

日時——2023年5月9日(火) 15時30分～17時30分
参加者——22人
内容——昨年度の振り返り、今年度の事業計画の共有

【第2回】広域センターミーティング

日時——2023年11月6日(月) 13時30分～15時、
11月8日(水) 13時30分～15時
参加者——20人
内容——令和5年度障害者総合福祉推進事業「障害者による文化芸術活動の幅広い活動を支援するための現状調査と研究」に関連するかたちで、第2期計画の期間中に取り組むべき活動について議論した。

【第3回】広域センターミーティング

日時——2024年2月13日(火) 10～12時
参加者——22人
内容——今年度の取り組み報告、第3回全国連絡会議に向けての調整

情報交換ミーティング

支援センター、広域センター、事業実施自治体を対象に、地域を越えた情報交換の場として開催した。令和4年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業「障害者芸術文化活動支援センターの効果的な運営に関する研究」の成果物である「障害者芸術文化活動支援センター運営サポートブック」を用いて、センター運営に関する情報交換を行った。

【参加者】
広域センター、支援センター、都道府県担当課、連携事務局、厚生労働省

【開催形態】
全4回、オンライン会議ツールを使用

【第1回】関係者のネットワークづくり

日時——2023年8月30日(水) 10時30分～12時
参加者——45人

【第2回】相談支援

日時——2023年9月20日(水) 10時30分～12時
参加者——37人

【第3回】支援人材の育成

日時——2023年11月29日(水) 10時30分～12時
参加者——35人

【第4回】参加する機会の確保

日時——2024年1月31日(水) 10時30分～12時
参加者——33人



情報交換ミーティングの様子

【レポート】

今年度の情報交換ミーティングでは、NPO法人ドネルモの櫻井香那氏の進行のもと、サポートブックの第3章『第3章 支援センター業務のはじめ方・広げ方』を全4回に分けて読み解いていった。一例を挙げれば、第3回「人材育成」では、櫻井氏が最初にサポートブックを元に解説し、その後、グループワークを行った。あるグループでは「研修やイベント等を行う時にどのように日程を設定しているか」という質問があった。人材育成を目的としたイベントには、福祉施設の職員に参加してほしいので平日に設定したいが、それだと一般の人は参加しにくいので悩ましいという。他の参加者からは「福祉施設の職員には、一般公開の前に日程をかなり前もって伝えるようにしている」「来てほしい人に事前にスケジュールを聞いておく」といった意見が出され、各センターの工夫を分かち合う時間となっていた。サポートブックに関するテーマ以外にも、事前に他の支援センターの方々に相談したいことを参加者から募り話し合う機会が設けられた。全4回の開催の中で、「相談への対応と共有のあり方」「広いエリアに対応する工夫(南北に長い県など)」「ボランティアの募集方法・謝礼について」など、現場にいちばん近い支援センターならではの課題が寄せられた。一つの課題にさまざまな意見が交わされたことで、全体のエンパワーメントにつながった。また、2024(令和6)年1月に起きた能登半島地震では、東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センターの坂野氏ほか、新潟県、福井県の支援センターの方々が現地の状況を伝え、本事業のネットワークでなにかできることはないか探った。

2. 全国連絡会議の実施

支援センター、広域センター、都道府県担当者が集まり、事業実施に関わる連絡事項や留意事項を伝達、確認した。また、事業の実施に必要な基礎知識や専門的知見を全体で共有する講義・研修プログラムを企画、開催した。

【参加者】 支援センター、広域センター、都道府県担当課、連携事務局、厚生労働省

【開催形態】 オンライン会議ツールおよび対面開催。
当日の欠席者に対しては記録動画を公開

第1回

日時：2023年6月15日（木）13時15分～15時
開催形態：オンライン（zoom） 当日参加者：95人

【議題】

- ①「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画（第2期）」について（厚生労働省）
- ②令和4年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業「障害者芸術文化活動支援センターの効果的な運営に関する研究」障害者芸術文化活動支援センター運営サポートブックについて（NPO法人ドネルモ）

【レポート】

第1回全国連絡会議では、厚生労働省 障害者文化芸術計画推進官の森真理子氏より「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画（第2期）」の全体説明があり、第1期中に行った調査結果を踏まえ、新たに「第2期の基本計画期間において目指す姿」として3つの目標が追加されたことなどが伝えられた。地方公共団体の推進計画の策定については、滋賀県、岐阜県、岩手県の3県が紹介され、これから策定を進める県については、地域の状況・特性に応じた形で整理してほしいとのことだった。次にNPO法人ドネルモから「障害者芸術文化活動支援センター運営サポートブック」の紹介があった。昨年度、全国連絡会議や情報交換ミーティングで広く意見を集めたところ、支援センターの運営方針や業務手順を一律に定めるのではなく、運営の際の参考や手がかりになるような冊子になればこのタイトルになったそうだ。グループごとの意見交換では「相談対応における考え方や大事などを知れてよかった」「コンパクトにデザインされているが内容が盛りだくさんなので読む時間をしっかり設けたい」といったコメントが寄せられた。

第2回

日時：2023年11月1日（水）13時30分～16時30分
開催形態：対面（シンポジウムのみ後日記録動画を公開）
会場：金沢市文化ホール 当日参加者：69人
視聴回数：75回（本事業関係者以外の視聴回数含む）

シンポジウム

つながりから考える障害者による芸術文化活動～石川県内の事例より（一般公開）

登壇者：菊義典（文化・芸術活動支援センターかけるセンター長）
木戸口 善夫（株式会社箔一）
宝栄美希（ダンサー／振付家）
進行：大澤寅雄（連携事務局／NPO法人アートNPOリンク）



第2回全国連絡会議 シンポジウムの様子

【レポート】

第2回全国連絡会議は、「いしかわ百万石文化祭2023（第38回国民文化祭及び第23回全国障害者芸術・文化祭）」に合わせ開催され、シンポジウムでは石川県内の障害者による芸術文化活動の取り組みが紹介された。

菊氏は、新しいつながりが生まれた事例として金沢市の補助金を活用した「まちなか美術館」、複数のつながりが交差した事例として百万石フォントとの協働プロジェクトを挙げた。さらに、元からのつながりを生かした事例として、株式会社箔一の木戸口氏による金継ぎ体験ワークショップの説明があった。菊氏と木戸口氏との出会いは18年前にさかのぼり「菊さんが、僕のことを覚えていなかったらなにも始まっていなかった」と語る。ワークショップで障害者との制作を通して、気持ちをストレートに返してくれるところや表現方法に驚かされるそうだ。

宝栄氏は2018（平成30）年から「GAP FREE パフォーマンス」を始め、ステージ上では全員が対等となり、助け合いながら舞台をつくらせているという。宝栄氏は「指1本動かすこともダンス」と参加者に伝えることで、自由にダンスを楽しめる場を展開している。

菊さんは活動のコツとして「挑戦・継続・熱量」の3つを取り上げた。どの事例も「やってみよう」という熱量があるからこそ多くの人が共感し活動が広がっていると感じた。

分科会

【分科会1】 関係者のネットワークづくりから見えてくるもの

登壇者：坂野健一郎
佐藤葉月（東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター／社会福祉法人みんなていぎる）
藤井岳（相談支援事業所もくれん）

【レポート】

分科会1では、東海・北陸ブロック内での相談支援事業所との連携の事例から、多様な主体との関わり方の深め方や広がりについて学んだ。

東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センターのネットワークは当初、坂野氏と個人的につながりのあった数名から始まった。コロナ禍による予期せぬ展開もあったが、関係者の独自の活動により、ネットワークがいつの間にか広がっていった。

藤井氏は2019年に開催された公募展に作家を紹介したことからつながり、今年度から相談支援アドバイザーとなった。作家が不安定な時期にどういった声かけをするかといかなど、当事者の状況を踏まえアドバイスされているそうだ。藤井氏のように、同じネットワークにいても関係性に変化が生まれていることも分かった。佐藤氏は2018年に作家として活動したいと新潟県障害者芸術文化活動支援センター（NASC）に相談したことからさまざまな事業に携わるようになり、2022（令和4）年からは広域センターの職員となった。佐藤氏は「NASCの人たちと出会って人生がジャンプアップした」と話す。

坂野氏は「ネットワークは意図していないところで何年後に花開く。予測不能なネットワークづくりを楽しんでほしい」と参加者にエールを送った。

【分科会2】 事業評価、みんなでやればこわくない!?

登壇者：柴崎由美子（南東北・北関東ブロック広域センター／NPO法人エイブル・アート・ジャパン）
長津結一郎（九州大学大学院芸術工学研究院准教授）

【レポート】

分科会2では「障害者芸術文化活動普及支援事業評価ガイドーより良い協働と事業成果を高めるためのヒント集ー」（2020年、日本ファンドレイジング協会）等を手がかりに、事業評価のコツを学んだ。長津氏からは活動を提供する側と受ける側が共に携わる「参加型評価」について解説があり、柴崎氏からは事業評価ガイドを活用した参加型評価の実践事例が紹介された。

障害者芸術活動支援センター@宮城（愛称:SOUP）では、事業評価ガイドを活用して独自に事業評価を行い、1年ごとに活動を工夫していったそうだ。また、南東北・北関東ブロックでは支援センター

の職員と行政職員が研修の一貫として、共に参加型評価に取り組んでいるとのことだった。

参加者からは、「評価」についての考え方が変わったという意見があった一方で、「行政が支援センターと同じ基準で評価をしていないと感じる時がある」という課題も上がった。柴崎氏はブロック研修で参加型評価を続けたことで、行政職員と支援センター職員が同じ目線で話せるようになってきたと感じているそうだ。長津氏は、事業評価ガイドを対話のツールとして活用し、広域センター等が伴走者として関わることで関係性の改善につなげてはどうかと提案した。

【分科会3】 日常の振る舞いから生まれる 舞台芸術体験ワークショップ

登壇者：黒田百合（劇・あそび・表現活動「Ten seeds」代表）
兵藤茉衣（連携事務局／株式会社precog）



分科会3の様子

【レポート】

分科会3はワークショップ形式で行われた。美術分野と比べて取り組みが少ない舞台芸術分野の事例として、障害福祉施設や教育機関等で演劇ワークショップを行う黒田氏に学びながら、舞台芸術や身体表現への理解を深めた。

前半は、言葉でのコミュニケーションが苦手な方も参加しやすいジェスチャーゲームや、トイレをノックされたらノックを返すというような日常の振る舞いを取り入れたワークショップを実施した。黒田氏より障害のある人たちと取り組む際のアドバイスを受けながら、目線や体を使ったコミュニケーションの方法を体験した。

後半は、ワークショップで体験したことを基に、身体表現をどのようにふだんの活動に活かせるかを話し合うグループディスカッションを行った。「体でのコミュニケーションによって、日常生活の中では気づけない相手の一面を引き出せるかもしれないと感じた」「障害のある方のためだけでなく、まわりも一緒に楽しめるかも大切だと感じた」「障害の有無に関係なく、関係をほぐすことにつながる」などの意見があった。

ワークショップ後は「最初は身構えていたが、みんなで相談しながらやることでハードルが下がり楽しめた」「やってみないとわからない

い部分もあるので体験できてよかった」といった意見があった。舞台芸術分野は発表だけではなく、ワークショップといったかたちでも体を使ったコミュニケーションを通して参加者同士の信頼関係を築く効果があることを実感した。

第3回

日時：2024年3月19日（火）15時～17時

開催形態：オンライン（zoom、YouTubeライブ）

当日参加者：44人 視聴回数：30回

【議題】

① 厚生労働省より挨拶

② 令和5年度障害者芸術文化活動普及支援事業に関する報告

関係者のネットワークづくり

【東海・北陸ブロック】

岐阜県障がい者芸術文化支援センター〔TASCぎふ〕(岐阜県)

東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター

【近畿ブロック】

奈良県障害者芸術文化活動支援センター(奈良県)

障害とアートの相談室

【中国・四国ブロック】

薬工ミュージアム 分室(高知県)

中国・四国Artbrut Support Center passerelle(バスレル)

芸術文化活動を支援する人材の育成等

【九州ブロック】

おおいた障がい者芸術文化支援センター(大分県)

九州障害者アートサポートセンター

【南関東・甲信ブロック】

千葉アール・ブリュットセンター うみのもり(千葉県)

南関東・甲信障害者アートサポートセンター

【北海道・北東北ブロック】

岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると(岩手県)

アールブリュット推進センター Gently

【南東北・北関東ブロック】

はじまりの美術館(福島県)

南東北・北関東ブロック広域センター

【レポート】

第3回全国連絡会議は、各ブロックから広域センター、支援センターの担当者が登壇した。

前半の「関係者のネットワークづくり」では、岐阜県障害者芸術文化支援センター〔TASCぎふ〕の「まじわる新聞・まじわるラジオ」から高校生と障害者のコラボレーションプログラム、今年度立ち上がったばかりの奈良県障害者芸術文化活動支援センターの試み、高知県の薬工ミュージアム 分室が手がける、障害の有無を問わず、誰でもアート作品を自由に発表・販売・交流ができる「Art BAZAR」が取り上げられた。意見交換では「行政の文化と福祉の縦割りをどう超えようとしているか?」という質問に対し、「支援センター自体が2つの出会いの場になっている。美術館やホール等の文化施設の方と知り合い事業の必要性を感じてもらうようにしている」といった意見が出た。

後半の「芸術文化活動を支援する人材の育成等」では、おおいた障がい者芸術文化支援センターのアウトリーチ事業、千葉アール・ブリュットセンター うみのもりの福祉と教育を横断した人材育成講座、岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあるとの福祉施設や事業所の管理者を対象にした研修会、福島県はじまりの美術館の「博物館・美術館アクセシビリティ向上に向けた研修会」について発表があった。大分のアウトリーチ事業では、アンケートからアート活動を通して日常の支援に対する気づきが得られたという感想が多かったようだ。

ほかにも、「北海道・北東北ブロック」では視察研修を実施したこと、「南東北・北関東ブロック」ではセンター同士がお互いの得意・不得意を補い合う「出稽古」を行ったことなどが紹介され、各地で展開されてきたさまざまな事業を知ることができた。

3. 全国の情報収集・発信

パブリシティ／メディアタイアップ

第2回全国連絡会議のシンポジウムを中心とした取材誘致や集客を目的にプレスリリースを制作し配信を行った。また、シンポジウム登壇者への周知協力を仰いだこ

プレスリリース配信先

●(株) precogメディアリスト(521件)

●PR Times(300媒体〔10,631媒体の中から最適化〕記者・編集者26,000名以上)

取材放送媒体

●金沢テレビ、石川テレビ(北陸中日新聞ニュース)

●北陸朝日放送

プレスリリース掲載媒体

●Rakuten Infoseek News

全国の取り組みを紹介する企画取材と記事掲載

支援センター、広域センター、都道府県職員、センターと協働して事業を実施する連携パートナー等取材し、本事業の多様な取り組みを取材した記事を本事業ウェブサイト「取組コラム」に掲載した。



「取組コラム」ページ

【広島県】広島県アートサポートセンター、広島大学、広島県、広島県立美術館が理想のタッグ

取材先：広島県アートサポートセンター(川口隆司、保田香織)、広島県障害者支援課(川尻博満)広島大学人間社会科学研究科(池田吏志)、広島県立美術館(森万由子)

【鳥取県】鳥取県の重要施策「共生社会」実現へ文化芸術活動を入りに

取材先：あいサポート・アートセンター(事務局長・妹尾祐司)、鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局障がい福祉課社会参加推進室(小泉陽一、西村あかね)

【埼玉県】「基幹型」「特色型」2つの支援センターの役割とは—官民連携でネットワークを拡充する埼玉県

とで、地元メディア3社による取材が実現した。全国規模のウェブメディア「ソトコトオンライン」とのメディアタイアップも実施した。

「ソトコトオンライン」とのメディアタイアップ

【記事タイトル】

誰もが共生できる社会を目指す。障害者の芸術文化活動と、その支援のあり方とは

【閲覧数 (Page Views)】

58,067 クリック数：37,496 (計測期間24年2月～3月)

広告配信時(2/1～2/14)のインプレッション数：471,256

取材先：基幹型支援センター「アートセンター集」(宮本恵美、小嶋芳維)、特色型支援センター「ART(s)さいほく」(石平裕一)、埼玉県 福祉部 障害者福祉推進課 社会参加推進・芸術文化担当(小澤圭佑、宮山大輔)

【九州ブロック】障害のある人と文化施設のスタッフが仲間のよう楽しくバリアを確認していく「現場体験ワークショップ」(九州障害者アートサポートセンター)

取材先：九州障害者アートサポートセンター(センター長・樋口龍二、橋本理沙)

【東京都】文化施設と連携し、地域の未来につながる居場所をつくる(東京都江東区)

取材先：東京アートサポートセンター Rights(ライツ)(村上あすか)、江東区文化コミュニティ財団 江東公会堂(ティアラこうとう)(佐川敏之、八十島なつみ)

【高知県】展示も購入も早い者勝ち! 高知・薬工アンパンアートバザール

取材先：薬工ミュージアム(松本志帆子)

取材協力：NPO法人ドネルモ

【青森県】地域で生きていくことの豊かさを「現場へのコンサル」と「作品保管展示サービス」から支える(青森アール・ブリュットサポートセンター)

取材先：青森アール・ブリュットサポートセンター(AASC)(大橋一之)

【山形県】芸術祭「山形ビエンナーレ」に支援センターが参画。市民とダンスプログラムを展開

取材先：やまがたアートサポートセンターら・ら・ら(武田和恵)、山形ビエンナーレ共同キュレーター(アイハラケンジ)

【長野県ほか】「あるく、たたく、しゃべるから広がる身体表現」動画公開

動画提供元：一般社団法人すまいる、NPO法人リベルテ、NPO法人スウィング、社会福祉法人育護会、医療法人薪水、NPO法人木々の会、社会福祉法人わたぼうしの会 たんぽぽの家 アートセンター HANA、社会福祉法人訪問の家

デジタル広告

本事業ウェブサイトに掲載した障害者による舞台芸術活動に関する動画を10秒尺の広告動画と静止画広告に再編集し、障害者の芸術文化活動の認知訴求を目的とした広告配信を行った。広告表示回数は想定を大幅に上回ったことから、今後も広告運用を継続しながら有効かつ効率的な発信方法を把握していきたい。

デジタル広告運用会社

株式会社 weroll

運用期間：2月1日～2月29日

表示回数：581,517件（リーチ数：323,506件）

クリック数：10,595件

コンバージョン数：793件

事業紹介パンフレットの制作

本事業を紹介するパンフレットを、前年度に引き続き音声読み上げコード(Uni-Voice機能)を付与し制作。今年度は新たに視覚障害当事者に読み上げ、内容のモニタリングも行った。



部数：4,500部

送付先：支援センター・

広域センター・行政等

令和5年度事業紹介パンフレット

SNS (facebook) の運用、情報提供窓口の開設

支援センター、広域センター、連携事務局のタイムリーな活動情報を収集・発信し、本事業の認知向上につなげた。また、本事業ウェブサイトに関係団体以外からの障害者の芸術文化活動に関する情報提供窓口を開設し、提供情報の精査と提供者とのやり取りを経てSNSにて発信した。

投稿数：335件（平均：28件/月）

フォロワー数：1,459件（前年度末時点より18%増）

リーチ数：247,745件

（23年4月～24年3月・前年度同期間より9.8%増）

リアクション数：6571（23年4月～24年3月）

情報提供件数：40件（23年6月～24年3月、団体数：22団体）

4. 全国のネットワーク体制の構築、成果のとりまとめ、公表等

支援センター・広域センターへの取材、会議参加等による情報収集

2021（令和3）年度より本事業ウェブサイト「取組コラム」掲載記事制作のための取材を行ってきたが、2023（令和5）年度は北関東・甲信ブロックおよび九州ブロックの広域センター職員へのインタビューを行い、全7ブロックの

取材を完遂することができた。

第2回全国連絡会議、広域センター主催によるブロック会議への参加、「取組コラム」の取材を通じて、支援センター・広域センターのニーズ把握に努めた。

ウェブサイト改修

今年度の事業実施団体の情報や、前年度に制作された報告書等の成果物を速やかに収集し公開。また、支援センター・広域センターのウェブサイトに投稿された内容が、本事業ウェブサイト「全国の支援センターからのお知らせ」として自動で引用・表示されるRSS機能の再設定を行い、より即時的な情報発信が行えるよう整備した。

さらに「障害者芸術文化活動支援センター運営サポートブック 第4章よくあるお悩みQ&A」を元に、「よくあるお悩みQ&A」ページを開設。障害者が芸術活動に関わる上で生じる困りごと・悩みごとをわかりやすくQ&A形式で掲載した。

5. 障害者団体、芸術団体等との連携

本事業ウェブサイト「取組コラム」記事の制作を通じて障害福祉施設、公共文化施設、教育機関など、関係団体とのネットワークを広げた。また、障害者の芸術文化活動に関する情報提供窓口の開設に伴い、障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワークの加盟団体、文化庁「障害者等による文化芸術活動推進事業」委託団

体に対し情報提供の協力依頼を行い、情報収集・発信における連携を行った。

また、厚生労働省障害者総合福祉推進事業の実施団体であるNPO法人ドネルモと連携し、情報交換ミーティングへの登壇など効果的な運用を行った。

連携事務局運営団体について

特定非営利活動法人

アートNPOリンク（美術分野）

〒220-0004

神奈川県横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル地下1階

TEL：045-325-0414 FAX：045-325-0414

E-mail：info@arts-npo.org

URL：https://arts-npo.org/



株式会社 precog

（舞台芸術分野）

〒162-0801

東京都新宿区山吹町358番地 小磯大竹ビル202

TEL：03-3528-9713

E-mail：info@precog-jp.net

URL：https://precog-jp.net/



アートNPOが多様な価値を創造し、社会を動かす力を持つ社会的な存在であるとの認識を下に、この力を広く社会にアピールするための中間支援組織。市民自治の理念に基づき、アートと社会の橋渡しを通して、幅広く領域を越えたNPOと連携し、豊かな市民社会を創出する役割を担う。社会に向けて提言、他のセクターとのパートナーシップ、情報収集・発信・研究調査、地域密着型のミニフォーラム開催等を行っている。

アートプロジェクトの企画・運営を行う制作会社。活動テーマを“横断と翻訳”とし、近年は“アクセシビリティ”（アクセスのしやすさ）と“インクルージョン”（包摂）にも力を入れ、プロジェクトの同時代性や新たな事業展開を追求し続ける。アーティストやクリエイター、そしてさまざまな分野の専門家と協働し、芸術体験と観客を鑑賞でつなぐだけでなく、国際交流・福祉・地域活性・教育普及など多角的なアプローチによって「新しい価値」を生み出し、“表現”の未来をつくる。

数値で見る実績

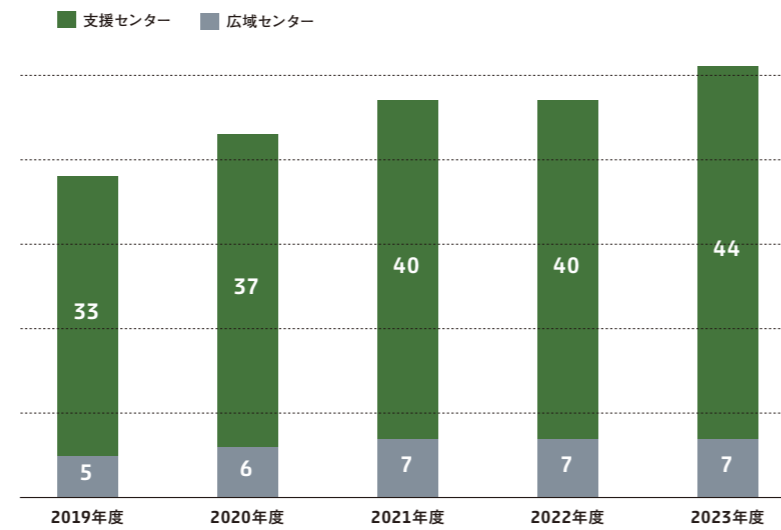
本事業の活動について、施策の推移や傾向を確認し、年度以降の事業内容の参考とするため、連携事務局は支援センター・広域センターに対して事業終了時に調査を行い、数値データを集約した（対象期間：2023年4月1日

以降の各センターの事業開始日から2024年3月31日まで、対象：51センター）。過年度分の数値データもあわせて掲出した。事業成果は数値の増減のみで判断することができない点に十分留意した上で、以下のとおり概観する。

センター数の推移

今年度は、支援センター 44ヶ所、広域センター 7ヶ所の合計51ヶ所がセンターを運営した〔図表1〕。昨年度から新たに加わったのは群馬県、茨城県、奈良県、岡山県の支援センターである。なお、埼玉県には複数の支援センターが設置されている。

〔図表1〕センター数の推移
（単位：ヶ所、同一都道府県内に複数の支援センターが設置されている場合がある）



今年度注力した事業内容 （支援センターのみ回答）

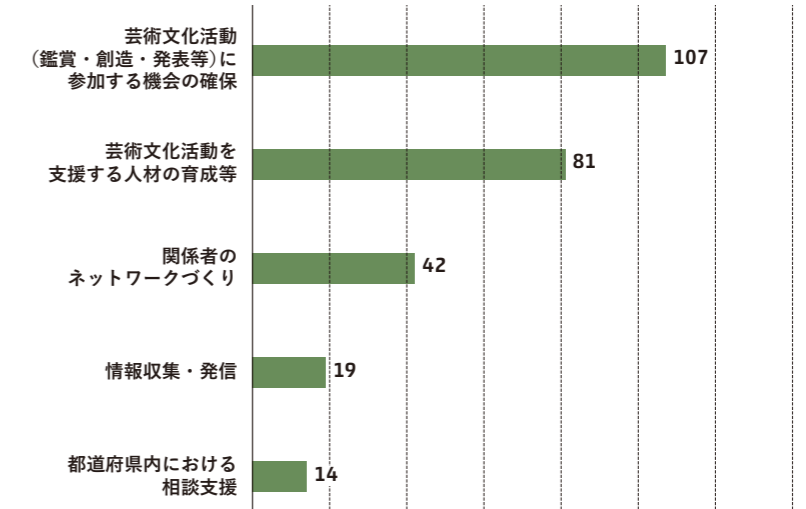
支援センターが、今年度もっとも注力した事業は「芸術文化活動（鑑賞・創造・発表等）に参加する機会の確保」で、1位としたのは26支援センターだった〔図表2〕。この設問では施策の推移・傾向をみるために3位までを選択式でたずねており、順位に応じて重みづけした得点で確認できる。

〔図表2〕今年度注力した事業内容
（得点は、1位を3ポイント、2位を2ポイント、3位を1ポイントとして合計）

	1位	2位	3位	得点
都道府県内における相談支援	2	0	8	14
芸術文化活動を支援する人材の育成等	13	17	8	81
関係者のネットワークづくり	2	12	12	42
芸術文化活動（鑑賞・創造・発表等）に参加する機会の確保	26	12	5	107
情報収集・発信	1	3	10	19
事業評価及び成果報告のとりまとめ	0	0	0	0
その他・無回答	0	0	1	1

その結果、支援センターは「芸術文化活動（鑑賞・創造・発表等）に参加する機会の確保」「芸術文化活動を支援する人材の育成等」「関係者のネットワークづくり」の順で、事業に注力したことが分かる〔図表3〕。

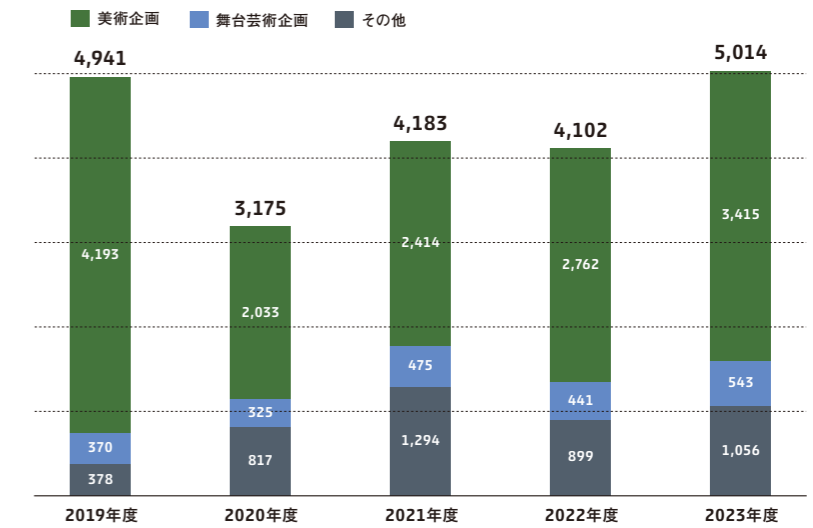
〔図表3〕今年度注力した事業内容（単位：ポイント）



相談支援

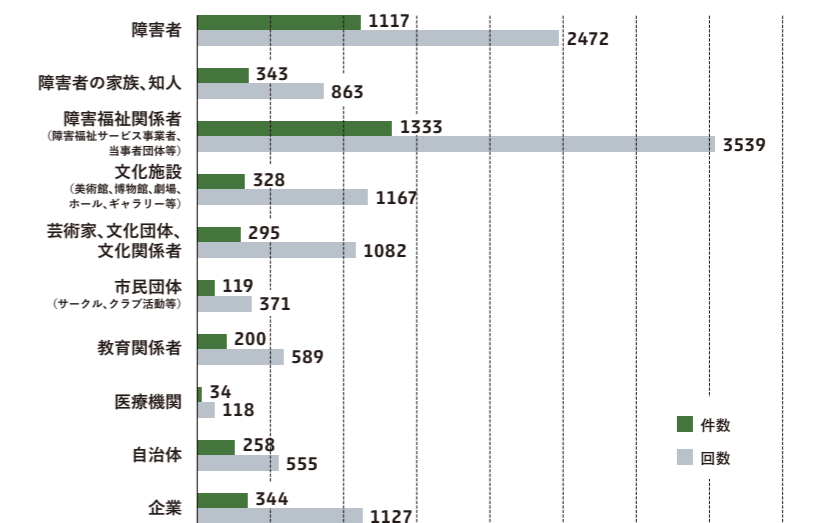
障害のある当事者や支援者、家族等から寄せられた芸術文化活動に関する今年度の相談件数は5,014件で、過去5年間では最多となった〔図表4〕。

〔図表4〕相談支援件数の推移（単位：件、2019年度は回数による報告を含む）



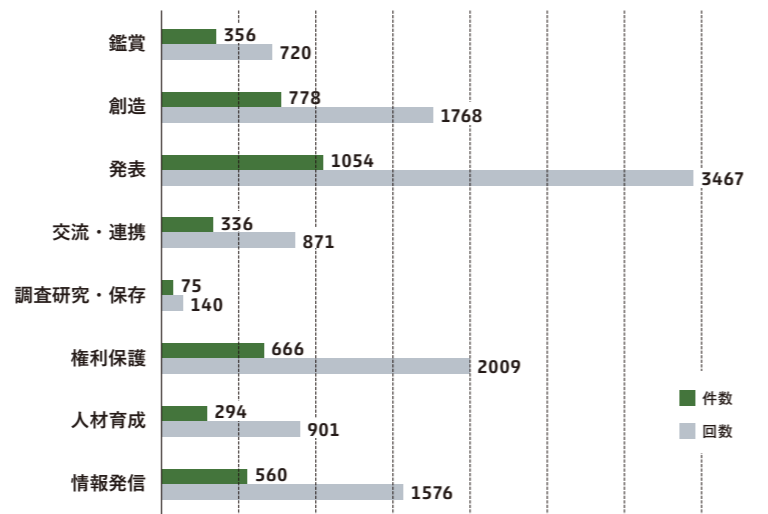
今年度の相談を相談者の属性でみると、「障害福祉関係者」が1,333件で3,539回と最も多く、次いで「障害者」1,117件で2,472回となっている〔図表5〕。なお、相談件数は寄せられた相談につき1件とカウントしている。また、相談回数は電話やメールなど相談対応ごとに1回とカウントしている。

〔図表5〕相談者属性別の相談件数・回数



今年度の相談の内容をみると、最も多かったのが「発表」に関する相談の1,054件で3,467回であった。件数では、次いで「創造」「権利保護」の順に多くなっている。回数では、次いで「権利保護」「情報発信」の順となっている【図表6】。

【図表6】相談内容別の相談件数・回数



美術企画

今年度の展覧会や創作ワークショップ等の美術企画への来場者は169,367人となった。企画に出展・参加した障害者

数は9,700人だった。コロナ禍の影響から着実に回復している様子が確認できる【図表7】。

【図表7】美術企画の来場者数、出展・参加した障害者数の推移（単位：人）

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
来場者数	173,468	48,464	116,691	118,390	169,367
障害者の出展者数	2,852	4,944	7,176	6,799	9,700

舞台芸術企画

今年度の舞台公演や身体表現のワークショップ等の舞台芸術企画への来場者は15,188人となった。企画に出展・

参加した障害者数は、1,255人だった【図表8】。

【図表8】舞台芸術企画の来場者数、出演・参加した障害者数の推移（単位：人）

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
来場者数	5,645	9,257	13,493	18,263	15,188
障害者の出演者数	1,218	1,065	653	956	1,255

研修会・講座等

今年度は、支援に必要な知識や技術、ノウハウを学ぶ講座や実践研修を277回実施し、参加者数は7,793人となった【図表9】。

【図表9】研修会・講座等の実施回数・参加者数の推移

	実施回数（単位：回）	参加者数（単位：人）
2019年度	197	4,501
2020年度	175	10,539
2021年度	253	8,950
2022年度	210	5,115
2023年度	277	7,793

情報発信

今年度のテレビ、新聞等のメディアへの掲載、ウェブサイトやSNS等に関する情報発信の取組としては、ウェブサイト投

稿数が3,249件、ウェブサイトアクセス数が1,173,013回、メディア掲載・報道数が433件となった【図表10】。

【図表10】ウェブサイト投稿数・アクセス数およびメディア掲載・報道数の推移

	ウェブサイト投稿数	ウェブサイトアクセス数	メディア掲載・報道数
2019年度	2,392	948,993	332
2020年度	2,756	1,072,695	393
2021年度	3,535	1,606,647	446
2022年度	3,278	811,120	462
2023年度	3,249	1,173,013	433

令和5年度
障害者芸術文化活動普及支援事業 報告書

2024年3月31日

企画・発行

令和5年度障害者芸術文化活動普及支援事業 連携事務局
<https://arts.mhlw.go.jp/>

特定非営利活動法人アートNPOリンク（美術分野）

〒220-0004

神奈川県横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル 地下1階

E-mail : info@arts-npo.org TEL : 045-325-0414

株式会社 precog（舞台芸術分野）

〒162-0801

東京都新宿区山吹町358番地 小磯大竹ビル202

E-mail : info@precog-jp.net TEL : 03-3528-9713

連携事務局

大澤 寅雄、小川 智紀

田中 真実、川那辺 香乃

（特定非営利活動法人アートNPOリンク）

中村 茜、大久保 玲子、兵藤 茉衣

星 菜里、今井 浩一

（株式会社 precog）

デザイン

岡本 健、仙次 織絵（okamoto tsuyoshi+）

編集

大谷 薫子、北沢 理美

印刷・製本

共進印刷

厚生労働省
「令和5年度障害者芸術文化活動普及支援事業」の
補助を受けて作成しました。

